Canon
キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター
全国共通電話番号　ナビダイヤル 0570-01-9000（商品該当番号：71）

受付時間：平日 9:00 〜 20：00
土･日･祝日 10:00 〜 17:00　（1 月1 日 〜 1月3日を除く）

お電話がつながりましたら、音声ガイダンスに沿って、商品該当番号＜71＞または「デジタルカメラ」とお話しください。
全国 64ヶ所の最寄りのアクセスポイントまでの通話料金でご利用になれます。
自動車電話・PHS をご利用の方、海外からご利用の方は、043-211-9556 をご利用ください。

※ 電話の回線状態等によっては、正しく音声認識できない場合があります。その場合は案内窓口におつなぎいたします。
※ 音声応答システム、受付時間、該当番号は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理サービスご相談窓口

付属の「修理サービスご相談窓口」（別紙）でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社	http://canon.jp/bebit/
キヤノン販売株式会社　デジタルカメラ製品情報	http://canon.jp/dc/
キヤノン販売株式会社　サポート	http://canon.jp/support/
CANON iMAGE GATEWAY	http://www.imagegateway.net/

CDI-J141-010　XXXXXXX

Canon　キヤノンデジタルカメラ　PowerShot G6　カメラユーザーガイド

CDI-J141

Canon

キヤノンデジタルカメラ
PowerShot G6
カメラユーザーガイド



CANON iMAGE GATEWAY　DiG!C

PictBridge　Exif Print　DPOF　DIRECT PRINT　BUBBLE JET DIRECT

● 最初に「ご使用の前に」（p. 5）をお読みください。
● ソフトウェアガイドやダイレクトプリントユーザーガイドもお読みください。

このカメラでできること

撮影

- シャッターを押すだけで簡単に撮影できるオート撮影、多彩な機能を活用できるシャッタースピード優先 AE、絞り優先 AE など、思いどおりの撮影が楽しめます。
- 静止画のほか、音声つきの動画も撮影できます。
- 露出補正、ホワイトバランス、色効果なども用途に合わせて変更できます。
- SI センサーを搭載しており、撮影した画像の縦横位置も自動的に判別します。
- 別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズやEOS用外付けストロボを装着して撮影できます。

再生

- 撮影した画像をその場ですぐに確認でき、必要なければすぐに削除できます。
- スライドショー機能で画像を自動的に再生できます。
- 動画を音声つきで再生できます。

編集

- 撮影した画像に、音声メモを記録できます。
- 記録した動画を編集できます。

印刷（プリント）

- カメラダイレクト対応プリンター（別売）に接続し、パソコンを使わずに手軽に高画質なプリントを得られます。
- 撮影した画像は、従来の写真と同様に、プリント取扱店でデジタルプリントできます。また、手軽にインターネットを通じてオンラインプリントもできます。
- このカメラは、標準規格「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応していますので、キヤノン製以外のプリンター（PictBridge対応）も接続でき、カメラからの簡単な操作でプリントできます。

撮影した画像の活用

- パソコンに画像を取り込んで、編集できます。
- 撮影した画像や音声は、カメラの起動画面や起動音、シャッター音として設定できます。
- インターネットを通じて、撮影した画像をアップロードして、オリジナルアルバムを作成できます。また、そのアルバムを友人やご家族にも公開できます。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。
本製品は、キヤノン純正のデジタルカメラ用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

ガイドの使いかた

以下のガイドもご覧ください。

カメラに付属

システムマップ
- 付属品・別売品の紹介
- 周辺機器との接続

クイックスタートガイド
- カメラの基本的な操作方法とボタンの説明
- ソフトウェアの基本的な操作方法

カメラユーザーガイド（本書）
- 準備、撮影、再生、消去の操作方法
- パソコンとの接続方法

ダイレクトプリントユーザーガイド
- プリンターとの接続方法とプリント方法

ソフトウェアクイックガイド
- 付属のCD-ROMに収められている各ソフトウェアの主な機能
- インストールに必要なパソコンのシステム構成
- ソフトウェアのインストール方法
- カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法

＊「Windows®XP、Mac OS Xをお使いの方へ」もご覧ください。

ZoomBrowser EX ソフトウェアガイド（Windows）/ ImageBrowser ソフトウェアガイド（Macintosh）
- ZoomBrowser EX（Windows）の詳細な使いかた
- ImageBrowser（Macintosh）の詳細な使いかた

修理サービスご相談窓口
- 修理に関するお問い合わせ先

プリンターユーザーガイド＊
- プリンターとカメラの接続方法
- ペーパーやインクカセットの入れかた
- プリンターやペーパー、インクカセットの取り扱い上のご注意

プリンタードライバユーザーガイド＊
- プリンタードライバのインストール方法
- プリンターとパソコンの接続方法
- パソコンからのプリント方法

＊ 別売のCPプリンターに付属。それ以外のプリンターをお使いのときは、各プリンターに付属の使用説明書をお読みください。

このガイドについて

表記について

見出しの下にあるマークは、この操作が行えるモードを表しています。この例では、撮影モードダイヤルがAUTO、、、、、P、Tv、Av、Mのときに、操作できます。

内蔵ストロボを使って撮る

モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

：カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

：知っておくと便利になること、参考になることを記載しています。

目次

☆のページは、このカメラの機能や操作をまとめて記載しています。

ご使用の前に

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、このカメラや CF カードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

液晶モニターについて

液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本文中の「本機器」とは、カメラおよびバッテリーチャージャー、別売のコンパクトパワーアダプターや、バッテリーチャージャー、カーバッテリーケーブルを指します。

⚠ **警告**	この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。
⚠ **注意**	この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

⚠	△記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は、注意事項を意味します。
⃠	⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します（左図：分解禁止）。
●	●記号は、必ず守っていただきたいことがらを示します。記号の中の図は指示内容を意味します。

⚠ 警告

- **カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。
- **ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。**目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- **本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。**お子様が誤って本機器やバッテリーを破損すると危険です。また、誤ってストラップを首に巻きつけると、窒息することがあります。

- **カメラに使用しているコイン電池は、特に幼児の手の届かないところに置いてください。**万一、幼児が電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。

- **本機器を分解、改造しないでください。**高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

- **落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。**さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。**火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ず、バッテリーを外し、差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源ケーブルの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。**そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。**カメラには防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のある柔らかい布で拭いてください。万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

- **お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。**火災の原因となります。

● **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。** ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。

● **電源コードに重いものを載せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。** 漏電して、火災、感電の原因になります。

● **濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。** 感電の原因になります。また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などでコードが傷つき、火災、感電の原因となります。

● **本機器専用以外の電源は使用しないでください。** 発熱、変形して、火災、感電の原因になります。

● **バッテリーを火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。また、水の中に入れたりしないでください。** バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがの原因になります。

● **バッテリーを分解、改造したり、加熱しないでください。** 破裂により、けがの原因となります。万一、バッテリーの電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

● **バッテリーを落とすなどして強い衝撃を与えないでください。** 外装が破損した場合、バッテリーの液漏れにより、けがの原因になります。

● **キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「+」と「−」の端子を接触（ショート）させないでください。** 発熱し、やけど、けがの原因となります。持ち運びや保存の際は、必ず付属の専用の端子カバーをつけてください。

● **バッテリーを廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。** 廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。

● **指定されたバッテリーパックとバッテリーチャージャーを使用してください。** それ以外のものを使用すると、バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーおよびコンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときはカメラと電源コンセントの両方から外してください。**長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。
- **別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズ、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。**緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。

磁気について

カメラのスピーカー（p. 11）に磁気の影響を受けやすいもの（クレジットカードなど）を近づけないでください。それらのデータがこわれて、使用できなくなることがあります。

⚠ 注意

- **直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。**バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となったり、機器外装が熱により変形することがあります。また、バッテリーチャージャーで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。
- **湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。**火災、感電、故障の原因になることがあります。
- **カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛かったり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。**けがや本体の故障の原因となることがあります。
- **ストロボの発光部分を手や布などで覆ったまま発光しないでください。**煙や音が出て、故障の原因になることがあります。また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因になることがあります。
- **ストロボ発光部分にゴミやほこりなど異物がついたまま発光しないでください。**発熱によりストロボ発光部分の損傷の原因になることがあります。

- **バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターは、必ず指定された電源コンセントを使用し、定格を超えて使用しないでください。**
  地域によって、電源プラグ部分が異なります。本書の「付録」をご覧ください。
- **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みが不十分なまま使用しないでください。**
- **電源プラグや充電端子部に金属製のピンやゴミを付着させないでください。**

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊をふせぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

■結露をふせぐために

カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。
カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れ、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

■結露が発生したときは

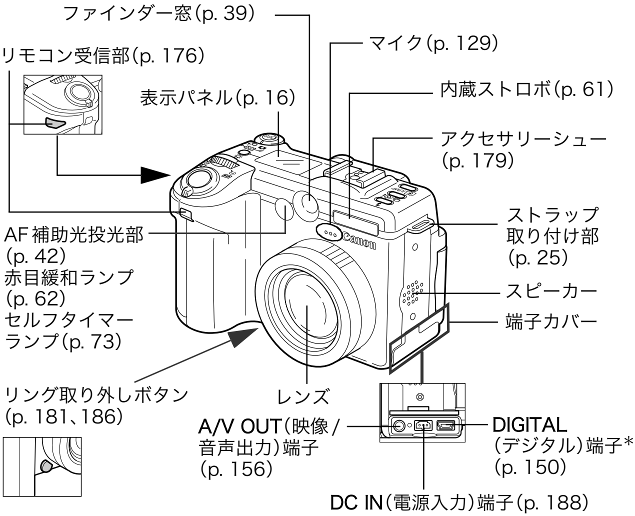
故障の原因になりますので、カメラをお使いにならないでください。CF カード、バッテリー、コンパクトパワーアダプターをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

■長期間使用しないときは

バッテリーをカメラやバッテリーチャージャーから取り出して、安全な場所に保存しておいてください。バッテリーを入れたままにしておくと、バッテリーが消耗します（コイン電池は取り外さないでください）。

各部の名称

前面



＊ カメラにパソコン、またはプリンターを接続するときに使用するケーブルは、以下のとおりです。

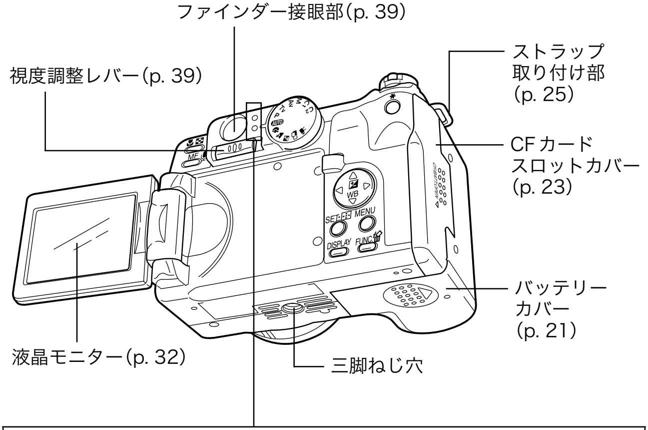
パソコン：インターフェースケーブル IFC-400PCU（カメラに付属）

カメラダイレクト対応プリンター（別売）：

- CP プリンター：インターフェースケーブル IFC-400PCU（カメラに付属）または、ダイレクトインターフェースケーブル DIF-100（CP-100/CP-10 に付属）
- バブルジェットプリンタ（PIXUS）
  - ・Bubble Jet ダイレクト対応プリンタ：バブルジェットプリンタの使用説明書でご確認ください。
  - ・PictBridge対応プリンタ：インターフェースケーブルIFC-400PCU（カメラに付属）
- キヤノン製以外の PictBridge 対応プリンター：インターフェースケーブル IFC-400PCU（カメラに付属）

このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについては、システムマップ、またはダイレクトプリントユーザーガイドでご確認ください。

背面 / 底面



●ランプ（上）
シャッターボタンを押したとき、または以下の動作中にランプが点灯、点滅します。

・緑点灯: 撮影準備完了
・緑点滅: CF カードへ記録中 /CF カードからの読み出し中 / CF カードからの消去中 / データ転送中（パソコン接続時）
・橙点灯: 撮影準備完了（ストロボ発光）
・橙点滅: 撮影準備完了（手ブレ警告 / 露出不足）

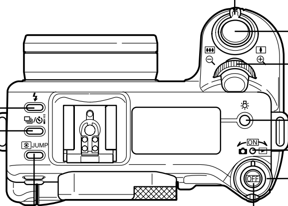
●ランプ（下）
・黄点灯: マクロ撮影 / スーパーマクロ撮影 / マニュアルフォーカス撮影
・黄点滅: ピントが合いにくいとき（黄点滅でもシャッターは押せますが、フォーカスロックやマニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影してください（p. 109、111）。）

操作部

上面

（ストロボ）ボタン（p. 61）

ズームレバー
撮影時：（望遠）/（広角）（p. 40）
再生時：（拡大）/（縮小）（p. 120）



シャッターボタン（p. 41）

電子ダイヤル（p. 15）

（バックライト）ボタン（p. 16）

電源 / モードランプ（p. 28）

モードレバー（p. 28）

（測光）/**JUMP** ボタン（p. 88、122）

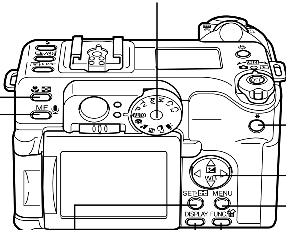
OFF ボタン（p. 30）

（連写）/（セルフタイマー/ ワイヤレスリモコン）ボタン（p. 73、75、176）

背面

（マクロ）/（インデックス）ボタン（p. 71、72、121）

モードダイヤル（p. 14）



（AE ロック /FE ロック）ボタン（p. 101、103）

十字ボタン（▲/（露出）、▼/**WB**（ホワイトバランス）、◀、▶）（p. 90、91）

MENU（メニュー）ボタン（p. 44）

FUNC.（ファンクション）/（1 画像消去）ボタン（p. 43、136）

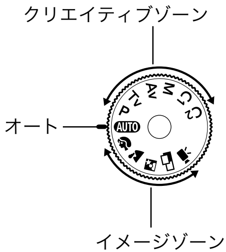
SET（セット）/（AF 枠選択）ボタン（p. 85）

DISPLAY（ディスプレイ）ボタン（p. 33）

MF（マニュアルフォーカス）/（マイク）ボタン（p. 110、111、129）

モードダイヤル

撮影モードを選択するときに使います。



AUTO：オート（p. 53）

カメラまかせの撮影ができます。

イメージゾーン

被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影ができます。

：ポートレート（p. 64）
：風景（p. 64）
：夜景（p. 65）
：スティッチアシスト（p. 66）
：動画（p. 69）

クリエイティブゾーン

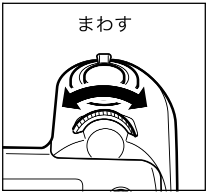
露出や絞りを変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P：プログラムAE（p. 77）
Tv：シャッタースピード優先AE(p. 79)
Av：絞り優先 AE（p. 82）
M：マニュアル露出（p. 84）
C1：カスタム 1（p. 114）
C2：カスタム 2（p. 114）

電子ダイヤル

特定のメニュー選択や画像表示などに使います。簡単に、しかも素早く、選択や確定、切り替えができます。

電子ダイヤルを回す



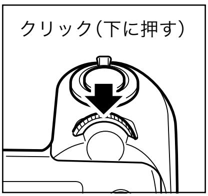
● 撮影のとき

- 絞り数値、シャッタースピードの選択（p. 79、82、84）
- **FUNC.** ボタンを押して設定するメニュー項目の選択（p. 43）
- 露出補正、ホワイトバランスの選択（p. 90、91）
- マニュアルフォーカス時のピント合わせ（p. 111）

● 再生のとき

- 前または後の画像表示（p. 119）

電子ダイヤルをクリックする

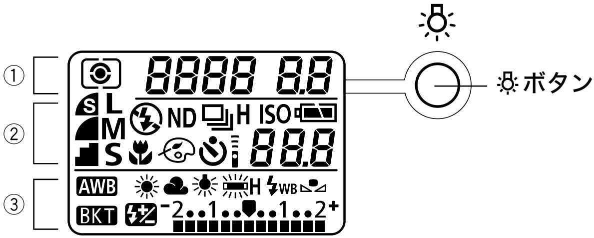


● 撮影のとき

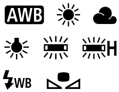
- **FUNC.** ボタンを押して設定するメニュー項目の確定（p. 43）
- **M** モード時、絞り数値とシャッタースピード選択の切り換え（p. 84）

表示パネル

カメラの設定状態や撮影可能画像数、撮影時間、バッテリー残量などが表示されます。撮影モード（p. 29）で ボタンを押すと、バックライトが約６秒間点灯します。点灯中にもう一度 ボタンを押すと消灯します。



	表示	内容	参照先
①	/ /	評価測光 / スポット測光 / 中央部重点平均測光	88
	8888	シャッタースピード / 動画撮影時間 / ホワイトバランス /ISO 感度 / 色効果 / ブラケット	69、79、84、91、94、95、97、99
	8.8	絞り数値	82、84
		AiAF 中央１点 AF	85
②		圧縮率	57
	L LM M MS S	記録画素数（無表示のとき：RAW 画像）	57
		ストロボ常時発光 / ストロボ発光禁止（無表示のとき：オート）	61
	ND	ND フィルター	115
	/ / H	シングル撮影 / 通常連続撮影 / 高速連続撮影	75
	ISO	ISO 感度	94
		バッテリー状態	22
		マクロモード＊	71

	表示	内容	参照先
		色効果	95
		セルフタイマー/ワイヤレスコントローラー	73、175
	88.8	撮影可能画像数 / メッセージコード / エラーコード / Int（インターバル撮影）/インターバル撮影の残り枚数	107、166
③		ホワイトバランス	91
	BKT	ブラケット撮影	97、99
		ストロボ調光補正 / ストロボ発光量調整	104
		露出補正レベル /AEB レベル / ストロボ調光補正レベル / ストロボ発光量調整レベル	90、97、104

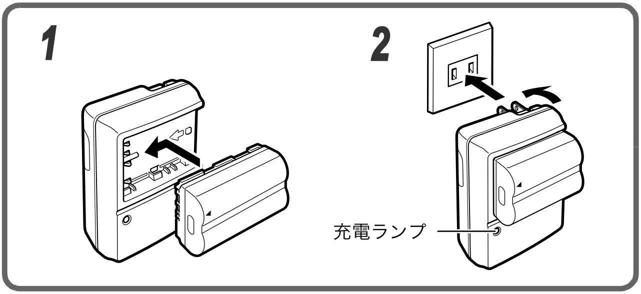
＊ スーパーマクロ撮影時には表示されません。スーパーマクロは液晶モニターのアイコンで確認してください（p. 72）。



● 表示例では、すべての情報を表示しています。実際には、カメラの操作により必要な情報のみ表示されます。

バッテリーを充電する

はじめてお使いになるときや、液晶モニターに「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示され、表示パネルにバッテリー残量低下アイコン（）と「Lb」が点灯したときは、次の方法でバッテリーパックBP-511Aを充電してください。



1 バッテリーチャージャーのガイドラインにバッテリーの先端を合わせて、矢印の方向に差し込む

2 バッテリーチャージャーの電源プラグを引き出し、コンセントに差し込む

- 充電中は充電ランプが点滅し、充電が完了すると点灯に変わります。
- 充電が終了したら、速やかにバッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り外してください。電源プラグは元に戻してください。

- このバッテリーは、リチウムイオン電池のため、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。いつでも充電できますが、規定充放電回数（寿命）は約 300 回（当社測定基準による）ですので、長くお使いになるためには、なるべく使い切ってから充電することをおすすめします。
- 完全に放電した状態から、約 90 分で充電できます。さらに約 1 時間で完全に充電されます（当社測定基準による）。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。
- 別売のバッテリーパック BP-511/BP-512/BP-514 もお使いになれます。
- 海外で使うとき（p. 191）

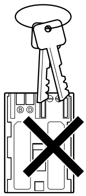
取り扱いについて

- バッテリー ⊕ ⊖ Ⓓ Ⓑ の端子は常にきれいにしておいてください。汚れていると、接触不良の原因となります。充電や使用する前に、ティッシュペーパーなどで乾拭きしてください。
- テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
- バッテリーパック BP-511A、BP-511、BP-512、BP-514 以外のバッテリーは充電しないでください。故障の原因となることがあります。
- バッテリーをカメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、お使いにならなくても微少の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因になります。カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。
- 湿度の低い室温（0 ～ 30℃）で保管してください。

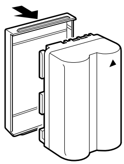
バッテリーを充電する（つづき）

- キーホルダーなどの金属でバッテリーの「⊕」と「⊖」の端子を接触させると（図A)、バッテリーパックの破損の原因になることがあります。バッテリーを持ち運ぶときや、お使いにならないときは、必ず端子カバーを取り付けてください（図B)。
  BP-511AまたはBP-514をお使いの場合、端子カバーの取り付けかたによって、バッテリーの充電状態を確認することができます（図C、D)。再びお使いになるときには、必ずフル充電してからお使いください。

A

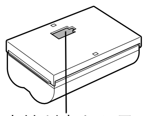


B



C

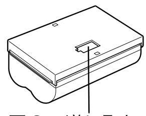
充電済
バッテリー



青地が窓から見えるように取り付けます。

D

使い切った
バッテリー



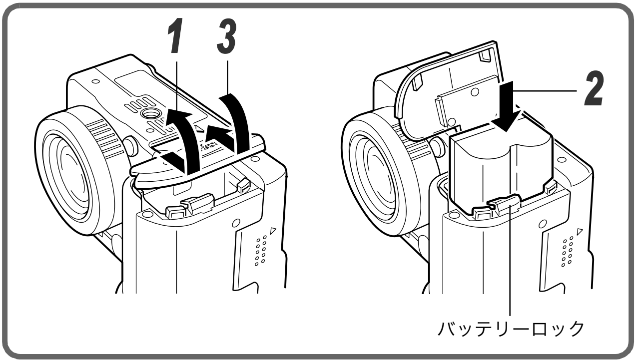
図Cの逆に取り付けます。

- 充電しておいたバッテリーも、少しずつ自然に放電しています。使用する当日または前日にフル充電することをおすすめします。
- フル充電の状態で長期間（1年くらい）保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがありますので、カメラで「Lb」が表示されるまで使い切ってから30℃以下で保管することをおすすめします。また長期間使用しないときは、1年に1回程度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。
- 電源を入れていると、機能を使わなくてもバッテリーは消耗します。こまめに電源を切ることが、使用時間を長くさせるコツです。
- バッテリーは、0〜40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには、10〜30℃で使用することをおすすめします。スキー場などの寒冷地では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなります。
- 規定の充電をしたにも関わらず、著しく使用できる時間が低下するときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れる

付属のバッテリーパック BP-511A をカメラに入れます。
長時間お使いになるときは、別売のコンパクトパワーアダプター CA-560 をお使いになることをおすすめします（p. 188）。

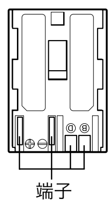
- はじめてお使いになるときはバッテリーを充電してください（p. 18）。



1 電源が切れていることを確認し（p. 30）、バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

2 バッテリーパックを押し込む

- バッテリーパックは端子側を下にして挿入してください。
- バッテリーがロックされるまで押し込んでください。バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックを押して取り出します。



3 バッテリーカバーを倒して元の位置に戻す

- ファインダー接眼部横のランプが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録/読み出し中/消去中、またはデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データが壊れることがあります。
  - ・カメラ本体に振動や衝撃を与える。
  - ・カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーやCFカードスロットカバーを開ける。
- カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。

- バッテリー性能について (p. 198)

バッテリーの状態について

バッテリーの残量によって表示パネルに以下のアイコンが表示されます。ただし、コンパクトパワーアダプターをお使いの場合は表示されません。

	:バッテリーの容量は十分です。
	:残量が少なくなっています。
	:バッテリーを交換または充電してください。

Li-ion

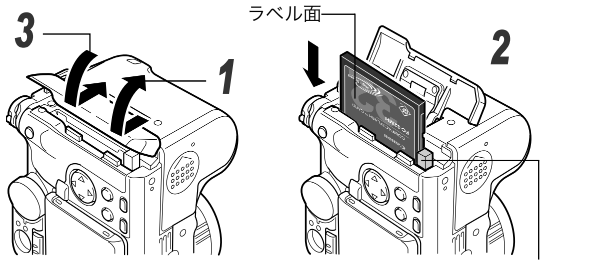
- ・この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- ・このリチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- ・このリチウムイオン電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンのホームページで確認できます。
  キヤノンサポートページ canon.jp/support
- ・交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、ポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- ・リサイクル協力店のお問い合わせは、以下へお願いします。
- ・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  (社)電池工業会 小形二次電池再資源化推進センター
  及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局*

* (社)電池工業会　　電話番号　03-3434-0261

リサイクル時のご注意
・電池を分解しないでください。

CFカードを入れる

付属のCFカードをカメラに入れます。



1 **電源が切れていることを確認し（p. 30）、CFカードスロットカバーを矢印の方向にスライドさせて開く**

2 **図のように、CFカードを差し込む**

- CFカード取り出しボタンが飛び出すまで、しっかりと差し込んでください。CFカードを取り出すときは、このボタンを押して取り出します。

3 **CFカードスロットカバーを倒して元の位置に戻す**

- ファインダー接眼部横のランプが緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録/読み出し中/消去中、またはデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データが壊れることがあります。
  - ・カメラ本体に振動や衝撃を与える。
  - ・カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーやCFカードスロットカバーを開ける。
- このカメラで初期化したCFカードをお使いになることをおすすめします（p. 137）。付属のCFカードは、そのままお使いになれます。

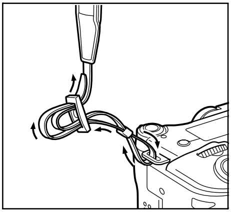
●CFカードの種類と記録画像数の目安について（p. 199）

CFカードの取り扱いについて

- CFカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- CFカードを分解したり、改造しないでください。
- 温度差の大きな場所へ急に移動すると、CFカードに水滴がつき（結露）、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてからお使いください。
  結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
- CFカードを保管するときは、専用のケースに入れてください。
- CFカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
  ・ほこりや砂ぼこりの立つ場所
  ・高温多湿の場所

マイクロドライブは、ハードディスクを使用した記録媒体であり、大容量な上に、1MBあたりの単価が安いという利点があります。しかし、フラッシュメモリーを搭載したCFカードに比べると振動や衝撃に弱いので、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を加えないよう、十分にご注意ください。

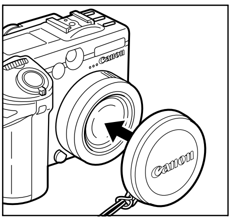
ネックストラップを取り付ける



図のようにストラップを取り付けます。ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。もう一方のストラップ取り付け部にも、同じようにストラップを取り付けます(p. 11)。

- カメラをネックストラップで下げているときは、振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

レンズキャップを取り付ける



レンズキャップをレンズにかぶせるように取り付けます。カメラの使用後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。

- レンズキャップのひもは、ストラップに取り付けます。
- カメラの電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。

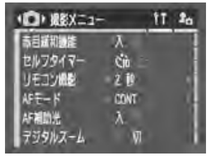
日付 / 時刻を設定する

はじめてカメラの電源を入れたとき、または、コイン型リチウム電池の容量がなくなったときは、日付 / 時刻の設定画面が表示されます。手順 5 から操作してください。

1 電源を入れる（p. 28）

2 MENU ボタンを押す

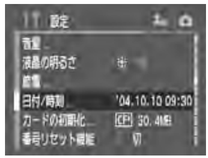
● [(撮影)] メニューまたは [(再生)] メニューが表示されます。



画面はオートモードの
[(撮影)] メニューです。

3 十字ボタンの ▶ で［ (設定)］メニューを選ぶ

● **JUMP** ボタンやズームレバーを押しても、メニューの切り換えができます。



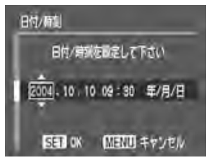
4 十字ボタンの ▲▼ で［日付 / 時刻］を選び、SET ボタンを押す

5 日付と時刻を設定する

● 十字ボタンの ◀▶ で、設定したい項目を選びます。

● 十字ボタンの ▲▼ で、設定内容を変更します。

● 2030 年まで設定できます。



6 SET ボタンを押す

● 設定後、**MENU** ボタンを押して操作を終了します。

● 日付/時刻を設定しても、画像自体に日付/時刻を入れることはできません。日付を入れてプリントしたいときは、ダイレクトプリントユーザーガイドやソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

● コイン型リチウム電池を交換する（p. 190）。

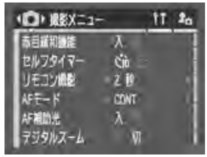
言語を設定する

メニューやメッセージの表示言語を設定します。

1 **電源を入れる**（p. 28）

2 **MENU ボタンを押す**

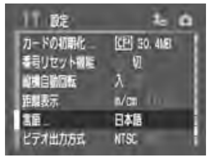
- ［ (撮影)］メニューまたは［ (再生)］メニューが表示されます。



画面はオートモードの
［ (撮影)］メニューです。

3 **十字ボタンの ▶ で［ (設定)］メニューを選ぶ**

- **JUMP** ボタンやズームレバーを押しても、メニューの切り換えができます。



4 **十字ボタンの ▲▼ で［言語］を選び、SET ボタンを押す**

5 **十字ボタンの ▲▼ または ◀▶ で言語を選ぶ**



6 **SET ボタンを押す**

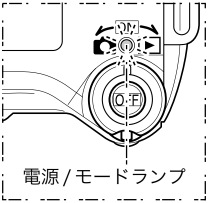
- 設定後、**MENU** ボタンを押して操作を終了します。

- カメラが再生モードのときは、**SET** ボタンを押しながら **JUMP** ボタンを押しても、言語を変更することができます（動画再生時、または別売のプリンター接続時は設定できません）。

基本操作

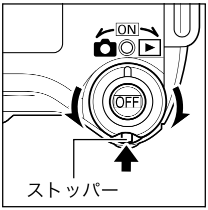
電源を入れる / 切る

カメラに電源が入っていると、電源 / モードランプが点灯します。このランプでカメラの状態が分かります。



橙点灯　：撮影モード
緑点灯　：再生 / プリンター接続モード*
黄点灯　：パソコン接続モード*
消灯　　：電源切

* プリンター接続モードについては、ダイレクトプリントユーザーガイドを、パソコン接続モードについては、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。



モードレバー

電源を入れるときに使用します。
このレバーは、図のように、ストッパーを押しながら操作してください。ストッパーを押さないと動きません。またはで電源が入ったら指を放してください。モードレバーは元の位置（中央位置）に戻ります。

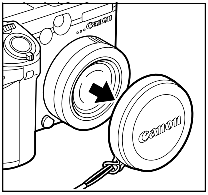
- 電源を入れると、起動音が鳴り、液晶モニターに起動画面が表示されます（起動音、起動画面を変更する（p. 51、157））。
- 撮影モード時に液晶モニターが非表示になっているときや、カメラのA/V OUT端子をテレビ等に接続しているときは、起動画面は表示されません。

起動画面と起動音を消して電源を入れるには

ボタンを押しながら、電源を入れます。または、液晶モニターを閉じたまま電源を入れます。

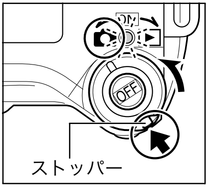
撮影モードで電源を入れる

1



レンズキャップを外す

2



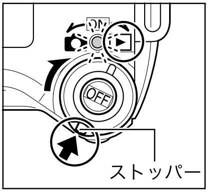
ストッパーを押しながらモードレバーを（撮影）側に回す

- 電源 / モードランプが橙色に点灯します。
- 必要に応じて液晶モニターを開きます（p. 32）。

- レンズキャップを付けたまま電源を入れると、表示パネルに「LENS」と表示され、警告音が鳴ります。その場合は、レンズキャップを外し、一度電源を切ってから、再度電源を入れてください。
- 撮影時は、レンズを触らないように注意してください。また、レンズを指で押さえるなど無理な力をかけないようにご注意ください。動作不良や故障の原因となります。その場合は、一度電源を切ってから、再度電源を入れてください。

再生モードで電源を入れる

1

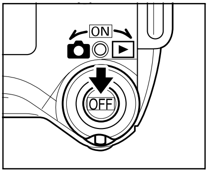


液晶モニターを開き、ストッパーを押しながらモードレバーを▶（再生）側に回す

- 電源/モードランプが緑色に点灯し、表示パネルにPbが表示されます。

電源を切る

1



OFF ボタンを押す

● 電源が切れます。

節電機能について

カメラには節電機能がついています。節電機能が [入] のとき、節電機能が働いて電源が切れたときは、モードレバーを 📷 または ▶ 側に回すと復帰します。

撮影時：約 3 分間、何も操作しないと電源が切れます。
また、約 1 分間*何も操作しないと、液晶モニターが消えます。このとき、モードレバー以外のいずれかのボタンを押すと、再び液晶モニターがつきます。

* 時間を変更することができます（p. 49）。

再生時：約 5 分間、何も操作しないと電源が切れます。

プリンター接続時：約 5 分間、カメラの操作を何もしないと、電源が切れます。

- 節電機能が働いて電源が切れても、微量の電力が消費されますのでご注意ください。
- スライドショーで自動再生中、およびパソコン接続時は、節電機能は働きません（p. 131、147）。
- 設定メニューで節電機能を無効にすることもできます（p. 49）。

撮影 / 再生を切り換える

撮影モードと再生モードを素早く切り換えることができます。撮影直後に画像を確認したり、消去したりすることができ、またすぐに撮影に戻ることができるので便利です。

● 撮影モード➡再生モード

液晶モニターを開き、ストッパーを押しながらモードレバーを ▶（再生）側に回します（p. 29）。

- 再生モードになりますが、レンズは収納されません（もう一度モードレバーを ▶（再生）側に回すとレンズが収納されます。）。

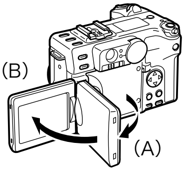
● 再生モード➡撮影モード

レンズキャップを外し、シャッターボタンを半押しします。
または、ストッパーを押しながらモードレバーを 📷（撮影）側に回します（p. 29）。

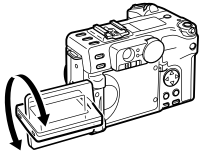
液晶モニターの使いかた

液晶モニターは次のようなときに使います。

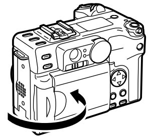
- 画像を確認しながら撮影する
- 撮影した画像を再生する
- メニュー操作を行う



90度(A)の位置でいったんロックし、さらに180度(B)の位置まで開くことができます。



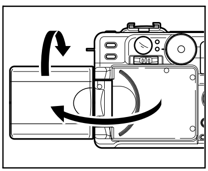
レンズ側に180度、手前側に90度回転します。



液晶モニターを内側にしてカチッと音がするまで閉じると、液晶モニターは消灯します。
液晶モニターの保護のため、カメラを使わないときは必ずこの状態にしてください。

次のように回転することもできます。

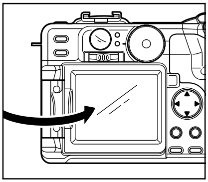
1



液晶モニターを180度開き、外側に180度回転させる

- この状態のときは、アイコンやメッセージは液晶モニターに表示されません。
- レンズ側から液晶モニターを見て撮影できるように、画像が鏡像（左右反転）で表示されます（鏡像の設定を切ることができます（p. 47））。

2



液晶モニターを閉じる

- カチッと音がするまで液晶モニターを閉じてください。きちんと押し込まれていないと、画像が鏡像で表示され、アイコンやメッセージが表示されません。
- 液晶モニターを閉じると、アイコンやメッセージが表示されるようになり、画像の左右が正しくなります。

- 再生モードのときは、画像は鏡像で表示されません。また、アイコンやメッセージは常に表示されます。

表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押すと、液晶モニターの切り換えができます。

● 撮影モードのとき

DISPLAY ボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

液晶モニター表示（情報表示なし）→ 液晶モニター表示（情報表示あり）* → 液晶モニター非表示 → 液晶モニター表示（情報表示なし）

* 液晶モニターの位置によっては、情報が表示されないことがあります。

- 撮影直後は、液晶モニターに画像が表示されている間に **SET** ボタンか ✱ ボタンを押し、続けて **DISPLAY** ボタンを押すと、再生時と同様に撮影した画像の詳細表示を確認できます。
- 液晶モニター表示（情報表示なし）/ 液晶モニター表示（情報表示あり）/ 液晶モニター非表示の設定は、カメラの電源を切っても記憶され、次回電源を入れたとき、直前の状態で使用できます。ただし、液晶モニターをつけて撮影しているとき、バッテリー残量低下アイコン（▭）が表示された場合は、次回電源を入れたときに液晶モニターが表示されないことがあります。
- モードダイヤルを ⧉ や 🎥 にしたときは、設定に関わらず、液晶モニターがつきます。

● 再生モードのとき

DISPLAY ボタンを押すたびに、情報表示の切り換えができます。

シングル再生(p. 119):簡易表示 → 詳細表示 → 情報表示なし → (簡易表示に戻る)

インデックス再生(p. 121):簡易表示 ↔ 情報表示なし

液晶モニターで情報を確認する

液晶モニターに表示される情報

撮影や再生時、カメラの設定状態や撮影可能画像数、撮影日時などが表示されます。

● 撮影モードのとき

液晶モニター表示（情報表示なし）でも、撮影の設定を変更した場合などは、情報が約６秒表示されます（その時のカメラの設定内容によって表示されないこともあります）。

- 撮影準備完了時に、手ブレ警告アイコン（）が液晶モニターに表示された場合は、光量不足でシャッタースピードが遅くなっているなどの理由が考えられます。ストロボをまたはにするか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

- シャッターボタンを押して撮影を終了した直後、約2秒間（確認時間（2 ～ 10 秒）を変更した場合は、その秒数）撮影した画像が表示されます。画像表示中に **SET** ボタンまたはボタンを押すと、表示され続けます（p. 55）。
- 撮影した画像が表示されているとき、画像の明るさを判断するためのグラフ（「ヒストグラム」（p. 38））やその他の情報が表示され、画像の明るさを確認できます。必要であれば、露出を補正するなどして、撮り直してください（ヒストグラムが表示されないときは、**DISPLAY** ボタンを押してください）。

液晶モニターで情報を確認する（つづき）

情報表示のときは、次の情報が表示されます。



-2･･･+2	露出補正	p. 90
	ホワイトバランス（WB）	p. 91
	ドライブモード	p. 73/75
ISO 50 ISO 100 ISO 200 ISO 400	ISO感度	p. 94
	色効果	p. 95
	ブラケット	p. 97/99
	ストロボ調光補正 / ストロボ発光量	p. 104
	圧縮率	p. 57
L M1 M2 M3 S 640 320 160	記録画素数	p. 57
RAW	記録形式	p. 59
4.0x 4.7x 6.0x 7.7x 9.6x 12x 16x	ズーム倍率*	p. 74
	バッテリー残量低下	p. 22
	ストロボ	p. 61
	赤目緩和	p. 62
	マクロ撮影 / スーパーマクロ撮影	p. 71/72
	測光方式	p. 88
	縦横自動回転	p. 116
AUTO P Tv Av M C1 C2	撮影モード	p. 14
ND	NDフィルター	p. 115
	手ブレ警告	p. 35
	AEロック /FEロック	p. 101/103
MF	マニュアルフォーカス	p. 110/111
●（赤）	動画撮影	p. 69

* 光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。デジタルズーム時に表示されます（「4.0x」は、光学ズームのテレ端です。）。

・ と のアイコンは、情報表示なしのときも表示されます。
・ これら以外に上図のように、メッセージ、AF枠、スポット測光枠、シャッタースピード、絞り数値、MFインジケーター（マニュアルフォーカス時）、ズームバー（ズーム操作時）が表示されます。

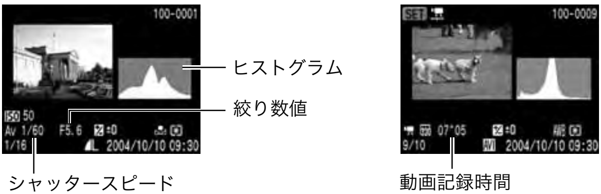
● 再生モードのとき

簡易表示では、次の情報が表示されます。



	圧縮率	p. 57
L M1 M2 M3 S	記録画素数（静止画）	p. 57
RAW	記録形式	p. 59
	WAVE 形式の音声メモ	p. 129
AVI	動画	p. 123
	プロテクト情報	p. 135

詳細表示では、さらに次の情報が表示されます。



ISO 50 100 200 400	ISO 感度	p. 94
V N LS S BW C	色効果	p. 95
AUTO P Tv Av M	撮影モード	p. 14
640 320 160	記録画素数（動画）	p. 57
-2… ±0 …+2	露出補正	p. 90
-2… ±0 …+2	ストロボ調光補正	p. 104
AWB	ホワイトバランス	p. 91
	測光方式	p. 88
	マクロ／スーパーマクロ	p. 71/72
MF	マニュアルフォーカス	p. 110/111

・これら以外に上図のように、シャッタースピード、絞り数値、動画記録時間、ヒストグラム、高輝度警告が表示されます。

液晶モニターで情報を確認する（つづき）

画像によっては、以下の情報を表示することがあります。

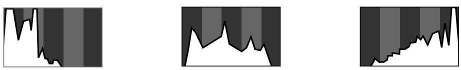
♪?	WAVEファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルがついています。
⚠	DCF（p. 195）の規格と異なる構造を持つJPEGファイルです。
?	認識できない形式のファイルです。

- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、あるいは他のカメラで撮影した画像を、このカメラで再生する場合、情報を正しく表示できないことがあります。

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、撮影した画像の明るさを判断するためのグラフです。グラフが左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。
暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正し、明るいときは、マイナス側に補正して撮影します（p. 90）。

ヒストグラム例



暗い画像　　普通の明るさの画像　　明るい画像

高輝度警告について

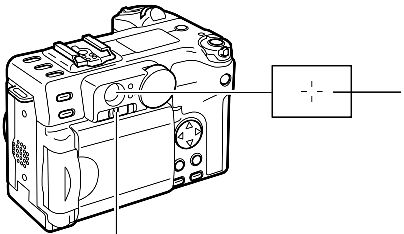
以下のとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。
・撮影直後に、液晶モニター（情報表示あり）で画像を確認したとき
・再生モードで詳細表示にしたとき

ファインダーを使って撮る

液晶モニターを非表示にし、ファインダーを使って撮影すると、消費電力を抑えることができます。

- ファインダーから被写体がはっきり見えるように、視度調整レバーで調整してください。－３～＋1m^{-1}（ディオプトリ相当）の範囲で調整できます。
- ファインダーの視野率*は、約80%です。

* 実際に撮影される範囲に対して、ファインダーで確認できる範囲の比率です。

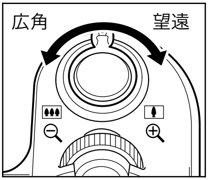


ファインダーで見える範囲と撮影範囲の違いについて
ファインダーを使って撮影するときは、ファインダーの特性上、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にズレ（パララックス）が生じます。特に被写体の距離が近い場合には、パララックスが大きくなり、ファインダーで見える範囲でも撮影されない場合があります。マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影してください。

AF枠を選択しているとき
AF枠を任意の位置に設定して撮影するときは、液晶モニターをつけてください。（p. 86）

ズームを調節する

35mm フィルム換算で、35～140mm の範囲で画角を調節できます。



望遠 / 広角

ズームレバーを 側に押すと、被写体を大きく写します（望遠）。
側に押すと、被写体を小さく写します（広角）。ズーム操作中は、ズームバーが表示されます。

ズームバー



デジタルズーム

光学ズームと合わせて、最大約 16 倍に拡大して撮影できます（p. 74）。
ズームレバー操作後に、倍率が表示されます。

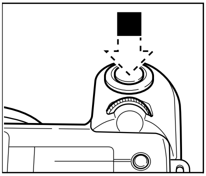


- モードによっては、デジタルズームが使えないことがあります（p. 206）。

- デジタルズームは、拡大するほど画像が粗くなります。

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは、半押しと全押しの２段階で動作します。



● 半押しー浅く押したとき

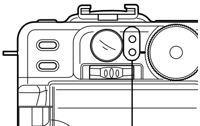
露出、フォーカスを自動設定します。

● ランプで設定状態がわかります。

ランプ（上）
- 緑点灯：撮影準備完了（電子音が２回鳴ります。）
- 橙点灯：ストロボ発光
- 橙点滅：手ブレ警告 / 露出不足

ランプ（下）
- 黄点灯：マクロ撮影 / スーパーマクロ撮影 / マニュアルフォーカス撮影
- 黄点滅：ピントが合いにくいとき*（電子音が１回鳴ります。）

* 黄点滅したときは、フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影してください。（p. 109、111）



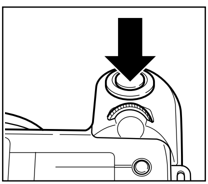
ランプ



AF 枠

● AF 枠は、次のようになります。（液晶モニターがついているとき）
- 緑色：撮影準備完了
- 黄色：ピントが合いにくいとき*

* AF 枠がオート選択（AiAF）のときは、表示されません（p. 85）。



● 全押しー深く押したとき

撮影します。

● CF カードに記録中は、ランプが緑色に点滅します。

● 撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。シャッター音が鳴るまでカメラを動かさないでください。

シャッターボタンの押しかた（つづき）

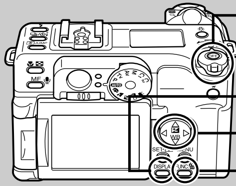
- シャッターボタンを半押ししたときに、 が表示されたり、AF 枠が黄色で表示されたり、橙色、または黄色のランプが点滅したりしていても、そのまま全押しして撮影できます。
- 撮影した画像は、いったん内部メモリーに保存され、順次 CF カードに書き込まれていきます。内部メモリーに空きがある間は、撮影後、すぐに次の撮影ができます。
- 電子音、シャッター音は、設定メニューの［消音］で［入 / 切］を設定できます（p. 49）。
- シャッター音を［切］以外にしていても、消音を［入］に設定している場合は、音は鳴りません。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。
- ストロボ充電中は撮影できません。

AF 補助光について

- 暗い場所などでシャッターボタンを半押ししたとき、ピントを合わせやすくするために、AF 補助光投光部が光ることがあります。
- AF 補助光を切ることもできます（p. 47）。
  例えば、暗い場所で動物を撮るときなど、AF 補助光で動物を驚かせて逃がすことなく撮影できます。ただし、以下のことに注意してください。
  ・AF 補助光を切ると、暗い場所などでピントが合いにくくなることがある
  ・AF 補助光を切っても、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが光ることがある
  ストロボが発光する前に何も光らないようにするためには、撮影メニューの赤目緩和機能と AF 補助光を［切］にしてください。

メニューの選択と設定のしかた

● FUNC. ボタンを押して設定する（撮影モードのとき）



1 モードレバーを 📷 側に回す
2 DISPLAY ボタンを押して、液晶モニターをつける
3 FUNC. ボタンを押す
4 十字ボタンの ▲▼ でファンクション項目を選ぶ
5 十字ボタンの ◀▶ で設定したい内容を選ぶ
6 FUNC. ボタンを押す

2 DISPLAY

3 FUNC.

4 で項目選択　　**5** で設定内容選択

ISO 感度 [ISO 50] (p. 94)



色効果 [OFF] (p. 95)



ブラケット [OFF] (p. 97、99)



ストロボ調光補正 (p. 104)

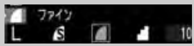


または

ストロボ発光量 (p. 104)



圧縮率 [◢] (p. 57)



記録画素数 [L]/ 記録形式 (p. 57、59)



または

記録画素数・動画 [320] (p. 57)



[　] は初期設定値

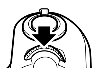
6 FUNC.

5と6は電子ダイヤルでも設定できます。

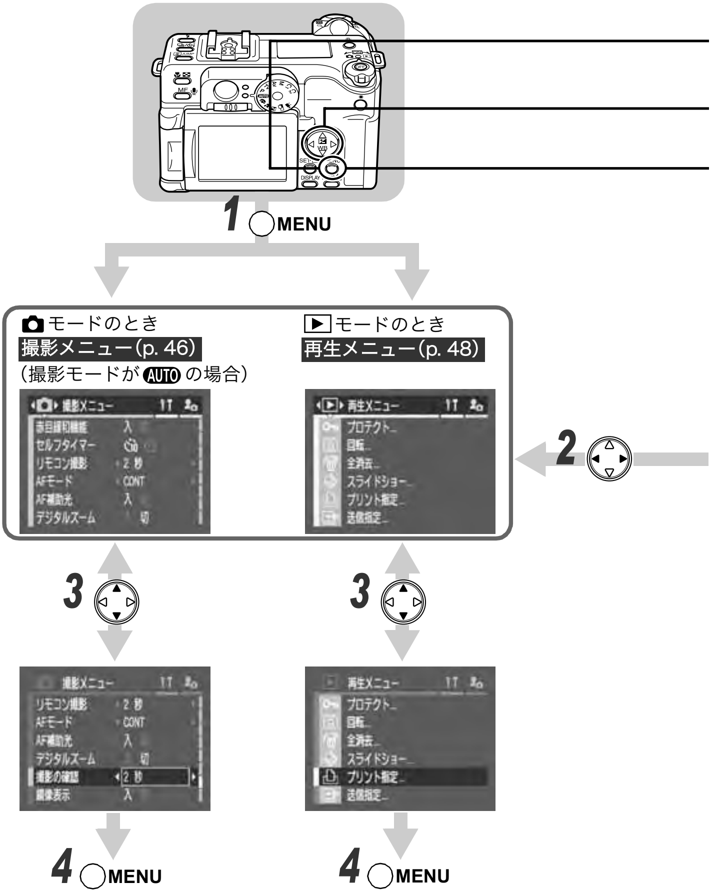
5 回す



6 クリック



● MENUボタンを押して設定する



1 MENU ボタンを押す

2 十字ボタンの ◀▶ でメニューを切り換える

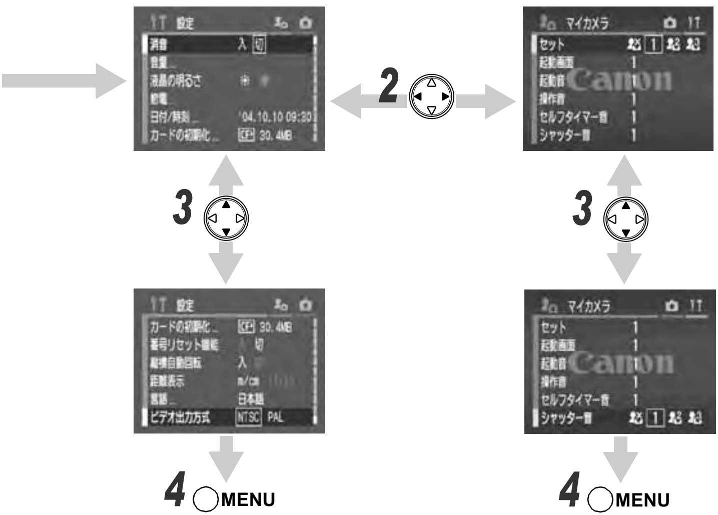
3 十字ボタンの ▲▼ でメニュー項目を選び、◀▶ で設定したい内容を選ぶ

4 MENU ボタンを押す

- ２は **JUMP** ボタンやズームレバーでも操作できます。
- 電子ダイヤルでは設定できません。
- 「...」のある項目では、**SET** ボタンを押して次のメニューを表示してから設定します。設定後、再度ボタンを押して設定内容を確定します。
- 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます（再生モードのときにシャッターボタンを半押しすると、メニューが終了し、撮影モードになります。）。

設定メニュー（p. 49）

マイカメラメニュー（p. 51、157）



- 表示されるメニュー項目は、撮影モードや設定内容によって変わります（p. 206）。
- マイカメラメニューの設定内容［2］と［3］には、好きな画面や音を登録できます。詳しくは「マイカメラコンテンツを新規登録する」（p. 159）、またはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
- ［日付 / 時刻］、［言語］、［ビデオ出力方式］以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を初期設定に戻すことができます（p. 52）。

MENU ボタンで設定できる項目と初期設定

各メニューで設定できる項目と初期設定は、次の通りです。

● 撮影メニュー

メニュー項目	設定内容	参照先
ストロボ発光	ストロボ発光のタイミングを設定します。 **先幕* / 後幕**	106
スローシンクロ	遅いシャッタースピードでストロボ発光するかしないかを設定します。 **入 / 切***	62
ストロボ自動調光	ストロボの自動調光をするかしないかを設定します。 **入* / 切**	104
赤目緩和機能	ストロボ発光のとき、赤目緩和ランプを発光するかしないかを設定します。 **入* / 切**	62
連続撮影方式	連続撮影のとき、画像を確認しながら撮影するか、確認無しで高速撮影するかを設定します。 *****（通常連続撮影） / （高速連続撮影）**	75
セルフタイマー	セルフタイマー撮影のとき、シャッターボタンを押してから撮影されるまでの時間を設定します。 **10秒* / 2秒**	73

＊ 初期設定

メニュー項目	設定内容	参照先
リモコン撮影	リモコンのシャッターボタンを押してから撮影されるまでの時間を設定します。 0秒 / 2秒* / 10秒	175
スポット測光枠	測光方式で［スポット測光］を選んだときに、測光を中央枠内に固定するか、選択されたAF枠内にするかを選びます。 中央固定* / AF枠連動	88
NDフィルター	NDフィルターを設定します。 入 / 切*	115
セーフティシフト	**Tv**または**Av**で、設定されたシャッタースピード・絞り数値では適正露出にならないとき、カメラが自動的に設定値を調節します。 入 / 切*	83
MF拡大表示	マニュアルフォーカスのとき、拡大表示するかしないかを設定します。 入* / 切	111
AFモード	常にピントを被写体に合わせるか、シャッターボタンを半押ししたときだけ合わせるかを設定します。 CONT* / SINGLE	113
AF補助光	AFのときに、必要に応じてAF補助光の発光を設定します。 入* / 切	42
デジタルズーム	光学ズームと合わせて拡大するかしないかを設定します。 入 / 切*	74
撮影の確認	撮影してシャッターボタンを放したあと、撮影した画像を液晶モニターに表示する時間を設定します。 切 / 2秒*～10秒	55
鏡像表示	液晶モニターを180度回転させたとき、画像を鏡のように反転させて表示するかしないかを設定します。 入* / 切	32

メニュー項目	設定内容	参照先
RAW内JPEG記録	RAW形式のファイルに内蔵されるJPEG形式の確認用（サムネイル）画像の記録画素数を選べます。カメラでRAW形式の画像を拡大表示して、ピントや手ブレを確認するときに便利です。**L**に設定すると、より詳細にピントを確認できます。 L / M1 / M2 / M3 / S* ●設定した記録画素数によって、ファイル容量が変わります。	60
インターバル撮影	一定の間隔で自動的に撮影します。 ２枚*～100枚 １分*～60分	107
カスタム登録	撮影メニュー、ファンクションメニューで設定した内容を、モードダイヤルのC1、C2に登録します。	114

* 初期設定

● ▶再生メニュー

メニュー項目	設定内容	参照先
プロテクト	画像を消去できないように、プロテクト（保護）を設定します。	135
回転	時計方向に90度、270度に回転して画像を表示します。	127
全消去	CFカードに記録されている画像をすべて消去します（プロテクトされている画像を除く）。	136
スライドショー	記録した画像を自動再生します。	131
プリント指定	画像をカメラダイレクト対応プリンターまたはプリント取り扱い店でプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	140
送信指定	パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラで指定します。	145

* 初期設定

● 設定メニュー

メニュー項目		設定内容	参照先
消音		起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を一度に消すときは、［入］に設定します。 **入 / 切*** ●［消音］を［入］にすると、マイカメラメニューの音の各設定が［1 2 3（入）］になっていても音は鳴りません。 ●警告音は［消音］を［入］にしていても鳴ります。 ●電子ダイヤルは、設定に関わらず、クリックしても鳴りません。	42、130、158
音量	①起動音量	カメラ起動時の音量を調節します。	28、51
	②操作音量	シャッター以外のボタンを操作したときの音量を調節します。	51
	③セルフタイマー音	撮影２秒前から撮影までのセルフタイマー音を調節します。	51、73
	④シャッター音量	シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。	41、51
	⑤再生音量	動画再生時、または音声メモの音量を調節します。	123、129、130
	①〜⑤の設定内容	切 1 2* 3 4 5	
液晶の明るさ		液晶モニターの明るさを設定します。 **（標準）* / （明るい）**	—
節電	オートパワーオフ	一定時間カメラの操作をしないときに、自動的に電源を切るかどうかを設定します。 **入* / 切**	30
	ディスプレイオフ	カメラの操作をしないときに自動的に液晶モニターの表示を切る時間を設定します **10秒 / 20秒 / 30秒 / 1分* / 2分 / 3分**	30
日付 / 時刻		日付、時刻、日付スタイルを設定します。	26
カードの初期化		CF カードを初期化します。	137
番号リセット機能		ファイル番号の付けかたを設定します。 **入 / 切***	117
縦横自動回転		縦位置で撮影した画像を、自動的に横に回転して表示するかしないかを設定します。 **入* / 切**	116

メニュー項目	設定内容	参照先
距離表示	MF インジケーターの距離表示の単位を設定します。 m/cm＊または、ft/in	111、112
言語	液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 ・English（英語） ・Deutsch（ドイツ語） ・Français（フランス語） ・Nederlands（オランダ語） ・Dansk（デンマーク語） ・Suomi（フィンランド語） ・Italiano（イタリア語） ・Norsk（ノルウェー語） ・Svenska（スウェーデン語） ・Español（スペイン語） ・**汉语**（中国語） ・Русский（ロシア語） ・Português（ポルトガル語） ・**日本語**＊ 画像の再生時に、**SET** ボタンを押しながら **JUMP** ボタンを押しても、表示する言語を変更できます。	27
ビデオ出力方式	ビデオ出力方式を設定します。 NTSC＊ / PAL	191

＊ 初期設定

● マイカメラメニュー

このカメラでは起動画面、起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を自分好みに設定できます。CFカードに記録してある画像や新たに録音した音声をその場ですぐにカメラに登録し、マイカメラコンテンツとして利用することもできます（各項目の［2］、［3］に登録できます）。
また、付属のソフトウェアを使ってパソコンにある画像や音声を登録したり、オンラインフォトサービス「CANON iMAGE GATEWAY」（p. 163）からコンテンツをダウンロードして登録することもできます。詳しくは、付属のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

メニュー項目	設定内容	参照先
セット	起動画面、起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音をすべて同じコンテンツに設定します。*1	157
起動画面	電源を入れたときの起動画面を設定します。	157
起動音	電源を入れたときの起動音を設定します。*1	157
操作音	シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音を設定します。*1	157
セルフタイマー音	セルフタイマー撮影で2秒前をお知らせする音を設定します。*1	157
シャッター音	シャッターを全押ししたときの音を設定します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。*1	157
マイカメラメニューの設定内容	（切）/ 1 * / 2 / 3	

*1設定メニューの［消音］項目（p. 49）も参照してください。

準備・基本操作

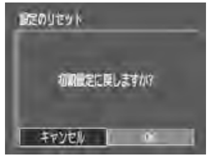
設定を初期状態に戻す

カメラの設定を初期設定に戻します。

1 カメラの電源を入れる

- 撮影モード、再生モードのどちらでも構いません。

2 MENU ボタンを５秒以上押し続ける



- 液晶モニターに、「初期設定に戻しますか？」のメッセージが表示されます。

3 十字ボタンの◀▶で［OK］を選び、SET ボタンを押す



- 初期化中は右のような画面が表示され、初期化が終わると通常画面に戻ります。
- 初期設定に戻すのをやめるときは、［キャンセル］を選びます。

- 以下の設定は、初期状態に戻りません。
  - ・メニューの［日付 / 時刻］、［言語］、［ビデオ出力方式］の設定（p. 49、50）
  - ・マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p. 92）
  - ・新しく登録したマイカメラコンテンツ（p. 159）
- 撮影モードでモードダイヤルが **C1**/**C2** のときは、**C1**/**C2** モードに登録してある設定のみ初期設定に戻ります。それ以外のときは、**C1**/**C2** の内容は初期化されません。

撮影 - カメラまかせの簡単撮影

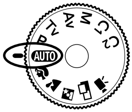
各撮影モードでどのような設定が変更できるかは、巻末の「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 206)をご覧ください。

AUTO オートで撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、カメラまかせの撮影ができます。

1 撮影モードになっていることを確認する(p. 29)

2 モードダイヤルを AUTO にする

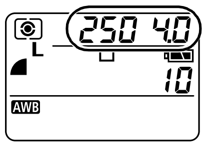


3 被写体にカメラを向ける

4 ズームレバーで画角(画面内の被写体の大きさ)を決める

5 シャッターボタンを半押しする(p. 41)

- シャッターボタンを押してピントを合わせます。撮影準備が完了すると、電子音が2回鳴り、ランプが緑色または橙色に点灯します。
- 液晶モニターがついているときは、緑色のAF枠が点灯します。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- ピントが合いにくいときは、電子音が1回鳴り、ランプが黄色に点滅します。AF枠が中央1点のとき、AF枠も黄色になります。





AF枠

6 シャッターボタンを全押しする(p. 41)

- シャッター音が1回鳴り、撮影が完了します。
- 液晶モニターがついているときは、撮影した画像が約2秒表示されます。

- このモードで変更できる設定(p. 206)
- 撮影後、撮影した画像が表示される時間を変更したり、表示されないように設定できます(p. 55)。

撮影直後に画像を確認する

モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

撮影した画像を確認する

撮影直後に約2秒間、撮影した画像が表示されます（表示時間は変更できます）。また、次の方法で設定時間に関わらず画像を表示し続けます。

● シャッターボタンを全押しし続ける

シャッターボタンを全押しし続けている間、画像を表示できます。

● 画像表示中に、SET ボタン、または ✱ ボタンを押す*

シャッターボタンを放しても、画像が表示され続けます。シャッターボタンを半押しすると解除され、撮影できます。

● 撮影した画像が表示されている間に次のようなことができます。*
- ・画像を消去する（p. 136）
- ・画像の詳細情報を表示する（p. 35）
- ・画像を拡大表示する（p. 120）
- ・記録形式を変更する（p. 56）
- ・音声を録音する（p. 129）

＊ では操作できません。

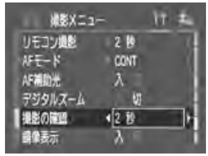
撮影した画像の確認時間を変更する

画像の確認時間を、［切］または［2 秒］～［10 秒］のいずれかに変更できます。

1 ［（撮影）］メニューから［撮影の確認］を選ぶ

● メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

2 確認時間を選び、MENUボタンを押す



- [切]：画像は表示されません。
- [2秒] ～ [10秒]：シャッターボタンを放しても、設定した時間、画像が表示されます。
- シャッターボタンを全押しし続けると、設定に関わらず画像を表示できます。
- 画像の表示中でもシャッターボタンを押すと撮影できます。

撮影直後に記録形式を変更する

モードダイヤル
P Tv Av M

撮影直後に以下の操作を行うと、JPEG形式で撮影した画像をRAW形式（p. 59）で記録できます。＊
RAW形式で保存すると、画像を劣化させることなく、ホワイトバランス、色効果、記録画素数などを、再度パソコンを使ってお好みの画像に加工しやすくなります。

＊ JPEG形式の画像は記録されません。

1 撮影直後、液晶モニターに画像が表示されている間に⚡ボタンを押す

2 十字ボタンの ◀▶ で［OK］を選びSETボタンを押す



- RAW形式で記録されます。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影画面に戻ります。
- RAW形式での記録をやめるときは、次のどちらかの操作をします。
  - ・[キャンセル] を選び、**SET**ボタンを押す。
  - ・⚡ボタンを押す。

- すでに記録形式に **RAW** が選ばれているとき、またはデジタルズームを使って撮影したときは、上記の操作を行うことはできません。

記録画素数と圧縮率を変更する

モードダイヤル

AUTO P Tv Av M

目的に応じて、記録画素数、圧縮率（静止画）を変更できます。CCDのオリジナルデータを記録したい場合は、[RAW] を選んでください（p. 59）。

● 静止画のとき

記録画素数			撮影の目安
L（L）ラージ	3072 × 2304 画素	大きい	・A4サイズ以上をプリント
M1（L/M）ミドル1	2592 × 1944 画素	↑	
M2（M）ミドル2	2048 × 1536 画素		・A4サイズまでプリント
M3（M/S）ミドル3	1600 × 1200 画素	↓	・Lサイズ/A5サイズをプリント
S（S）スモール	640 × 480 画素	小さい	・電子メールで画像を送信 ・より多くの画像を撮影する

（　）内は表示パネルに表示されるアイコンです。

圧縮率			撮影の目安
	スーパーファイン	きれい	より良い画質で撮影するとき
	ファイン	↕	通常の撮影をするとき
	ノーマル	普通	より多くの画像を撮影するとき

● 動画のとき

記録画素数	
640	640 × 480 画素
320	320 × 240 画素
160	160 × 120 画素

1 DISPLAY ボタンを押して、液晶モニターをつける

- 表示パネルのアイコンを確認しながら変更することもできます（動画を除く）。

2 FUNC. ボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で、◢*（圧縮率）またはL*（記録画素数）を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。



4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、設定したい圧縮率または記録画素数を選ぶ

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示されます。

記録画素数（動画以外）



圧縮率



記録可能画像数*（記録画素数、圧縮率、記録形式を選択したときのみ表示）
* 動画の場合は撮影できる秒数を表示

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC. ボタンを押す

- CF カードの種類と記録可能画像数の目安（p. 199）
- 1 画像の容量（目安）について（p. 200）

記録形式を変更する

モードダイヤル
P Tv Av M

あらかじめ記録形式をRAWに変更してから撮影できます。
このカメラでは、画像の記録形式としてJPEG形式とRAW形式が選択できます。

● JPEG形式

最適な画質になるようにカメラ内で画像処理を行うと共に、CFカードに多くの画像を記録できるように、ファイルサイズを圧縮しています。ただし非可逆圧縮方式のため、圧縮前と完全に同一のデータを復元することはできません。

● RAW形式

カメラ内では画像処理を行わず、CCDからの画像データをそのまま記録しています。JPEG方式と同じく記録時に圧縮していますが、オリジナルデータを完全に復元できる可逆圧縮方式なので、RGB TIFF形式などの非圧縮ファイルと同等の、データ劣化がまったくない高品位な画像が得られます。ファイルサイズも、RGB TIFF形式の約1/4*と大変コンパクトです。
RGB TIFF形式などの一般的な非圧縮ファイルでは、カメラ内で画像処理をしているため、レタッチソフトウェアでさらに画質を調整すると、画質が劣化してしまいます。RAW形式の画像は、そのままではレタッチソフトウェアで開くことができないため、一般的なファイル形式（TIFF形式やJPEG形式）に変換（現像）する必要があります。付属のソフトウェア、ZoomBrowser EX（Windows）/ ImageBrowser（Macintosh）を使うと、オリジナルの画像データの画質を調整してから現像できるため、高品位を保ったまま、お好みの画像を作り出せます。詳しくはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
RAW形式では、記録画素数は3072 × 2304に固定され、圧縮率は選択できません。また記録時には、JPEG形式のサムネイル画像も同時に記録されます。

*当社測定条件によります。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

- 表示パネルのアイコンを確認しながら変更することもできます。

2 FUNC.ボタンを押す

3 十字ボタンの ▲▼ で、L＊（液晶モニター）またはL＊（表示パネル）を選ぶ

＊ 現在の設定が表示されます。



4 電子ダイヤル、または十字ボタンの ◀▶ で、RAW（液晶モニター）または(r)（表示パネル）を選ぶ

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示されます。

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- RAW形式のファイルに内蔵されるJPEG形式の確認用（サムネイル）画像の記録画素数を選べます。カメラでRAW形式の画像を拡大表示して、ピントや手ブレを確認するときに便利です（p. 48）。
- JPEG形式で撮影した画像でも、撮影直後の画像表示中であれば、RAW形式に変更できます（p. 56）。

ϟ 内蔵ストロボを使って撮る

モードダイヤル
AUTO 〔人物〕 〔風景〕 〔夜景〕 〔スティッチ〕 P Tv Av M

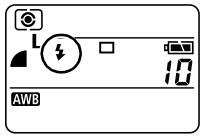
撮影状況に合わせて、ストロボを使って撮影できます。

ϟA 👁 *	赤目緩和オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光します。 ストロボ発光の際には、常に赤目緩和ランプを発光します。
ϟA *	オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光します。
ϟ 👁 *	常時発光（赤目緩和）	常に赤目緩和ランプとストロボを発光します。
ϟ	常時発光	常にストロボを発光します。
〔発光禁止〕	発光禁止	ストロボは発光しません。

＊ 表示パネルには表示されません。

・外部ストロボについては、p. 179をご覧ください。

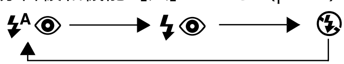
1 ϟボタンを押してストロボモードを切り換える



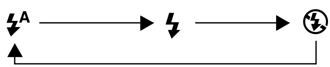


- 選択したストロボモードが表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- ϟボタンを押すたびに設定が切り換わります。撮影モードによっては設定できないことがあります（p. 206）。

赤目緩和機能［入］のとき（p. 62）



赤目緩和機能［切］のとき（p. 62）



赤目緩和機能を設定する

モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

暗いところでストロボを発光するとき、赤目緩和ランプを発光します。ストロボの光が目に反射して目が赤く光るのを防ぎます。

1 ［（撮影）］メニューの［赤目緩和機能］で［入］を選ぶ

- 情報表示ありのときは、液晶モニターに が表示されます。
- 赤目緩和で撮影するときは、写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るように声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と、より効果があがります。

スローシンクロを設定する

モードダイヤル
P Av

遅いシャッタースピードで、ストロボを発光して撮影します。夜景や室内の照明を利用した撮影などで、背景だけが暗くなるのを軽減できます。

1 ［（撮影）］メニューの［スローシンクロ］で［入］を選ぶ

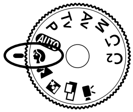
- ISO感度を上げてストロボ撮影する場合、被写体との距離が近いほど、白飛びしやすくなります。

- 撮影メニューの［ストロボ自動調光］が［入］のときは、自動調光で発光します。**M**または［ストロボ自動調光］が［切］のときはマニュアル発光します。
- ［ストロボ自動調光］が［入］のとき、ストロボの発光はプリ発光（ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光）とメイン発光（ストロボ撮影を行うための発光）の2回行われます。プリ発光で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。
- ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で1/250秒です。1/250秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に1/250秒に再設定され、撮影されます。
- ストロボ充電中は撮影できません。
- ストロボの充電には約10秒かかる場合があります。充電時間は使用状況や電池の容量などにより変わります。
- ストロボ調光補正量、ストロボ発光量を変えられます（p. 104）。
- ［スローシンクロ］を［入］にして撮影すると手ブレしやすくなります。三脚をお使いになることをおすすめします。
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**の場合、設定したストロボモードは、カメラの電源を切っても解除されません。

ポートレートを撮る

背景をぼかして人物を浮き立たせたいときに使います。

1



モードダイヤルを にする

撮影手順は、「AUTO オートで撮る」（p. 53）と同じです。

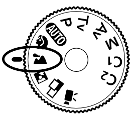


- このモードで変更できる設定（p. 206）
- 被写体の上半身が、ファインダーまたは液晶モニターいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。
- レンズを望遠側にすると、背景をさらにぼかすことができます。

風景を撮る

広がりのある風景を撮影するときに使います。

1



モードダイヤルを にする

撮影手順は、「AUTO オートで撮る」（p. 53）と同じです。

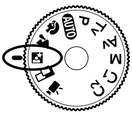


- このモードで変更できる設定（p. 206）
- シャッタースピードが遅くなりやすいので、液晶モニターに （手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使用してください。

夜景を撮る

夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影するときに使います。人物にストロボ光をあて、遅いシャッタースピードで撮影するため、人物と背景のそれぞれをきれいに撮影することができます。

1



モードダイヤルを にする

撮影手順は、「AUTO オートで撮る」（p. 53）と同じです。



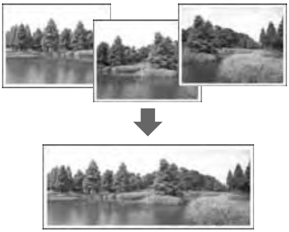
- 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

- このモードで変更できる設定（p. 206）
- シャッタースピードが遅いので、ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- 日中に撮影すると、AUTO と同じ撮影効果になります。
- 自動的にスローシンクロ［入］になります（p. 62）。

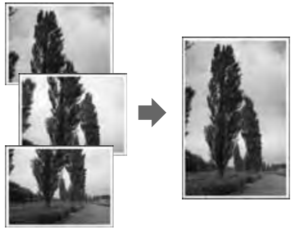
パノラマ画像を撮る（スティッチアシスト）

撮影した画像をパソコンで合成（スティッチ）し、パノラマ画像を作るときに使います。

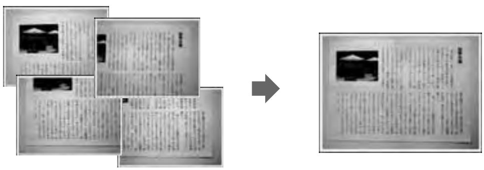
水平方向



垂直方向



2 × 2



- パソコンでの画像合成には、付属のソフトウェア「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえかた

PhotoStitch は、隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分には、できるだけ特徴のある被写体（目印となる被写体）を入れて撮影してください。



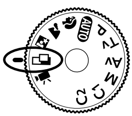
- 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30～50%になるように撮影します。
  また、上下のズレは、画像の高さの10%以内で撮影します。
- 共通部分には、動いている被写体などが入らないように注意してください。
- 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。物体がゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。
- 撮影時の明るさはできるだけ揃えてください。画像の明るさが違いすぎると、不自然な画像になってしまうことがあります。
- 遠くの風景を撮るときは、カメラを中心に回転して撮影します。
- 至近距離では、カメラをスライド（カメラを被写体に対して平行移動）させます。

撮影する

スティッチアシストモードには、次の5つの撮影方向があります。

	左から右方向へ水平に撮影します。
	右から左方向へ水平に撮影します。
	下から上へ垂直に撮影します。
	上から下へ垂直に撮影します。
	左上を基点に時計回りに撮影します。

1



モードダイヤルを にする

- 液晶モニターが点灯します。

2 十字ボタンの ◀▶ で撮影方向を選び、SET ボタンを押す



- 撮影方向が設定されます。
- **SET**ボタンを押さずに、シャッターボタンを押して撮影することもできます。

3 最初の画像を撮影する

- １画像目の撮影で、露出やホワイトバランスがロックされます。

4 最初の画像に重ね合わせ、次の画像を撮影する

- 画像が重なる部分は、多少ずれても合成時に修正されます。
- 十字ボタンの ▲▼◀▶ を押すと撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます。



のとき



のとき

5 同様の操作で３画像目以降を撮影する

- 水平 / 垂直方向の撮影では、最大 26 画像まで撮影できます。

6 最後の画像の撮影後、SET ボタンを押す

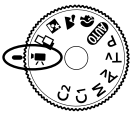
- このモードで変更できる設定（p. 206）
- マニュアルホワイトバランス（p. 92）の場合、では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- 2画像目以降の撮影では、最初の撮影の設定が保持されます。
- テレビと接続しても、画像をテレビに表示して撮影することはできません。

動画を撮る

動画を撮影するときに使います。記録画素数は次の設定から選べます（p. 57）。

- [640 (640 × 480)]
- [320 (320 × 240)]
- [160 (160 × 120)]

1



モードダイヤルを にする

液晶モニターがつき、記録可能時間（秒数）が表示されます。

2 **シャッターボタンを全押しする**

- 撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
- 撮影中は、液晶モニターの右上に赤丸が表示されます。

3 **撮影を終了するときは、再度シャッターボタンを全押しする**

- 1 回の最長撮影時間は、640 で 30 秒（10 フレーム / 秒）、320 160 で 3 分（15 フレーム / 秒）です（当社測定条件による）。これらの時間が経過するか、またはCF カードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。

* お使いのCF カードによって、撮影時間が異なります。詳細はp. 199をご覧ください。

- 動画を撮影するときは、このカメラで初期化したCFカードをお使いください(p. 137)。付属のCFカードは、そのままお使いになれます。
- 以下のようなCFカードをお使いのときは、撮影中に正しい撮影時間が表示されなかったり、撮影を中断することがあります。
  ・書き込み速度が遅い
  ・他のカメラやパソコンで初期化した
  ・撮影/消去を繰り返した
  撮影時間が正しく表示されないときも、CFカードには実際に撮影した時間の動画が記録されています。CFカードをこのカメラで初期化すると、正しい時間が表示されます(書き込み速度が遅いCFカードを除く)。
- 撮影中は、マイクに触れないようにしてください。
- 撮影中は、シャッターボタン以外のボタンを押さないでください。ボタンを押す音も記録されてしまいます。
- AE、AF、ホワイトバランス、ズーム(画角)は、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。
- 撮影後にランプ(上)が緑点滅し、データを記録します。このときは撮影できません。

- このモードで変更できる設定(p. 206)
- 音声は、モノラルで録音されます。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。
- 動画ファイル(ファイル形式:AVI、圧縮形式:Motion JPEG)をパソコンで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です(付属のDigital Camera Solution Diskには、Windows版のQuickTimeが収められています。なお、Mac OS 8.5以降には標準装備されています。)。

🌷 至近距離で撮る（マクロ撮影）

モードダイヤル
AUTO 👤 ⛰ 🖼 🎥 P Tv Av M

レンズ先端から被写体までの距離が5～50cm（ワイド端）/15～50cm（テレ端）のときは、マクロモードで撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 🌷ボタンを押す



- 表示パネルと液晶モニターに、🌷が表示されます。
- 再度🌷ボタンを押すと、マクロモードを解除できます。

- マクロモードでは、必ず液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーを使っても撮影できますが、その場合は撮影範囲がずれます。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、ワイド端で75 × 55mm、テレ端では56 × 42mmとなります。

さらに接近して撮る（スーパーマクロ撮影）

モードダイヤル
P Tv Av M

通常のマクロ撮影よりも被写体に近づき、さらに拡大して撮影できます。背景も、通常のマクロ撮影とは違った効果で撮影することができます。
レンズ先端から被写体までの距離が以下のときに撮影可能です。
5～20cm（ワイド端～86mm（35mmフィルム換算））
記録画素数は、M2、M3、Sからのみ選べます。L、M1、RAW形式を選んでいるときにスーパーマクロにすると、自動的にM2で撮影されます（スーパーマクロを解除すると、元の設定に戻ります）。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 液晶モニターにが表示されるまでボタンを押し続ける



- 撮影可能な範囲内にズーム位置が移動します。
- 再度ボタンを押すと、スーパーマクロモードが解除できます。

- スーパーマクロ撮影時に、レンズが被写体にぶつからないようにしてください。
- オプションのレンズとの併用はできません。

- デジタルズームは使用できません。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、以下のとおりです。

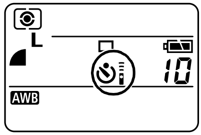
ズーム位置（35mmフィルム換算）	撮影範囲
ワイド端	約48 × 36mm
86mm	約24 × 18mm

- **C1**、**C2**のカスタムモードでもスーパーマクロの選択と登録が可能です。

セルフタイマーで撮る

モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

1 ボタンを押す

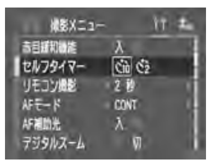


- 表示パネルにが表示されるまでボタンを何回か押します。
  液晶モニターがついているときは、液晶モニターにまたはが表示されるまでボタンを押します。
- 再度ボタンを押すと、セルフタイマー撮影を解除できます。
- はシャッターボタンを全押ししてから10秒後に、は2秒後に撮影されます。
- を選んだときは、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマー音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅します。撮影2秒前になると点滅が速くなります。
- を選んだときは、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーランプが最初から速く点滅し、2 秒後に撮影されます。
- セルフタイマー音は、［(マイカメラ)］メニューの［セルフタイマー音］で変更できます（p. 51）。

撮影までの秒数を設定する

シャッターボタンを押してから、撮影されるまでの秒数を 10 秒または2秒に設定できます。

1 ［(撮影)］メニューから［セルフタイマー］を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

2 ［］（10秒）または［］（2秒）を選び、MENUボタンを押す

デジタルズームで撮る

モードダイヤル

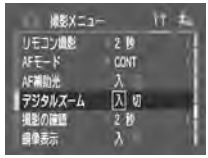
AUTO P Tv Av M

光学ズームと組み合わせて、次の倍率（目安）に拡大できます。
4.7倍、6倍、7.7倍、9.6倍、12倍、16倍

1 **DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける**

2 **［(撮影)］メニューから［デジタルズーム］を選ぶ**

- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）



3 **［入］を選び、MENUボタンを押す**

4 **ズームレバーを側に押す**

- 最も望遠側（テレ端）まで拡大すると、いったん停止します。再度、ズームレバーを側に押すと、さらに拡大できます。
- 側に押すと、倍率が下がります。

- 液晶モニターが消えているとき、またはRAW形式やスーパーマクロ設定時は、デジタルズームは使えません。

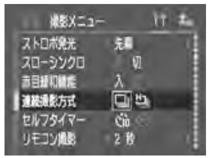
- デジタルズームは、拡大するほど画像が粗くなります。

連続して撮る

モードダイヤル
P Tv Av M

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。

	通常連続撮影	画像を確認しながら連続撮影したいときにおすすめします。ただし、シャッター間隔は より長くなります。
	高速連続撮影	短いシャッター間隔で連続撮影したいときにおすすめします。ただし、画像を確認しながら連続撮影できません。

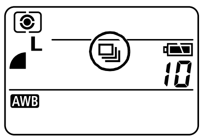


1 ［ (撮影)］メニューから［連続撮影方式］を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 44)

2 ［ ］または［ ］を選び、MENU ボタンを押す

- 電源を切ると通常の撮影に戻りますが、連続撮影方式の設定は保持されます。



3 ボタンを押す

- 表示パネルに または が表示されるまで ボタンを何回か押します。液晶モニターがついているときは、液晶モニターにも表示されます。
- 連続撮影を解除するには、 が表示されるまで ボタンを押します。

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを放すと撮影が終了します。
- 連続撮影速度は、次のようになります。

  連続撮影のとき ･･･ 約1.2画像/秒*
  H連続撮影のとき ･･･ 約2.0画像/秒*

* ラージ/ファイン、液晶モニター非表示時（当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。）

- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
- 内蔵ストロボは使用できますが、撮影のたびにストロボの充電時間がかかるため撮影間隔は長くなります。
- 外付けストロボを取り付けている場合、ストロボは発光しません。

撮影 - 目的に合わせた応用撮影

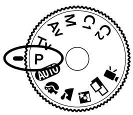
シャッタースピード、絞り数値を選択するなど、カメラの設定を自由に変えて撮影できます。

各撮影モードでどのような設定が変更できるかは、巻末の「各撮影モードで設定できる機能一覧」(p. 206) をご覧ください。

- 設定を変更した後の撮影の手順は、「AUTO オートで撮る」(p. 53) をご覧ください。

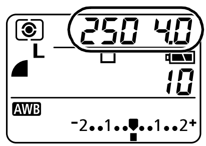
P プログラムAEで撮る

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り数値をカメラが自動的に設定します。

1 

モードダイヤルをPにする

2 撮影する



- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まり、表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合は、液晶モニターにも表示されます。
- 液晶モニターのシャッタースピードと絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。
- 同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます (p. 102)。

- このモードで変更できる設定（p. 206）
- 適正露出が得られない場合、液晶モニターのシャッタースピードと絞り数値が赤字で表示されます。次の方法で撮影すると、適正露出が得られ、白字で表示されることがあります。
  - ・ストロボを使用する
  - ・測光方式を変更する
  - ・ISO感度を変更する

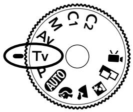
P と AUTO の違い

- P では、次の機能を使用できますが、AUTO ではできません。
  - ・露出補正
  - ・ブラケット撮影
  - ・AEロック
  - ・内蔵ストロボ（常時発光、スローシンクロ、後幕発光）
  - ・連続撮影
  - ・マニュアルフォーカス
  - ・スーパーマクロ撮影
  - ・ホワイトバランス
  - ・ストロボ調光補正
  - ・FEロック
  - ・記録形式の変更
  - ・AF枠の移動
  - ・ISO感度の変更
  - ・色効果
  - ・NDフィルター
  - ・測光方式の変更
  - ・インターバル撮影

Tv シャッタースピードを決めて撮る

シャッタースピードを選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

1

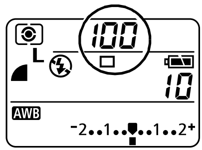


モードダイヤルを Tv にする

- シャッタースピードが表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

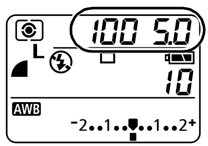
2

電子ダイヤルを回して、シャッタースピードを選ぶ



3

撮影する



- 液晶モニターのシャッタースピードと絞り数値が白字で表示されているときは適正露出です。
- 液晶モニターの絞り数値が赤字で表示されたときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。白字で表示されるまで、電子ダイヤルでシャッタースピードを調節してください。
  撮影メニューの［セーフティシフト］を［入］にすると、自動的に適正露出になるシャッタースピードに調整されます（セーフティシフト機能（p. 83））。
- 同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます（p. 102）。

- シャッタースピードが遅くなると、CCD の特性により撮影した画像にノイズが増えますが、このカメラは、シャッタースピードが 1.3 秒より遅くなると、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます（ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります）。

- このモードで変更できる設定（p. 206）
- シャッタースピードが遅くなると、手ブレしやすくなります。液晶モニターに（手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使って撮影してください。
- ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で 1/250 秒です。1/250 秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、撮影時に自動的に 1/250 秒に再設定されます。
- ズームによって絞り数値とシャッタースピードは次のように変わります。

	絞り数値	シャッタースピード（秒）
ワイド端＊[1]	F2.0 ～ 3.5	～ 1/1250
	F4.0 ～ 8.0	～ 1/2000
テレ端＊[2]	F3.0 ～ 5.0	～ 1/1250
	F5.6 ～ 8.0	～ 1/2000

＊[1] 最も広角側
＊[2] 最も望遠側

シャッタースピードの表示

表示パネルに表示されるシャッタースピードの2000から4までは、分数の分母を表します。例えば、160は1/160秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

15"　13"　10"　8"　6"　5"　4"　3"2　2"5　2"　1"6　1"3
1"　0"8　0"6　0"5　0"4　0"3
4　5　6　8　10　13　15　20　25　30　40　50　60
80　100　125　160　200　250　320　400　500
640　800　1000　1250　1600　2000

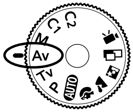
表示パネルと液晶モニターでは、1/4～1/2000秒は、表示方法が異なります。

シャッタースピード	15秒	･･･	0.8秒	･･･	1/4秒	･･･	1/2000秒
表示パネル	15''	･･･	0''8	･･･	4	･･･	2000
液晶モニター	15"	･･･	0"8	･･･	1/4	･･･	1/2000

Av 絞りを決めて撮る

絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になるシャッタースピードを自動的に設定します。
絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

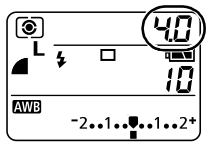
1



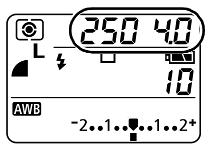
モードダイヤルをAvにする

- 絞り数値が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2 **電子ダイヤルを回して、絞り数値を選ぶ**



3 **撮影する**



- 液晶モニターのシャッタースピードと絞り数値が白字で表示されているときは適正露出です。
- 液晶モニターのシャッタースピードが赤字で表示されたときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過多）です。白字で表示されるまで、電子ダイヤルで絞り数値を調節してください。
  撮影メニューの［セーフティシフト］を［入］にすると、自動的に適正露出になる絞り数値に調整されます（セーフティシフト機能（p. 83））。
- 同じ露出でシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを変えることができます（p. 102）。

- ズーム位置によっては、選べない絞り数値があります。

- このモードで変更できる設定（p. 206）
- 絞り数値を大きくすると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなります。液晶モニターに（手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使って撮影してください。
- ストロボ同調シャッタースピードは、1/60～1/250秒になります。したがって、あらかじめ絞り数値を設定していても、ストロボ同調シャッタースピードに応じて絞り数値が自動的に変更されることがあります。

絞り数値の表示

表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。

F2.0	F2.2	F2.5	F2.8	F3.0	F3.2	F3.5
F4.0	F4.5	F5.0	F5.6	F6.3	F7.1	F8.0

表示パネルと液晶モニターでは、表示方法が異なります。

絞り数値	F2.5	・・・	F8.0
表示パネル	2.5	・・・	8.0
液晶モニター	F2.5	・・・	F8.0

セーフティシフト

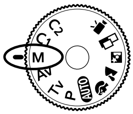
Tv、**Av**のとき、撮影メニューの［セーフティシフト］を［入］にすれば、適正露出を得られない場合でも、自動的にシャッタースピードまたは絞り数値を調整して、適正露出で撮影できます。

- ストロボ発光時は機能しません。

M 自由にシャッタースピード/絞りを決めて撮る

シャッタースピードや絞り数値を自分で決定し、狙い通りの撮影ができます。花火の撮影など露出の設定が難しいときに使うと便利です。

1



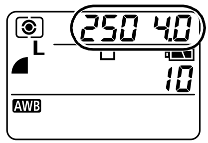
モードダイヤルをMにする

- シャッタースピードと絞り数値が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2

電子ダイヤルをクリックして、設定項目（シャッタースピードまたは絞り数値）を選ぶ

- 電子ダイヤルをクリックするたびに切り換わります。



3

電子ダイヤルをまわして、シャッタースピードまたは絞り数値を選ぶ

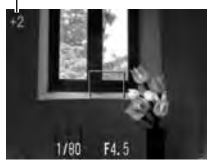
4

撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルには露出補正バーと指標が、液晶モニターには標準露出*からのずれが表示されます。このずれが±２段を超えると、液晶モニターに赤字で「－2」または「＋2」と表示されます。

＊ 設定されている測光方式を元に測光を行って、標準露出を算出します。

赤字



- このモードで変更できる設定（p. 206）
- 絞り数値とシャッタースピードについて（p. 80、81）
- 露出を変更したい場合は、電子ダイヤルでシャッタースピード、絞り数値を変更してください。
- 液晶モニターの画面は、設定した絞り数値とシャッタースピードに応じた明るさで表示されます。ストロボを⚡◉（常時発光（赤目緩和））または⚡（常時発光）にするか、外付けストロボを取り付けると、常に明るく表示されます。

AF枠を選択する

AF枠はピントを合わせるための枠です。以下のようにAF枠を選択できます。
- AiAF（オート選択）、中央1点を選ぶ（以下参照）
- 任意の位置を選ぶ（p. 86）

モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

AF枠をAiAF（オート選択）または、中央1点から選べます。オート選択にすると、撮影状況に応じて9つのAF枠の中からカメラが自動的にAF枠を選択してピントを合わせます。デジタルズームをお使いのときは、AF枠は中央1点に固定されます。

1 ボタンを押す

- 表示パネルにAF枠選択が表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにAF枠が緑色で表示されます。

2 電子ダイヤルを回して、オート選択か中央1点を選ぶ

- AUTO、、、のときは、◀▶でも選べます。


画面例：オート選択時


画面例：中央1点選択時

3 ボタンを押す

- ボタンを押さずにシャッターボタンを押して、設定したAF枠で撮影することもできます。

AiAFについて

AiAFは、広い測距範囲を持ち、ピント合わせを的確に判断します。ピントを合わせたい被写体が中央部から多少ずれている場合でも、目的の被写体にピントを合わせます。

＊ Ai = Artificial intelligence：人工知能　AF = オートフォーカス

任意のAF枠を選択する

モードダイヤル
P Tv Av M

AF枠が中央1点のとき、任意の位置にAF枠を手動で移動できます（アクティブフレームコントロール）。狙った被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。
ただし、デジタルズームをお使いのときや、液晶モニターを消してファインダーを使って撮影するときは、AF枠を任意の位置に設定しても、中央1点に固定されます。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 ボタンを押す



- 液晶モニターにAF枠が緑色で表示されます。
- 大きなAF枠（［ ］）が表示されたときは、「AiAF」が選択されていますので、「中央1点」に変更してください（p. 85）。

3 十字ボタンの▲▼◀▶で、設定したい位置にAF枠を移動する

4 [⊞] ボタンを押す

- [⊞] ボタンを押さずに、シャッターボタンを押して、設定したAF 枠で撮影することもできます。
- [⊞] ボタンを押し続けると、AF 枠は元の位置（中央）に戻ります。

- マクロモードでも AF 枠を移動できます。
- 通常モードとマクロモードで、それぞれ別に AF 枠を設定できます。
- スーパーマクロ撮影とマニュアルフォーカス（p. 111）中は、AF 枠を移動できません。
- 測光方式が［スポット測光］のときは、スポット測光枠と AF 枠を連動させることができます（p. 88)。
- AF 枠の色については、p. 41 をご覧ください。

測光方式を切り換える

モードダイヤル
P Tv Av M

測光方式を切り換えて撮影できます。通常は［評価測光］に設定されています。

	評価測光		画面内を多分割して測光します。被写体の位置、明るさ、背景、順光／逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、被写体を適正な露出で撮影します。 逆光など一般的な撮影に適しています。
	中央部重点平均測光		画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
	スポット測光		「スポット測光枠」内を測光します。
		中央固定	スポット測光枠を液晶モニター中央部に固定します。
		AF枠連動*	スポット測光枠をAF枠に連動させます。

* AF枠がAiAF（p. 85）のときは、常に中央固定になります。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 ボタンを押して、測光方式を切り換える



- ボタンを押すたびに次のように測光方式が切り換わります。

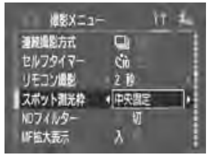
［評価測光］→［中央部重点平均測光］→［スポット測光］→［評価測光］

- 現在選ばれている測光方式が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

［スポット測光］を選ぶ → 手順３

［評価測光］［中央部重点平均］を選ぶ → 撮影します

3 ［（撮影）］メニューから［スポット測光枠］を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた (p. 44)

4 ［中央固定］または［AF 枠連動］を選び、MENU ボタンを押す



画面例：［中央固定］

スポット測光枠

- ［中央固定］のときは、液晶モニター中央にスポット測光枠が表示されます。［AF 枠連動］のときは、常に AF 枠内にスポット測光枠が表示されます。

露出を補正する

モードダイヤル
P Tv Av

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまったり、夜景の撮影でライトが明るすぎるようなときに、露出を補正します。

1 **（十字ボタンの▲）を押す**

- 表示パネルに露出補正バーが表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2 **電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で露出を調整する**



- 補正量は、－2～＋2の範囲で1/3段ずつ変更できます。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 **電子ダイヤルをクリック、またはを押す**

- 露出補正を解除するときは、補正量を0に戻します。

WB 色合いを調整する（ホワイトバランス）

モードダイヤル

P Tv Av M

ホワイトバランスを設定すると、撮影時の光源に合った適正な色になります。

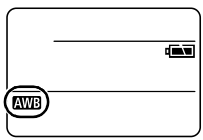
AWB(AWB)	オート	自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇天や日陰、薄暮など
	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
(H)	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
(WB)	ストロボ	ストロボ使用時
(1)	マニュアル1	白い紙や布など白を基調としたものをカメラに記憶させ、最適な白データを取り込んでから撮影できます。マニュアル1、マニュアル2の2種類を設定できます。
(2)	マニュアル2	

（　）内は表示パネルの表示です（液晶モニターとの表示が違う場合）。

1 WB（十字ボタンの▼）を押す

- 表示パネルにホワイトバランスモードが表示されます。液晶モニターがついている場合、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。

2 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、設定したいホワイトバランスを選ぶ



- （マニュアル）について（p. 92）
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 **電子ダイヤルをクリック、またはWBを押す**

● 色効果が（セピア）、（白黒）のときは設定できません。

マニュアルホワイトバランスを設定する

以下のような場合、AWB（オート）ではホワイトバランスが調整できないことがありますので、（マニュアル 1）または（マニュアル 2）で白データを取り込んでから、撮影してください（2 種類の設定を記憶できます）。

・至近距離（マクロ）で撮影するとき
・単一な色の被写体（空、海、森など）を撮影するとき
・水銀灯などの特殊な光源で撮影するとき

1 **WB（十字ボタンの▼）を押す**

● 表示パネルにホワイトバランスモードが表示されます。液晶モニターがついている場合、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。

2 **電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶ で、（マニュアル 1）または（マニュアル 2）を選ぶ**



3 カメラを白い紙や布に向け、SET ボタンを押す

- 液晶モニターの中央の枠いっぱいに、またファインダーを使う場合は、ファインダーいっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めてから、**SET** ボタンを押してください。**SET** ボタンを押すと、白データが取り込まれます。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

4 電子ダイヤルをクリック、または WB を押す

- マニュアルホワイトバランスを設定するときは、以下のような条件で撮影することをおすすめします。
  - **撮影モードを P にし、露出補正、ストロボ調光補正をともに±０にする**
    適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は白データを正しく取り込めないことがあります。
  - **液晶モニターを使い、ズームを最も望遠側（テレ端）の位置にする**
    デジタルズームは［切］にしてください。
  - **以外の撮影モードを設定する**
    では、白データの取り込みはできません。
  - **ISO 感度を撮影時と同じ条件に設定する**
  - **ストロボを（常時発光）または（発光禁止）にしておく**
    撮影時のストロボ設定と同じ条件でホワイトバランスを設定してください。条件が合っていない場合、最適なホワイトバランスを設定できないことがあります。
    ストロボを（赤目緩和オート）/（オート）に設定していると、マニュアルホワイトバランスで白データを取り込むときにストロボが発光することがあります。このときは、撮影時もストロボを発光させてください。
- 設定したマニュアルホワイトバランスは、カメラの設定を初期設定に戻しても解除されません（p. 52）。

ISO感度を変更する

モードダイヤル

P Tv Av M

ISO感度を上げると、光量が少ない場所でも画像を明るめにして撮影できます。暗いところで手ブレを抑えたいとき、ストロボをオフにして撮影したいとき、シャッタースピードを速くしたいときに便利です。

1 **DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける**

2 **FUNC.ボタンを押し、十字ボタンの▲▼で、ISO 50*（液晶モニター）または50*（表示パネル）を選ぶ**

* 現在の設定が表示されます。

- 液晶モニターに、ISO感度設定メニューが表示されます。



3 **電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、設定したい感度を選ぶ**

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。



4 **電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す**

- ISO感度を上げすぎると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選んでください。
- AUTOを選択すると、最適な画質になる感度に設定されます。また、被写体を照らすストロボ発光量が十分でない場合は、自動的に感度が上がります。

色効果を切り換える

モードダイヤル
P Tv Av M

色の濃さやコントラストを変えて撮影できます。

(OFF)	効果切	通常設定
(1)	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いにする
(2)	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いにする
(3)	ソフト	輪郭の強調を抑える
(4)	セピア	セピア色にする
(5)	白黒	白黒にする
(6)	カスタムカラー	コントラスト、シャープネス、色の濃さを自由に設定する

（　）内は表示パネルに表示されるアイコンです。

1 **DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける**

● 液晶モニターをつけなくても変更できます。ただし、カスタムカラーの設定はできません。

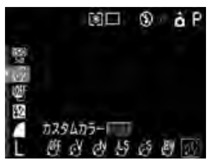
2 **FUNC.ボタンを押し、十字ボタンの▲▼で、*（液晶モニター）または OFF*（表示パネル）を選ぶ**



* 現在の設定が表示されます。

● 液晶モニターに、色効果設定メニューが表示されます。

3 **電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、設定したい色効果を選ぶ**



を選んだとき



SETボタンを押すとコントラスト、シャープネス、色の濃さを設定する画面が表示されます。
▲▼で設定したい項目を選び、◀▶で設定を変更し、**SET**ボタンを押します。

コントラスト
- 明るさの度合を調節できます。
- −（弱め）、0（標準）、＋（強め）から選びます。

シャープネス
- 輪郭のくっきり度合を調節できます。
- −（弱め）、0（標準）、＋（強め）から選びます。

色の濃さ
- 色の濃淡を調節できます。
- −（薄い）、0（標準）、＋（濃い）から選びます。

設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

4 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- （セピア）、（白黒）を選んだときは、ホワイトバランスは設定できません。

露出を自動的に変えて撮る（AEB撮影）

モードダイヤル
P Tv Av

設定した露出補正量の幅に従って、カメラが自動的に露出を変えながら３画像撮影します。
標準露出を中心に－２～＋２の範囲で1/3段ずつ補正量を設定できます。また露出補正（p. 90）をしている場合は、その設定値を中心に補正量を設定できます。
標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。

1 **DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける**

- 表示パネルのアイコンでも設定できますが、補正量は調整できません。

2 **FUNC.ボタンを押し、十字ボタンの▲▼ で、[OFF]*（液晶モニター）または BKT OFF*（表示パネル）を選ぶ**



* 現在の設定が表示されます。

- 液晶モニターに、ブラケット設定メニューが表示されます。

3 **電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶ で、[AEB]（液晶モニター）または BKT AE-b（表示パネル）を選び、SETボタンを押す**



- 液晶モニターがついていないときは、**SET** ボタンを押しても補正量は調整できません。現在設定されている補正量でAEB撮影されます。**FUNC.** ボタンを押して操作を終了します。

撮影 - 目的に合わせた応用撮影

露出を自動的に変えて撮る（AEB撮影）（つづき）



4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、補正量を調整する

- ▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと狭くなります。
- **SET**ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC.ボタンを押す

- AEB撮影を解除するときは、手順３で またはBKT OFFを選びます。

- ストロボ発光時は、AEB撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の１画像撮影になります。

フォーカスを自動的に変えて撮る（フォーカスブラケット撮影）

モードダイヤル
P Tv Av M

マニュアルフォーカス（p. 111）のときに、フォーカスを自動的に変えながら３画像撮影します。
変更量は、大・中・小の３段階から選択できます。設定したフォーカス位置、後ろ寄りに変更、前寄りに変更の順で撮影します。

1 DISPLAY ボタンを押して、液晶モニターをつける

- 液晶モニターをつけなくても設定できますが、変更量は調整できません。

2 FUNC. ボタンを押し、十字ボタンの▲▼で、*（液晶モニター）または BKT OFF*（表示パネル）を選ぶ



* 現在の設定が表示されます。

- 液晶モニターに、ブラケット設定メニューが表示されます。

3 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、（液晶モニター）または BKT FC-b（表示パネル）を選び、SET ボタンを押す



- 液晶モニターがついていないときは、**SET** ボタンを押しても変更量は調整できません。現在設定されている変更量でフォーカスブラケット撮影できます。**FUNC.** ボタンを押して操作を終了します。

4 電子ダイヤル、または十字ボタンの◀▶で、変更量を選ぶ



- ▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと狭くなります。
- **SET** ボタンを押すと手順３の画面に戻ります。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

5 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC. ボタンを押す

- フォーカスブラケット撮影を解除するときは、手順３で またはBKT OFFを選びます。

6 マニュアルフォーカスで撮影する（p. 111）

- ストロボ発光時は、フォーカスブラケット撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の１画像撮影になります。

⚹ 露出を固定して撮る（AEロック）

モードダイヤル
P Tv Av

露出とピントを別々に決めて撮影できます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 露出を固定したい被写体にAF枠またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

- AF枠を選択する（p. 85）
- 測光方式を切り換える（p. 88）

3 シャッターボタンを半押ししたまま⚹ボタンを押す

- 露出が固定（AEロック）され、液晶モニター）に⚹が表示されます。
- 電子ダイヤルとバックライトボタン以外のボタンやレバーを操作すると、AEロックを解除できます。



AEロック

4 構図を決め直して撮影する

- AF枠内の被写体にピントが合います。



- 液晶モニターが消えているときは、AEロックできません。

● 自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせを、同じ露出のままで自由に変えて撮影できます。
1. モードダイヤルを **P**、**Tv**、**Av** のいずれかにする
2. **DISPLAY** ボタンを押して、液晶モニターをつける
3. 露出を固定したい被写体にピントを合わせる
   ・シャッターボタンを半押しします。
   Tv または **Av** モードで、［セーフティシフト］が［入］のときは、セーフティシフト機能が働きます（p. 83）。
4. ✱ ボタンを押す
   ・露出が固定され、液晶モニターに ✱ が表示されます。
5. 電子ダイヤルをまわして、希望するシャッタースピードまたは絞り数値になるまで変える
6. 構図を決め直して撮影する
   ・撮影が終了し、設定は解除されます。

⚹ FEロックして撮る

モードダイヤル
P Tv Av

被写体が構図のどこにあっても、適正な露出でストロボ撮影できます。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 ⚡ボタンを押してストロボを設定する（p. 61）

- 外付けストロボをお使いの場合は、お使いのストロボの取扱説明書をご覧ください。

3 露出を固定したい被写体にAF枠またはスポット測光枠を合わせ、シャッターボタンを半押しする

4 シャッターボタンを半押ししたまま⚹ボタンを押す

- 露出が固定（FEロック）され、液晶モニターに⚹が表示されます。
- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- ⚹ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。
- 電子ダイヤル以外のボタンを押すと、FEロックを解除できます。

5 構図を決め直して撮影する



- FEロックは、内蔵ストロボ、スピードライトEXシリーズ、マクロリングライトおよびマクロツインライトを使用する場合のみ機能します。
- [ストロボ自動調光]が[切]のときは、FEロックできません。

ストロボの自動調光設定を切り換える

モードダイヤル
Tv Av

内蔵ストロボと外付けストロボ*は自動調光で発光されます（M を除く）が、自動調光しないように設定することもできます。

* スピードライト 220EX/420EX/550EX/580EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX

1 ［（撮影）］メニューから［ストロボ自動調光］を選ぶ

● メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

2 ［入］または［切］を選び、MENU ボタンを押す

ストロボ調光量 / 発光量を補正する

モードダイヤル
P Tv Av M

ストロボ調光補正	●［ストロボ自動調光］が［入］のとき、標準調光を中心に－２～＋２の範囲で 1/3 段ずつ変更できます。 ●カメラの露出補正と併用することにより、背景の露出も補正したストロボ撮影ができます。
ストロボ発光量	●撮影モードダイヤルが **M**、または［ストロボ自動調光］が［切］のとき、ストロボの発光量をフル発光から３段階で制御して撮影できます。また、プリ発光しないので、複数のストロボをいろいろな方向から被写体に同時にあてるスレーブストロボ撮影時に有効です。外付けストロボ装着時は、外付けストロボの発光量を制御（フル発光から 1/16 まで、1/3 段ずつ）できます。

1 DISPLAY ボタンを押して、液晶モニターをつける

2 FUNC. ボタンを押し、十字ボタンの ▲▼ で を選ぶ

3 電子ダイヤル、または十字ボタンの ◀▶ で補正量 / 発光量を調整する

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は再びこの画面が表示され、設定を変更できます。



ストロボ自動調光が[入]のとき



M またはストロボ自動調光が[切]のとき

4 電子ダイヤルをクリックするか、FUNC. ボタンを押す

- 調光補正を解除するときは、補正量を 0 に戻します。

ストロボの発光するタイミングを切り換える

モードダイヤル
P Tv Av M

先幕	シャッタースピードにかかわらず、シャッターが開いた直後にストロボが発光します。通常は、こちらで撮影します。
後幕	シャッターが閉じる直前にストロボが光ります。ストロボ発光のタイミングが先幕発光より遅くなり、車のライトが後方に流れるような画像を撮影できます。



先幕設定で撮影した画像



後幕設定で撮影した画像

1 ［[撮影アイコン]（撮影）］メニューの［ストロボ発光］で［先幕］または［後幕］を選ぶ

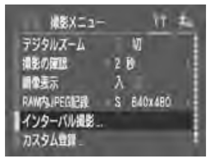
間隔をあけて自動的に撮影する（インターバル撮影）

モードダイヤル
P Tv Av M

一定の間隔で自動的に撮影できます。これにより、開花する植物の観測などの定点観測ができます。設定できる撮影間隔は約1分〜約60分、撮影画像数は2〜100画像です。

- 長時間の撮影になりますので、コンパクトパワーアダプターCA-560（別売）の利用をおすすめします（p. 188）。

1 [（撮影）]メニューから[インターバル撮影］を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

2 十字ボタンの◀▶で撮影間隔を選ぶ



- ◀▶を押し続けると、撮影間隔が5分単位で増えます。

3 十字ボタンの▼を押し、◀▶で撮影枚数を選ぶ



- ◀▶を押し続けると、撮影枚数が5枚単位で増えます。
- 最大撮影枚数*は、CFカードの残り容量によって決まります。

* 実際に撮影可能な枚数は、表示される枚数よりも少なくなる場合があります。

4 SET ボタンを押す

- 液晶モニターに Int.、表示パネルに Int が表示されます。

5 シャッターボタンを押す

- 1枚目が撮影されインターバル撮影が始まります。
- 設定した枚数の撮影が終わると、節電機能の設定にかかわらず、電源が自動的に切れます。
- インターバル撮影の途中で、以下の操作を行うと、インターバル撮影が中止されます。
  - ・次の撮影を行うまでの待機状態のときに、モードダイヤルを変更したり、シャッターボタンを半押しする
  - ・CF カードスロットカバーやバッテリーカバーを開く
  - ・再生モードにする
  - ・電源を切る

- インターバル撮影が始まってからのボタン操作は受けつけません。
- 次の撮影までの間、レンズは繰り出されたままとなりますので、ご注意ください。
- 撮影直後、液晶モニターに撮影画像は表示されません。
- 日付 / 時刻が設定されていないときは、インターバル撮影はできません。
- 連続撮影、AEB、フォーカスブラケットは使用できません（セルフタイマーは、最初の1枚のみ使用できます）。

ピントが合いにくい被写体を撮る

次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。

- コントラストが極端に低い被写体
- 近いものと遠いものが混在する被写体
- 画像中央部が極端に明るい被写体
- 高速で移動する被写体
- ガラス越しの被写体：できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。
- 横じまがある被写体

これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロックや AF ロック撮影するか、マニュアルフォーカスで撮影してください。

フォーカスロックで撮る

モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

1 **ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、AF 枠に収める**

2 **シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせる**

- このときAEもロックされます。ピントを合わせたい被写体と、フォーカスロックに用いた被写体との輝度の差が大きいと、適正露出が得られない場合があります。この場合は、AF ロックで撮影するか、AE ロック（p. 101）で撮影してください。

3 **そのままカメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する**

AFロックで撮る

モードダイヤル
P Tv Av M

1 **DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける**

2 **ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、AF枠に合わせる**

3 **シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせ、そのままMFボタンを押す**

- 液晶モニターに MF が表示されます。
- シャッターボタン、**MF**ボタンを放しても、フォーカスは固定されています。
- 再度**MF**ボタンを押すと、AFロックは解除されます。

4 **カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する**

- AFロックは、シャッターボタンを放して構図を決められるので便利です。また、撮影後もAFロックされたままなので、同じピントで次の撮影ができます。

マニュアルフォーカスで撮る

モードダイヤル
P Tv Av M

手動でピントを合わせて撮影します。

1 DISPLAYボタンを押して、液晶モニターをつける

2 MFボタンを押す

● ▶ MF と MF インジケーターが表示されます。



MFインジケーター

3 電子ダイヤルをまわして、ピントを合わせる

● ［ （撮影）］メニューの［MF拡大表示］が［入］のとき、AF枠を中心に画像が拡大表示*されます。

* 、 、デジタルズーム時や、テレビに表示しているときは、拡大表示されません。

* 拡大表示しない設定にもできます（p. 47）。

● MFインジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。

● 被写体がはっきり見えるまで、電子ダイヤルを回してピントを合わせてください。

● **Tv**、**Av**、**M**のとき、電子ダイヤルをクリックするたびに、シャッター速度、絞り数値、マニュアルフォーカスの選択を切り換えられます。選択できる項目の左に▶（緑色）が表示されます。

● 再度**MF**ボタンを押すと、マニュアルフォーカスは解除されます。

マニュアルフォーカスとAFを組み合わせて使う

モードダイヤル
P Tv Av M

手動で合わせた現在のピント位置から、最もピントの合う位置が自動的に探し出されます。

1 マニュアルフォーカスでピントを合わせ、SET ボタンを押す

- 現在のピント位置の近くから、最もピントの合う位置にピントが自動的に設定されます。

- マニュアルフォーカスを設定しているときは、AF 枠は変更できません。マニュアルフォーカスを解除してから変更してください。

- マニュアルフォーカス時は、マクロモードの撮影距離（p. 71）もフォーカスできます。このとき、MF インジケーターの目盛は細かくなります。
- MF インジケーターの表示単位を変更できます（p. 50）。

フォーカス設定を切り換えて撮る

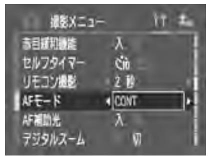
モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

AFの設定を選択します。

CONT（コンティニュアス）	シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた位置へ常にピントを合わせます。とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。初期状態は、こちらが選択されています。
SINGLE（シングル）	シャッターボタンを半押ししたときだけ、ピントを合わせます。通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

1 ［（撮影）］メニューから、［AFモード］を選ぶ

● メニューの選択と設定のしかた（p. 44）



2 ［CONT］または［SINGLE］を選び、MENUボタンを押す

● 液晶モニターが非表示のときは、SINGLE（シングル）に固定されます。

C1 C2 カスタム登録する

よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を、あらかじめC（カスタム）モードに登録しておくことができます。このカメラは「C1」「C2」２つのモードが用意されており、２種類のカスタム登録ができます。必要なとき、モードダイヤルをC1またはC2に合わせるだけで、事前に登録した設定内容で撮影できます。他の撮影モードに切り換えたり、電源を切ると解除されてしまう設定（マクロやドライブモードなど）も保持されます。

1 モードダイヤルをP、Tv、Av、M、C1、C2のいずれかにする

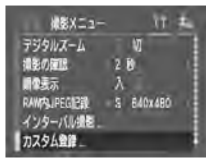
- C1またはC2に登録した設定の一部（撮影モード以外）を変更するときは、C1またはC2を選びます。

2 登録したい内容を設定する

登録できる機能

- ・撮影モード（P、Tv、Av、M）
- ・P、Tv、Av、Mで設定可能な項目
- ・撮影メニューの設定内容
- ・ズーム位置
- ・マニュアルフォーカス位置

3 ［📷（撮影）］メニューから［カスタム登録］を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

4 ［C1］または［C2］を選び、SETボタンを押す

- 登録先のカスタムモード（C1またはC2）を選びます。

5 MENUボタンを押す

- 設定内容は、他の撮影モードには反映されません。
- 登録内容をリセットできます（p. 52）。

ND フィルターを使う

モードダイヤル
🎥 P Tv Av M

ND フィルターを［入］にすると、光量を減少させることができます。これにより、通常よりもシャッター速度を遅くしたり、絞り値を小さくしたりできるようになります。

1 **DISPLAY ボタンを押して、液晶モニターをつける**

2 **［📷（撮影）］メニューから［ND フィルター］を選ぶ**

- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

3 **［入］を選び、MENU ボタンを押す**

- 液晶モニターに **ND** が表示されます。

- 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

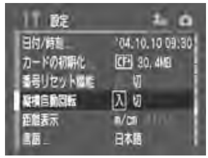
- ND フィルターを［入］にすると、通常の約 1/8 の光量に減少します。例えば、適正な絞り値が 8 の場合、［入］にすると 2.8 になります。

縦横自動回転の設定をする

モードダイヤル
AUTO P Tv Av M

このカメラにはSIセンサーが装備されており、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。この機能の入/切を設定できます。

1 [(設定)]メニューから[縦横自動回転]を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた(p. 44)

2 [入]を選び、MENUボタンを押す

- [入]に設定すると、液晶モニター表示(情報表示あり)のときに、画面右上にカメラの向きを示すアイコンが表示されます。

	通常
	右が下
	左が下

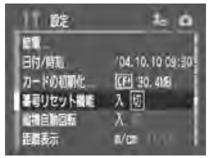
- カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン()を確認し、正しく天地を判断しない場合は、[切]にしてお使いください。
- 縦横自動回転の設定が[入]のときに縦位置で撮影した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては、回転結果が反映されないことがあります。

- このカメラは、縦位置で構えて撮影する場合、SIセンサーにより、上側を「天」、下側を「地」と判断し、縦位置に最適な露出、ホワイトバランス制御を行います。この機能は、縦横自動回転の入/切に関係なく有効です。

ファイル番号をリセットする

撮影した画像には、自動的にファイル番号が付きます。そのファイル番号の設定方法を選択します。

入	新しいCFカードを入れるたびに、ファイル番号が初期値(100-0001)に戻ります。記録済みのCFカードを入れたときは、続きの番号になります。
切	最後に撮影した画像のファイル番号が記憶され、新しいCFカードを入れても続きのファイル番号になります。



1 [(設定)] メニューから [番号リセット機能] を選ぶ

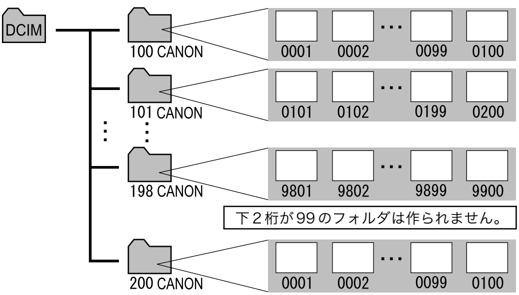
● メニューの選択と設定のしかた (p. 44)

2 [入] または [切] を選び、MENUボタンを押す

● 番号リセット機能を [切] にして撮影すると、ファイル番号が重複しないため、パソコンでまとめて管理するような場合に便利です。

ファイル番号およびフォルダ番号について

撮影した画像には、0001～9900までのファイル番号が割り振られ、各フォルダには、100～998までの番号が割り振られます（下2桁が99のフォルダは作られません。）。



ファイル番号をリセットする（つづき）

ファイル数について

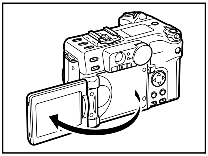
ひとつのフォルダに100画像ずつ保存されます。
ただし、連続撮影やステッチアシストモードで撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、フォルダ内に101画像以上保存されることがあります。また、他のカメラで撮影したり、パソコンから画像をコピーすると、ひとつのフォルダ内に101画像以上を保存できますが、2001以上の画像が保存されているフォルダ内の画像は、このカメラで再生できませんのでご注意下さい。

再生

1 画像ずつ見る（シングル再生）

撮影した画像を液晶モニターに表示します。

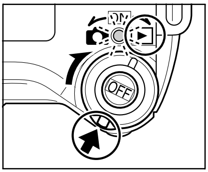
1



液晶モニターを開く

- 液晶モニターの向きは、自由に調整できます（p. 32）。

2



モードレバーを[▶]側に回す

- 最後に撮影した画像が表示されます（シングル再生）。
- 表示パネルには、Pb が表示されます。

3

十字ボタンの◀▶を押す、または電子ダイヤルをまわして、表示画像を切り換える



- ◀で前の画像、▶で次の画像が表示されます。ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。
- 電子ダイヤルを左に回すと前の画像、右に回すと次の画像が表示されます。
- **JUMP** ボタンを押して切り換えることもできます（p. 122）。
- **DISPLAY** ボタンを押すと、表示されている画像の情報が表示されます（p. 35）。
- 消去ボタンを押すと、表示されている画像を簡単に消去できます（p. 136）。

- 他のカメラで撮影したり、パソコンまたは他のアプリケーションソフトウェアで編集した画像は、このカメラで再生できないことがあります。

🔍 拡大して見る

シングル再生時､表示している画像を最大約10倍に拡大表示します。

1 ズームレバーを🔍側に押す



表示位置の目安

- 十字ボタンの◀▶または▲▼で表示位置を変更できます。
- **SET** ボタンを押しながらズームレバーを🔍側に押すと、画像が約2.5倍→約5倍→約10倍の順に拡大表示されます。また、拡大表示中に **SET** ボタンを押しながら🔍ボタンを押すと、約5倍→約2.5倍→等倍の順に戻ります。
- 動画、インデックス再生時は拡大表示できません。
- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像も、拡大できます（p. 55）。
- 電子ダイヤルを使うと、拡大したまま別の画像を選べます。
- ▦ボタンまたは **MENU** ボタンを押すと、すぐに拡大表示が解除されます。

▦ 9画像ずつまとめて見る（インデックス再生）

撮影した画像を、9画像ずつまとめて表示します。

1 シングル再生時、▦ ボタンを押す

- 9画像ずつまとめて表示されます（インデックス再生）。
- ズームレバーを ⊖ 側に1回押してインデックス再生することもできます。



動画　選択画像

2 電子ダイヤルを回す、または十字ボタンの ▲▼◀▶ を押して、選択画像を切り換える



← この位置で ▲ を押すと、前の9画像を表示する

← この位置で ▼ を押すと、次の9画像を表示する

3 ▦ ボタンを押す

- インデックス再生を終了し、シングル再生に戻ります。
- ズームレバーを ⊕ 側に 1 回押してシングル再生に戻すこともできます。
- **DISPLAY** ボタンを押すと、選択されている画像の情報が表示されます（p. 35）。

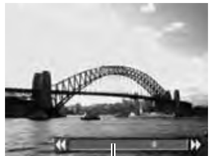
JUMP ９画像ずつ表示を切り換える

シングル再生またはインデックス再生時、画像をジャンプして表示します。

1 **シングル再生時（p. 119）またはインデックス再生時（p. 121）に、JUMP ボタンを押す**

- ジャンプバーが表示されます。

2 **電子ダイヤルを回すか、十字ボタンの ◀▶ で画像を切り換える**



ジャンプバー

シングル再生のとき

- 前または次の10画像目が表示されます。
- **SET** ボタンを押しながら十字ボタンの ◀▶ を押すと、最初または最後の画像を表示します。



ジャンプバー

インデックス再生のとき

- 前または次の９画像が表示されます。
- **SET** ボタンを押しながら十字ボタンの ◀▶ を押すと、最初または最後の９画像を表示します。

3 **JUMP ボタンを押す**

- ジャンプバーが消え、シングル再生、またはインデックス再生に戻ります。

動画を見る

🎥で撮影した動画を再生します。

1 モードレバーを[▶]側に回す

- インデックス再生のときは、動画は再生されません。

2 電子ダイヤルを回す、または十字ボタンの◀▶を押して、動画を選ぶ



- (SET)🎥が表示されている画像が動画です。

3 SETボタンを押す

- 動画再生パネルが表示されます。

4 十字ボタンの◀▶で[▶]（再生）を選び、SETボタンを押す

- 動画と音声が再生されます。



音量レベル

動画再生パネル

動画再生パネル

↩（終了）	：手順1の画面に戻る
▶（再生）	：動画と音声の再生開始
⏮（先頭フレーム）	：最初のフレームを表示
◀II（フレーム戻し）	：**SET**ボタンを押し続けると巻き戻し
II▶（フレーム送り）	：**SET**ボタンを押し続けると早送り
⏭（最終フレーム）	：最後のフレームを表示
✂（編集）	：動画の編集（p. 125）

再生中の操作

▲▼ ：再生中の音量を調節

SET ：再生の一時停止
もう一度押すと再生開始

再生・消去

動画を見る（つづき）

再生が終了すると
最後のフレームが表示されたままで停止します。

SET ：動画再生パネルを表示
もう一度押すと最初のフレームから再生開始

- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れることがあります。
- 設定メニューでも動画の再生音量を調節できます。
- テレビで動画を再生するときの音量は、テレビで調節してください。

他のカメラで撮影した動画は、再生や編集ができない場合があります。

動画を編集する

撮影した動画の前部、後部の不要な部分を削除できます。

1 編集したい動画を選び、SETボタンを押す

● 動画を見る（p. 123）

2 十字ボタンの ◀▶ で（編集）を選び、SETボタンを押す

● 動画編集パネルと、動画編集バーが表示されます。



3 十字ボタンの▲▼で編集方法を選ぶ

（前部を削除）	：動画の前部を削除
（後部を削除）	：動画の後部を削除
（終了）	：動画編集を中止し、動画再生パネルに戻る



4 十字ボタンの ◀▶ で削除する位置を選ぶ



5 十字ボタンの ▲▼ で ▶（再生）を選び、SETボタンを押す

● 仮編集された動画が再生されます。
● 再生中に**SET**ボタンを押すと、再生が停止します。

6 十字ボタンの ▲▼ で （保存）を選び、SET ボタンを押す

● を選ぶと、編集内容を保存せずに動画再生パネルに戻ります。



7 十字ボタンの ◀▶ で［上書き保存］または［新規保存］を選び、SET ボタンを押す

● [上書き保存]：編集前の画像と同じファイル名で保存されます。編集前のデータは残りません。
● [新規保存]：編集した画像に新しいファイル名をつけて保存されます。編集前のデータは残ります。
● CF カードの空き容量が足りないときは、上書き保存しかできません。



● プロテクトされている動画は編集できません。
● 編集した動画を保存するとき、約３分かかることがあります。途中でバッテリーがなくなると、編集した動画が保存できないことがありますので、動画を編集するときはフル充電のバッテリーあるいはコンパクトパワーアダプター CA-560（別売）の利用をおすすめします（p. 188）。

● 編集前の長さが１秒以上の動画を１フレーム単位で編集できます。

回転して表示する

時計方向に90度、270度に回転して表示します。

元画像



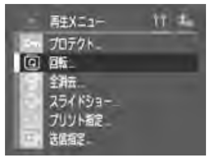
90度



270度



1 ［▶（再生）］メニューから［回転］を選ぶ



- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

2 電子ダイヤルを回す、または十字ボタンの◀▶を押して、回転したい画像を選び、SETボタンを押す



- **SET**ボタンを押すたびに、90度→270度→元画像が表示されます。

3 MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度**MENU**ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は回転表示できません。
- カメラで回転した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

- 画像を回転したあとで、拡大することもできます（p. 120）。
- 縦横自動回転の設定（p. 116）が［入］のとき、縦位置で撮影した画像をカメラの液晶モニターに表示すると、画像は自動的に縦位置に回転して表示されます。

音声メモをつける

再生中（シングル再生、インデックス再生、拡大再生、撮影直後の画像表示中）の画像に最長60秒の音声メモをつけることができます。音声データはWAVE形式で保存されます。

1 画像再生中に、ボタンを押す

- 音声メモパネルが表示されます。



音声メモパネル

2 十字ボタンの◀▶で●を選び、SETボタンを押して録音する

- 停止するときは**SET**ボタンを押します。引き続き録音をするときは、もう一度**SET**ボタンを押します。
- 1画像につき、合計が60秒に達するまで何度でも録音を追加することができます。
- 音声メモ設定を終了するには、ボタンを押します。

音声メモを再生するには

上記手順2で、▶を選びます。音声メモのついた画像には♪が表示されています（画像情報表示ありのとき）。
停止するときは**SET**ボタンを押します。引き続き再生するときは、もう一度**SET**ボタンを押します。十字ボタンの▲▼で、音量を調節できます。

音声メモを消去するには

前ページ手順２で、[icon] を選びます。

- 動画には音声メモをつけられません。
- 画像に互換性のない音声ファイルが添付されている場合、録音、再生はできません。録音、再生をしようとすると、「互換性のない WAVE です」のメッセージが表示されます。なお、互換性のない音声データはこのカメラで削除できます。
- プロテクトされている画像の音声メモは消去できません（p. 135）。

- 設定メニューでも、音声メモの音量を調節できます（p. 49）。設定メニューの［消音］を［入］にすると（p. 49）、音量は0になりますが、十字ボタンの ▲▼ での音量調節は可能です。

画像を自動再生する（スライドショー）

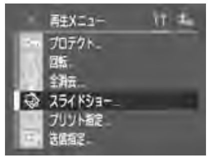
スライドショーの画像指定はDPOF (Digital Print Order Format) に準拠しています（p. 145）。

スライドショーを始める

CFカード内の全画像または選択した画像を自動再生します。

全画像	CFカード内のすべての画像を順に再生します。
ショー1～ショー3	各ショーでマークされている画像を順に再生します。

1 [▶（再生）] メニューから［スライドショー］を選んでSETボタンを押す



- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）

2 十字ボタンの▲▼で［スライド］を選び、◀▶で［全画像］、［ショー1］～［ショー3］のいずれかを選ぶ



3 十字ボタンの▲▼で［スタート］を選び、SETボタンを押す

- スライドショーが開始され、再生後、自動的にスライドショーが終了します。

スライドショーの一時停止／再開

- **SET**ボタンを押すと自動再生を一時停止します。再度**SET**ボタンを押すと、再生を続けます。

画像送り／戻し

- 十字ボタンの◀▶を押すか、電子ダイヤルを回すと、前または次の画像へ進めます。

スライドショーの中止

- 再生中に**MENU**ボタンを押すとスライドショーが中止され、スライドショーメニューが表示されます。

4 スライドショーが終了したら、MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度 **MENU** ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は、設定した再生間隔にかかわらず、記録した時間で再生されます。
- スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません （p. 30）。

再生する画像を選ぶ

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、［ショー 1］から［ショー 3］に保存します。最大 998 画像まで指定でき、選択した順番に自動再生されます。

1 スライドショーメニューを表示する （p. 131）



2 十字ボタンの▲で［スライド］を選び、◀▶で［ショー1］～［ショー3］のいずれかを選ぶ

- すでに画像指定されているショーには、チェックマーク（✓）がついています。

3 十字ボタンの▼と◀▶で［画像指定］を選んでから、SETボタンを押す

4 再生する画像を選ぶ



シングル再生のとき

- 電子ダイヤルまたは十字ボタンの ◀▶ で画像を選びます。▲▼ で選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の上部には、選択順の番号とチェックマーク（✓）が表示されます。



インデックス再生のとき

- ボタンを押してインデックス再生（3画像表示）に切り換えます。
- 電子ダイヤルまたは十字ボタンの ◀▶ で画像を選びます。▲▼ で選択、選択の解除ができます。
- 選択した画像の下部には、選択順の番号とチェックマーク（✓）が表示されます。
- **SET** ボタンを押したあと、十字ボタンの ▲▼ で［全画像指定］を選び、再度 **SET** ボタンを押すと、すべての画像が指定できます（［全指定解除］を選ぶと、すべての指定を解除できます。）。
- ［全画像指定］または［全指定解除］を行ったあと、十字ボタンの ◀▶ または電子ダイヤルで特定の画像を選び、▲▼ で設定変更できます。

5 MENU ボタンを押す

- 画像指定が終了します。

再生間隔やリピート設定をする

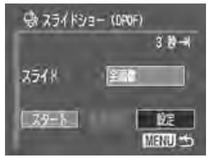
再生間隔やリピート設定をします。

再生間隔	スライドショーで1画像を表示する時間を指定します。 3～10秒、15秒、30秒、手動を指定できます。
リピート	スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

1 スライドショーメニューを表示する

2 十字ボタンの◀▶で［設定］を選び、SETボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で［再生間隔］または［リピート］を選ぶ



4 十字ボタンの◀▶で設定する

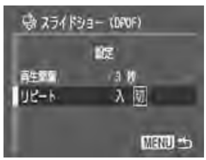
再生間隔

● 再生時間を選びます。



リピート設定

●［入］または［切］を選びます。



5 MENUボタンを押す

● 設定が終了します。

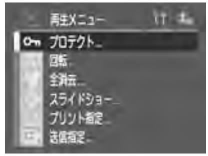
● 画像によっては、設定した時間と多少異なる再生間隔で再生されることがあります。

● 付属のZoomBrowser EXやImageBrowserを使用すると、スライドショーの編集が簡単に行えます。

画像をプロテクト（保護）する

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。

1 **[▶(再生)］メニューから［プロテクト］を選び、SET ボタンを押す**



- メニューの選択と設定のしかた (p. 44)

2 **プロテクトしたい画像を選び、SET ボタンを押す**



- プロテクトを設定した画像には、 が表示されます。
- プロテクトを設定した画像で **SET** ボタンを押すと、プロテクトを解除します。
- ボタンでシングル再生とインデックス再生を切り換えて指定できます。

3 **MENU ボタンを押す**

- 設定が終了します。

- CF カードを初期化（p. 137）すると、プロテクトした画像も消去されますので、CF カードを初期化するときは CF カード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

消去

1画像ずつ消去する

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1 消去したい画像を選び、ボタンを押す

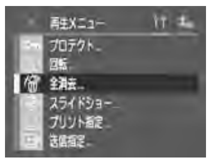
2 十字ボタンの◀▶で［消去］を選び、SETボタンを押す



- 消去を取り消すときは、［キャンセル］を選び、**SET**ボタンを押します。
- プロテクトされている画像は消去できません（p. 135）。

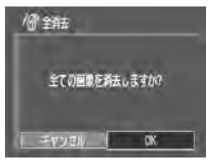
全画像を消去する

1 ［▶（再生）］メニューから［全消去］を選び、SETボタンを押す



- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）
- 「全ての画像を消去しますか？」のメッセージが表示されます。

2 十字ボタンの◀▶で［OK］を選び、SETボタンを押す



- 消去を取り消すときは、［キャンセル］を選び、**SET**ボタンを押します。
- プロテクトされている画像は消去できません（p. 135）。

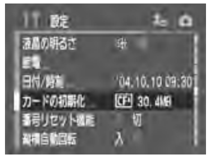
CF カードを初期化する

新しいCF カードをお使いになるときや、CF カード内の画像だけでなく、他のデータもすべて削除したいときは、CF カードを初期化（フォーマットともいいます）します。CF カードにエラーがあり、表示パネルに「CF」と表示されたときにCF カードを初期化すると、再びお使いいただけることがあります。

- CF カードを初期化すると、CF カードの記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、あらかじめ記録内容を十分に確認してから行ってください。

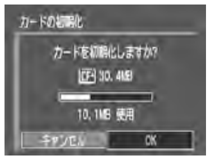
1 ［ (設定)］メニューから［カードの初期化］を選び、SET ボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた (p. 44)



2 十字ボタンの◀▶で［OK］を選び、SET ボタンを押す

- 初期化を取り消すときは、［キャンセル］を選び、**SET** ボタンを押します。
- 初期化するとき、お使いのCF カードのラベルに記載された容量よりも少ない数値が表示されますが、CF カード、またはカメラの故障ではありません。



- カメラが正しく動作しないときは、CFカードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。
- キヤノン製以外の CF カードで正しく動作しないときは、初期化することでお使いになれることがあります。
- 他のカメラやパソコン、周辺機器で初期化した CF カードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。正しく初期化されないときは、電源を切ってから、CF カードを入れ直し、再度初期化してください。

プリント指定

プリントについて

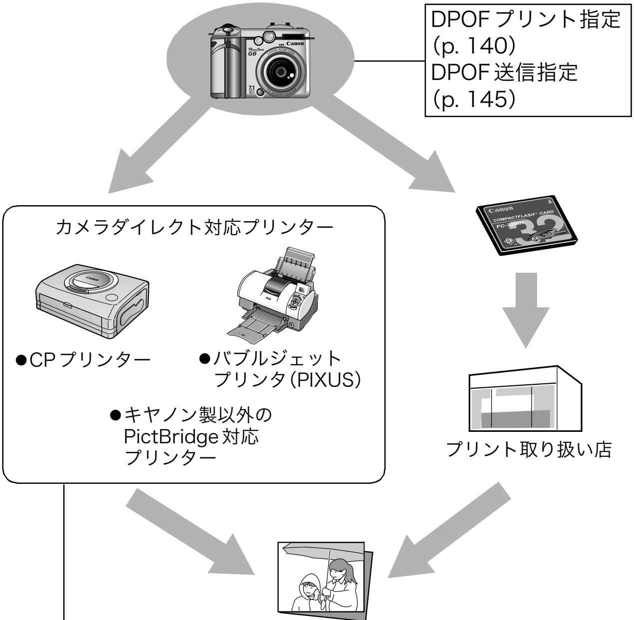
このカメラで撮影した画像は、次の方法でプリントできます。

- カメラとカメラダイレクト対応プリンター＊[1]をケーブルで直接つなぎ、カメラの**SET**ボタンを押すだけで、簡単にプリントできます。
- プリントする画像や枚数などを、あらかじめカメラで設定（DPOF＊[2]プリント設定）しておけば、CF カードをプリント取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定どおりにプリントできます。

＊[1] このカメラは標準規格「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応していますので、キヤノン製以外の PictBridge 対応プリンターでもプリントできます。

＊[2] Digital Print Order Formatの略

本書では DPOF のプリント指定を説明しています。プリント方法は、別冊のダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。また、お使いのプリンターの使用説明書もご覧ください。



カメラダイレクト対応プリンターでのプリント
→ダイレクトプリントユーザーガイド
→お使いのプリンターの使用説明書

- このカメラで使えるプリンターについて
  カメラダイレクト対応CPプリンター
  →システムマップ
  カメラダイレクト対応バブルジェットプリンタ
  →裏表紙に記載されているホームページ
  インクジェットプリンタ総合カタログ
  キヤノン販売お客様相談センター

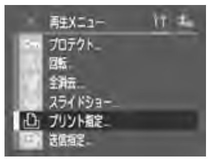
DPOFのプリント指定

CF カードに記録されている画像のプリント条件をあらかじめカメラで指定できます。プリントする画像の選択、プリント枚数、日付印刷などが指定できます。カメラダイレクト対応プリンターで一括してプリントするときや、プリント取り扱い店に注文するときに大変便利です。
プリンターからプリントする方法は、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

- DPOF 対応の他のカメラでプリント指定された CF カードの場合、⚠が表示されることがあります。このカメラでそれらのプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。
- プリンターまたはプリント取り扱い店によっては、指定内容が反映されないことがあります。
- 動画、記録形式が RAW の画像は、プリント指定できません。

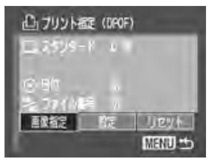
プリントする画像を選ぶ

1 **[▶(再生)]メニューから[プリント指定]を選んで SET ボタンを押す**



- メニューの選択と設定のしかた (p. 44)

2 **十字ボタンの◀▶で[画像指定]を選び、SET ボタンを押す**



3 プリントする画像を選ぶ



1画像ずつ指定するとき

- プリントタイプ（p. 142）が［スタンダード］/［両方］の場合、電子ダイヤルまたは十字ボタンの ◀▶ で画像を選びます。十字ボタンの ▲▼ で、プリント枚数が指定できます（最大 99 枚まで）。



- プリントタイプ（p. 142）が［インデックス］の場合、電子ダイヤルまたは十字ボタンの ◀▶ で画像を選び、▲▼ で、指定、指定解除を行います。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ボタンを押してインデックス再生（3画像表示）に切り換えても、同じ方法で指定できます。



CF カード内のすべての画像を指定するとき

- ボタンを押してインデックス再生（3画像表示）に切り換えます。
- **SET** ボタンを押した後で、十字ボタンの ▲▼ で［全画像指定］を選び、再度 **SET** ボタンを押すと、すべての画像に対して1枚ずつプリント指定されます。
- プリントタイプが［スタンダード］/［両方］の場合、各画像のプリント枚数を変更できます。［インデックス］の場合は、プリント指定の解除ができます。変更方法は、手順 3 のはじめからもう一度ご覧ください。
- ［全指定解除］を選ぶと、すべての指定を解除できます。

4 MENU ボタンを押す

- プリント指定が終了し、［プリント指定］メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。
- ［プリントタイプ］が［両方］の場合、プリント枚数は指定できますが、［インデックス］の場合は指定できません。［インデックス］では1枚のみプリントされます。
- 付属のソフトウェア（ZoomBrowser EXまたはImageBrowser）を使ってプリント指定ができます。

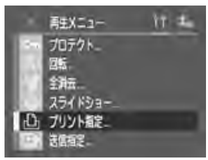
プリントスタイルを設定する

次のプリントスタイルを設定できます。

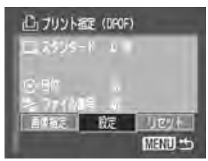
プリントタイプ	スタンダード	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	インデックス形式で画像を縮小してプリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。
ファイル番号		ファイル番号を入れてプリントします。

1 ［(再生)］メニューから［プリント指定］を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた (p. 44)

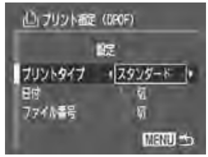


2 十字ボタンの◀▶で［設定］を選び、SETボタンを押す



3 十字ボタンの▲▼で［プリントタイプ］、［日付］、［ファイル番号］のいずれかを選ぶ

4 十字ボタンの◀▶で設定する



プリントタイプ

- ［スタンダード］、［インデックス］、［両方］のいずれかを選びます。

日付

- ［入］または［切］を選びます。

ファイル番号

- ［入］または［切］を選びます。

5 MENUボタンを押す

- 設定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

- ［プリントタイプ］が［インデックス］の場合、［日付］と［ファイル番号］を同時に［入］に設定することはできません。
- ［プリントタイプ］を［両方］または［スタンダード］に設定している場合、［日付］と［ファイル番号］を同時に［入］に設定できます。ただし、お使いのプリンターによって、プリントできる情報が異なることがあります。

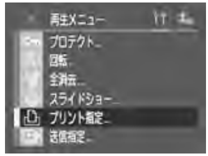
- 日付は、［日付/時刻］で設定した日付スタイルでプリントされます（p. 26）。

プリントの設定をリセットする

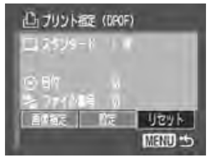
プリント指定された画像をすべて解除し、プリントタイプを［スタンダード］、日付を［切］、ファイル番号を［切］に戻します。

1 ［▶（再生）］メニューから［プリント指定］を選んで SET ボタンを押す

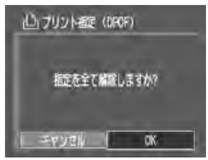
- メニューの選択と設定のしかた (p. 44)



2 十字ボタンの◀▶で［リセット］を選び、SET ボタンを押す



3 十字ボタンの◀▶で［OK］を選んだ後、SET ボタンを押す



画像の送信指定（DPOF送信指定）

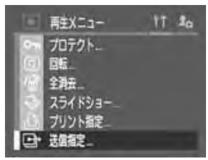
パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラ側で指定できます。パソコンへの送信方法はソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
この指定は、DPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。

- DPOF対応の他のカメラで送信指定されたCFカードの場合、⚠が表示されることがあります。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、設定済みの送信指定は、すべて書き換えられます。

送信する画像を選ぶ

1 **［▶（再生）］メニューから［送信指定］を選び、SETボタンを押す**

- メニューの選択と設定のしかた（p. 44）



2 **十字ボタンの◀▶で［画像指定］を選び、SETボタンを押す**

- ［リセット］を選ぶと、送信指定された画像をすべて解除します。



3 送信する画像を選ぶ

1 画像ずつ指定するとき



- 電子ダイヤルまたは十字ボタンの ◀▶ で画像を選び、▲▼ で、指定、指定解除を設定します。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ボタンを押してインデックス再生（3 画像表示）に切り換えても、同じ方法で指定できます。

CF カード内のすべての画像を指定するとき



- ボタンを押してインデックス再生（3 画像表示）に切り換えます。
- **SET** ボタンを押したあと、十字ボタンの ▲▼ で［全画像指定］を選び、再度 **SET** ボタンを押すと、すべての画像が指定されます（［全指定解除］を選ぶと、すべての指定を解除できます）。
- ［全画像指定］または［全指定解除］を行ったあと、十字ボタンの ◀▶ または電子ダイヤルで特定の画像を選び、▲▼ で設定変更できます。

4 MENU ボタンを押す

- 送信指定が終了し、送信指定メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順に送信されます。
- 最大 998 画像まで指定できます。

パソコンへの画像の取り込み

カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法は以下のとおりです。お使いのOSによっては利用できない方法があります。

● カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

Windows 98 SE ｜ Windows Me ｜ Windows 2000 ｜ Windows XP ｜ Mac OS X

- ソフトウェアをインストールし、パソコンの操作で画像を取り込む
  →「カメラとパソコンを接続して画像を取り込む」（p. 148）、別冊のソフトウェアクイックガイド

Windows 98 SE ｜ Windows Me ｜ Windows 2000 ｜ Windows XP

- ソフトウェアをインストールし、カメラのボタン操作で画像を取り込む（初回のみパソコンの設定が必要）
  →「カメラとパソコンを接続して画像を取り込む」（p. 148)、「ダイレクト転送で画像を取り込む」（p. 152）

Windows XP ｜ Mac OS X

- ソフトウェアをインストールせずに、パソコンの操作で画像を取り込む
  →「カメラとパソコンを接続して画像を取り込む」（p. 148）（ソフトウェアのインストールは必要ありません)、「ソフトウェアを使わずに、カメラとパソコンを接続して画像を取り込む」（p. 154）

● CFカードから直接画像を取り込む

カードアダプターやカードリーダーを使って画像を取り込みます。
→「CFカードから直接画像を取り込む」（p. 155）

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

パソコンに必要なシステム構成

● Windows

OS	Windows 98 Second Edition (SE) Windows Me Windows 2000 Service Pack 4 Windows XP（Service Pack 1を含む）
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	Pentium 500MHz以上
RAM	Windows 98SE/Windows Me : 128MB以上 Windows 2000/Windows XP : 256MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	●Canon Utilities ZoomBrowser EX : 250MB以上 （印刷ソフトウェアPhotoRecord含む） PhotoStitch : 40MB以上 ●Canon Camera TWAIN Driver : 25MB以上 ●Canon Camera WIA Driver : 25MB以上
ディスプレイ	1024×768ドット High Color（16bit）以上

● Macintosh

OS	Mac OS X (v10.1.5～v10.3)
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	PowerPC G3/G4/G5
RAM	256MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	●Canon Utilities ImageBrowser : 200MB以上 PhotoStitich : 40MB以上
ディスプレイ	1024×768ドット 32,000色以上

カメラとパソコンを接続する前に、必ず付属の Canon Digital Camera Solution Diskに収められているドライバとソフトウェアをインストールしてください。

- ドライバとソフトウェアをインストールする前にカメラとパソコンを接続すると、カメラが正しく認識されません。このような場合には、ソフトウェアクイックガイドの「困ったときには」をご覧ください。

- インターフェースケーブルを接続するときに、カメラやパソコンの電源を切る必要はありません。
- パソコンのUSBポートの位置は、お使いのパソコンの取扱説明書で確認してください。
- カメラをパソコンに接続する場合、フル充電したバッテリーまたはコンパクトパワーアダプターCA-560（別売）をお使いになることをおすすめします（p. 18、188）。
- USB2.0対応ボードとの接続は、すべての動作を保証するものではありません。

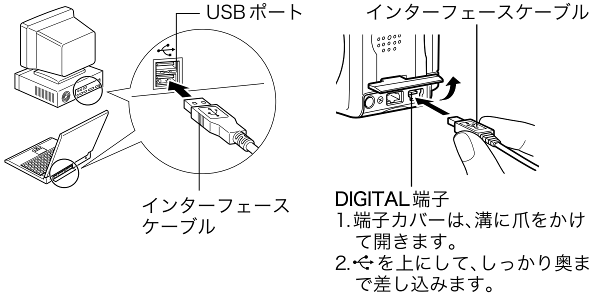
1 Canon Digital Camera Solution Diskから、ドライバとソフトウェアをインストールする

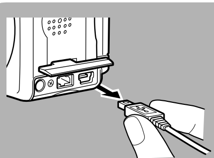
- インストールの手順は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

Macintoshの場合は、この後、ImageBrowserの自動起動の設定が必要です。詳しくはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

2 付属のインターフェースケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのDIGITAL端子を接続する

● パソコンへの接続が完了すると、電源/モードランプが黄色に点灯します。





カメラのDIGITAL端子からケーブルを取り外すときは、必ず、コネクターの側面を持って、取り外してください。

Windowsをお使いの場合
→ 引き続き、以下の手順3を行ってください。

Macintoshをお使いの場合
→ ソフトウェアクイックガイドをご覧になり、画像の取り込みを行ってください。

3 パソコンに表示されるイベントダイアログで、[Canon CameraWindow]を選んで[OK]をクリックする（初回操作時のみ）



●イベントダイアログが表示されない場合は、スタートメニューから、[プログラム]または[すべてのプログラム]>[Canon Utilities]>[CameraWindow]>[CameraWindow]をクリックします。

以下のウィンドウが表示されます。



●ソフトウェアを使ってパソコンの操作で画像を取り込む場合
→ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
●カメラの操作で画像を取り込む（ダイレクト転送）場合
→「ダイレクト転送で画像を取り込む」(p. 152)をご覧ください。

ダイレクト転送で画像を取り込む

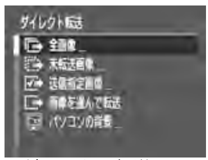
カメラの操作で画像を取り込めます。
はじめてダイレクト転送で画像を取り込むときは、付属のソフトウェアを最初にインストールし、パソコンの設定をしておいてください（p. 148）。

	全画像	すべての画像をパソコンに取り込み、保存します。
	未転送画像	まだ取り込んでいない画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	送信指定画像	送信指定（p. 145）した画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	画像を選んで転送	画像を見ながら1画像ずつパソコンに取り込み、保存します。
	パソコンの背景	画像を見ながらパソコンのデスクトップの背景にしたい画像を取り込みます。取り込んだ画像は、パソコンのデスクトップに背景として表示されます。

1 **付属のインターフェースケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのDIGITAL端子を接続する（p. 150の手順2をご覧ください。）**

2 **カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されていることを確認する**

- ダイレクト転送画面が表示されない場合は、**MENU**ボタンを押してください。



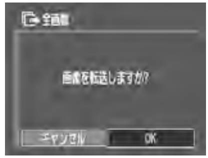
ダイレクト転送画面

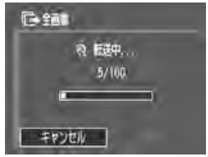
[全画像][未転送画像][送信指定画像]のとき → 手順3a、4a

[画像を選んで転送][パソコンの背景]のとき → 手順3b、4b

3a **十字ボタンの▲▼で、、のいずれかを選び、SETボタンを押す**

4a 十字ボタンの ◀▶ で［OK］を選び、SET ボタンを押す





- 「転送中」のメッセージが表示されます。
- 取り込みを中止するときは、**SET** ボタンを押してキャンセルします。
- 画像が取り込まれ、取り込みが終了すると、ダイレクト転送画面に戻ります。

3b 十字ボタンの ▲▼ で 、 のいずれかを選び、SET ボタンを押す

4b 十字ボタンの◀▶または電子ダイヤルで取り込みたい画像を選び、SET ボタンを押す



- 画像が取り込まれます。

5 MENU ボタンを押す

- ダイレクト転送画面に戻ります。

- [パソコンの背景] の場合、JPEG形式の画像のみが取り込めます。取り込んだ後は、BMP 形式に自動変換されます。

ソフトウェアを使わずに、カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

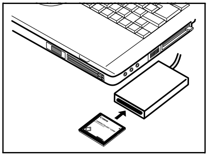
Windows XP または Mac OS X（v10.1.5～v10.3）をお使いの場合、OS に標準で組み込まれているソフトウェアを使って、画像を取り込めます。
Canon Digital Camera Solution Disk からソフトウェアをインストールする必要がなく、インターフェースケーブルでカメラとパソコンを接続するだけで、会社やお友達のパソコンに画像を取り込めますので、便利です。
ただし、この方法で画像を取り込む場合、いくつかの制限事項があります。詳細は、付属の「Windows® XP、Mac OS X をお使いの方へ」でご確認ください。

1 **付属のインターフェースケーブルで、パソコンの USB ポートとカメラの DIGITAL 端子を接続する（p. 150 の手順 2 をご覧ください。）**

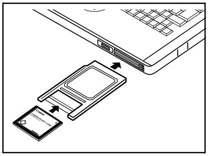
2 **パソコンに表示されるメッセージにしたがって画像を取り込む**

CFカードから直接画像を取り込む

1



カメラから CF カードを取り出し、パソコンに接続された CF カードリーダーに入れる



- PCカードリーダーまたはPCカードスロットをお使いの場合は、まずCFカードを PC カードアダプター（別売）に差し込んでから入れてください。
- カードアダプターやカードリーダーへの接続のしかたなどは、各々の取扱説明書でご確認ください。

2 **CFカードを接続したドライブをダブルクリックして開く**

- OS によっては、自動的に画面が表示されます。

3 **撮影した画像をハードディスクの任意の場所にコピーする**

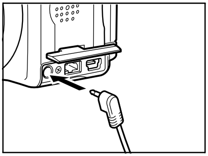
- 画像は、CF カード内の［DCIM］フォルダの中の［xxxCANON］フォルダ（xxx は 100 ～ 998 の数字が入ります）にあります（p. 117）。

テレビを使って撮影/再生する

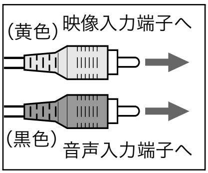
付属の AV ケーブル AVC-DC300 を使用すると、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。
ビデオ出力形式は、日本国内で採用しているNTSC方式に設定されています。

1 カメラとテレビの電源を切る（p. 30）

2 カメラのA/V OUT端子にAVケーブルを接続する



3 テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する



4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

5 モードレバーを📷または▶に合わせる（p. 29）

- 画像がテレビに表示されます。通常の撮影や再生ができます。

- テレビ表示中は、液晶モニターに画像は表示されません。
- 海外で使うとき（p. 191）
- AV ケーブルをステレオ対応のテレビに接続する場合は、音声入力端子の左右どちらかに接続してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書でご確認ください。
- ⧉では使用できません。

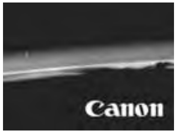
カメラを自分好みにする（マイカメラ機能）

カメラの起動画面や起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を「マイカメラコンテンツ」と呼びます。このカメラでは起動画面や音をそれぞれ３種類から選べます。

［例：起動画面］



［1］



［2］



［3］

初期設定時は、マイカメラコンテンツの［2］にはSF関連、［3］には動物関連のコンテンツが入っています。

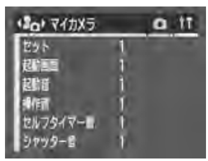
マイカメラコンテンツを変更する

1 電源を入れ、MENUボタンを押す

- ［（撮影）］メニューまたは［（再生）］メニューが表示されます。

2 十字ボタンの▶で［（マイカメラ）］メニューを選ぶ

- **JUMP** ボタンを押すと、メニューの切り換えができます。



3 **十字ボタンの▲▼でメニュー項目を選び、◀▶ で設定したいコンテンツを選ぶ**



4 **MENU ボタンを押す**

- メニューが終了し、設定が有効になります。
- 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます（再生モードのときにシャッターボタンを半押しすると、メニューが終了し、撮影モードになります。）。

- すべて同じコンテンツに設定したいときは、手順３で［セット］を選びます。
- マイカメラメニューでコンテンツを選択していても、［ (設定)］メニューの［消音］が［入］になっているときは、警告音以外の音は鳴りません（p. 49）。起動画面は表示されます。

マイカメラコンテンツを新規登録する

に新しいコンテンツを登録します。
CF カードに記録してある画像や新たに録音した音声を、マイカメラコンテンツとしてその場ですぐにカメラに登録できます。付属のソフトウェアを使うと、パソコンにある画像や音声、CANON iMAGE GATEWAY からダウンロードしたコンテンツをカメラに登録することもできます。
コンテンツを登録できる項目は、以下のとおりです。

・起動画面
・シャッター音
・セルフタイマー音
・操作音
・起動音

- マイカメラコンテンツを初期設定に戻すには、パソコンが必要です。付属のソフトウェア（ZoomBrowser EX/ImageBrowser）を使い、初期設定のコンテンツをカメラに登録してください。

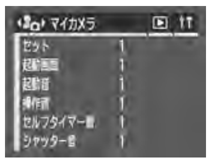
CF カード内の画像や音声を登録する

1 モードレバーを（再生）側に回し、MENU ボタンを押す

- ［（再生）］メニューが表示されます。

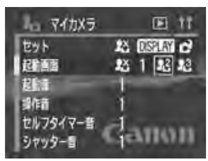
2 十字ボタンの ▶ で［（マイカメラ）］メニューを選ぶ

- **JUMP** ボタンを押すと、メニューの切り換えができます。



3 十字ボタンの ▲▼ で登録したいメニュー項目を選び、◀▶ で［］または［］を選ぶ

- DISPLAY が表示されます。



4 DISPLAYボタンを押す



- 画面が表示されます。

［起動画面］→ 手順5a、6a

［起動音］［シャッター音］［操作音］
［セルフタイマー音］→ 手順5b、6b

5a 十字ボタンの◀▶で登録したい画面を選ぶ



6a SETボタンを押す

5b 十字ボタンの ◀▶ で［●（録音）］を選び、SETボタンを押す



- 録音が開始されます。
- 一定時間が経過すると、自動的に録音が終了します。
  起動音：1秒
  操作音：0.3秒
  セルフタイマー音：2秒
  シャッター音：0.3秒

6b 十字ボタンの ◀▶ で［（登録）］を選び、SETボタンを押す

7 十字ボタンの◀▶で［OK］を選び、SETボタンを押す



● 以下のデータは、マイカメラコンテンツに登録できません。
・RAW画像
・動画
・音声メモ機能（p. 129）で記録した音声
● 新しいマイカメラコンテンツを登録すると、以前に登録されていたコンテンツは消去されます。

マイカメラコンテンツのファイルフォーマット

マイカメラコンテンツは、以下のファイルフォーマットにしたがっていることが必要です。ただし、このカメラで撮影したCFカード内の画像は、下記フォーマットに関係なく登録できます（RAW画像、動画、音声メモ機能（p. 129）で記録した音声を除く）。

● 起動画面

・記録画像フォーマット	JPEG（ベースライン JPEG）
・サンプリングレート	4：2：0または4：2：2
・画像サイズ	320 × 240画素
・ファイル容量	20KB以下

● 起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音

・記録フォーマット	WAVE（モノラル）
・量子化ビット	8bit
・サンプリング周波数	11.025kHzまたは8.000kHz
・記録時間	

	11.025kHz	8.000kHz
起動音	1.0秒以下	1.3秒以下
操作音	0.3秒以下	0.4秒以下
セルフタイマー音	2.0秒以下	2.0秒以下
シャッター音	0.3秒以下	0.4秒以下

上記フォーマット以外のファイルは、カメラに登録できません。

マイカメラコンテンツを新規登録する（つづき）

たとえば、［セルフタイマー音］で、「はい、チーズ！」などの掛け声を登録すると、シャッターが切れる２秒前にカメラが発声し、また他にもさまざまな音をお楽しみいただけます。陽気なリズムの音楽を登録すれば、目元もほころび、自然な笑顔を撮影できるかもしれません。演奏に合わせてポーズを決めるのも、マイカメラならではの撮影方法です。

マイカメラコンテンツの登録、作成についての詳細は、付属のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

オンラインサービスの利用

CANON iMAGE GATEWAYを利用する

CANON iMAGE GATEWAY は、キヤノンのデジタルカメラを購入された方がお使いになれるオンラインフォトサービスです。オンラインで会員登録（無料）されると、いろいろなサービスがご利用いただけます。

http://www.imagegateway.net/

- 最新のサービス内容は、上記のサイトでご確認いただけます。
- 会員登録方法は、上記のサイト、またはソフトウェアクイックガイドでご確認いただけます。

* インターネットに接続できる環境（プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み）が必要です。

* プロバイダとの接続料金、およびプロバイダのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

CANON iMAGE GATEWAYの会員になるとできること

ー次のサービスをご利用いただけますー

バージョンアップなど サポート情報の電子メール配信サービス（無料）

登録されたカメラのファームウェア / ソフトウェアのバージョンアップに関する最新情報を、ご希望の方にお知らせいたします。

オンラインアルバムサービス（無料）



・撮影した静止画や動画*をCANON iMAGE GATEWAYにアップロードし、ネット上にご自分のアルバムを作成できます。

・画像につけたコメントや音声もアップロードできますので、オリジナルのアルバムをお楽しみいただけます。

* 動画をアップロードするには、追加ソフトウェア（無料）を CANON iMAGE GATEWAY からダウンロードし、事前にパソコンにインストールすることが必要です。

オンラインサービス

携帯電話アルバム通知・閲覧サービス（無料）





- お友達やご家族のパソコンや携帯電話に、作成したアルバムの URL をメールで知らせることができます。オンラインアルバムは、メールで通知された URL からパソコンや携帯電話で直接見られるので、楽しい思い出を共有できます*（パソコンからは動画も閲覧できます）。
- 携帯電話は、お使いの機種に合わせて画像の大きさや色数が自動的に調整されます。

* 携帯電話の通信料金は使用された方のご負担となります。また、カラー表示可能な携帯電話をご利用ください。

ホームプリンティングサービス（無料）

画面上の印刷ボタンを押すだけで、オンラインアルバム上のお好きな画像を、対応のキヤノン製プリンターで印刷できます*。ご自身だけでなく、お知らせメールを受けたお友達やご家族の方にもご利用いただけます。

* ご利用の際には、プラグインモジュールを CANON iMAGE GATEWAY からダウンロードして、パソコンにインストールすることが必要です。

プリント注文サービス（有料）



- オンラインアルバムの画像は、インターネットから24時間、いつでもプリント注文できます。
- ご自身だけでなく、公開されたアルバムを見たお友達やご家族の方も注文できます。
- プリントサイズは DP 判、L 判、2L 判、A4 判、A3 判、ポストカードサイズに対応しています。
- プリントは、提携のプリントサービス会社から指定の場所に配送されます。

・代金はクレジットカード、もしくは最寄りのコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を使って（コンビニ決済)、簡単にお支払いいただけます。
・携帯電話からもプリントを注文できます。

オリジナル写真集（マイブック）作成サービス（有料）

・CANON iMAGE GATEWAY のオンラインアルバムをプリント / 製本して、本格的なオリジナル写真集をインターネットから24時間、いつでも注文できます。
・ご自身だけでなく、公開されたアルバムを見たお友達やご家族の方も注文できます。
・写真集は、提携のプリントサービス会社から指定の場所に配送されます。
・代金はクレジットカード、もしくは最寄りのコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を使って（コンビニ決済)、簡単にお支払いいただけます。

マイカメラコンテンツのダウンロード（無料）

・マイカメラコンテンツをダウンロードし、カメラに登録できます。
・多彩なコンテンツが用意されていますので、お好きなものをダウンロードしてカメラに登録すれば、ご自分だけのオリジナルカメラをお楽しみいただけます。



＊ 画面例はWindows XP用です。また、最新の画面表示と異なることがあります。

エラーコード / メッセージコード一覧

表示パネルに表示されるエラーコード、メッセージコードには以下のものがあります。

エラーコード

Exx	：カメラに異常が発生しました。いったん電源を切ったあと、再び撮影または再生してください。頻繁にこのエラーコードが表示されるときは故障ですので、「xx」の数値を控えて修理サービス相談窓口へお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

メッセージコード

Pb	：画像の再生中です。
PC	：PC モードでパソコンと接続中です。
	：バッテリーの容量は十分です。
	：バッテリーの残量が低下しています。長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。
 Lb	：バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに新しいバッテリーに交換、または充電してください。
CF	：CF カードが入っていない、またはCF カード / バッテリーカバーが開いています。あるいはCF カードのエラーです。
LENS	：レンズを手で押さえたまま電源を入れました。一度電源を切って、入れ直してください。
Int	：インターバル撮影（間隔を開けた自動撮影）時です（最初の１画像を撮影したあとは、残りの撮影画像数が表示されます。）。

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

● プリンターを接続しているときに表示されるメッセージについては、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

処理中…	：撮影した画像をCFカードに記録しています。 再生モードを起動中です。 設定を初期化しています。
カードがありません	：CFカードがカメラに入っていないときに、カメラの電源を入れました。
記録できません	：CFカードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。
カードが異常です	：CFカードに異常があります。
カードがいっぱいです	：CFカードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上記録や保存ができません。または、これ以上画像指定（スライドショーやプリントなど）や音声メモの録音ができません。
ファイル名が作成できません	：カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでにファイル番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。設定メニューから[番号リセット機能]を[入]に設定してください。必要な画像をパソコンに取り込んだ後、CFカードを初期化してください（p. 137）。なお、初期化すると、CFカード内の画像およびデータはすべて消去されます。
バッテリーを交換してください	：バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに充電されたバッテリーに交換するか、バッテリーを充電してください。
画像がありません	：CFカードに画像が記録されていません。
画像が大きすぎます	：4064 × 3048画素より大きなサイズの画像を再生しようとしました。
互換性のないJPEGです	：互換性のないJPEGフォーマットの画像を再生しようとしました。
データが壊れています	：データの破壊されている画像を再生しようとしました。
RAW	：異なる形式のRAW画像を再生しようとしました。

拡大できない画像です	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を拡大しようとしました。
回転できない画像です	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を回転しようとしました。
認識できない画像です	：特殊なフォーマット（他社カメラ特有の記録フォーマットなど）で撮影した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。
互換性のないWAVEです	：録音済みの音声メモの形式が正しくないので、この画像に追加録音できません。
プロテクトされています	：プロテクトされている動画や画像を削除しようとしました。
指定が多すぎます	：プリント指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。
指定できない画像です	：JPEG以外のファイルをプリント指定しようとしました。
指定完了できませんでした	：プリント指定、送信指定、またはスライドショーの画像指定を保存できませんでした。
編集できません	：スライドショー指定ファイルが壊れています。
登録できない画像です	：このカメラ以外で撮影した画像や、動画、RAW形式で撮影した画像を起動画面に登録しようとしました。
変換できません	：デジタルズームで撮影した画像や、もともとRAW形式で撮影した画像を、RAW形式に変換して記録しようとしました。

故障かなと思ったら

現象	原因	対処
カメラが動作しない	電源が入っていません。	●電源を入れてください。 →「電源を入れる/切る」（p. 28）参照
	CFカードスロットカバーまたはバッテリーカバーが開いています。	●CFカードスロットカバーまたはバッテリーカバーをしっかり閉めてください。
	バッテリーの電圧が足りません。 （表示パネルに「Lb」が点灯）	●バッテリーを十分に充電してカメラに入れてください。 ●コンパクトパワーアダプターを使用してください。
	カメラとバッテリーの接触不良です。	●バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。
撮影ができない	再生モード、またはパソコン接続/プリンター接続モードになっています。	●撮影モードに切り換えてください。 →「撮影/再生を切り換える」（p. 31）参照 ●パソコン接続/プリンター接続モード時は、インターフェースケーブルを抜いてから撮影モードに切り換えてください。
	ストロボが充電中です。 （液晶モニターの⚡が点滅表示）	●充電が完了すると、ランプが橙色に点灯します。それからシャッターボタンを押してください。
	CFカードの空き容量がありません。	●新しいCFカードを入れてください。 ●必要であれば、CFカードに記録されている画像をパソコンに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。

現象	原因	対処
撮影ができない	CF カードが正しく初期化されていません。	●CF カードを初期化してください。 →「CF カードを初期化する」（p. 137）参照 ●CF カードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。キヤノンのお客様ご相談センターにお問い合わせください。
再生ができない	他のカメラで撮影した画像やパソコンで編集した画像を再生しようとしました。	●付属の ZoomBrowser EX や ImageBrowser を使って、再生できない画像をパソコンからカメラに追加すると、再生できることがあります。 ZoomBrowser EX/ImageBrowser ソフトウェアガイド（PDF）をご覧ください。
	ファイル名をパソコンで変更したり、ファイルの場所を変えました。	●ファイル名およびファイル番号は、カメラの形式にあったファイル名にしてください。 →「ファイル番号およびフォルダ番号について」（p. 117）参照
レンズが出たままで収納されない	電源を入れたまま、CF カードスロットカバーやバッテリーカバーを開けようとしました。	●CF カードスロットカバーとバッテリーカバーを閉じた後、電源を切ってください。
	CF カードへの記録中に、CF カードスロットカバーやバッテリーカバーを開けようとしました(警告音が鳴ります。)。	●CF カードスロットカバーとバッテリーカバーを閉じた後、電源を切ってください。

現象	原因	対処
バッテリーの消耗が早い	フル充電の状態で、長期間（1年くらい）放置したために、バッテリーの容量が低下しています。	●新しいバッテリーと交換してください。
	バッテリーの寿命です。	●新しいバッテリーと交換してください。
バッテリーが充電できない	バッテリーの寿命です。	●新しいバッテリーと交換してください。
	バッテリーとバッテリーチャージャーの接触不良です。	●バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。 ●バッテリーをバッテリーチャージャーにしっかりとセットしてください。 ●バッテリーチャージャーのコネクターをしっかり差し込んでください。
カメラ内部で音がする	カメラの縦･横の向きが変わりました。	●カメラの向きを検出する機構が働いています。カメラの故障ではありません。
画像がぼやけている ピントがあまい	カメラが動いています。	●シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。 ●シャッタースピードが遅く（手ブレ警告）が表示されたときは、三脚をお使いください。
	AF補助光投光部が何かで覆われているため、AFが機能していません。	●AF補助光投光部に、指などがかからないように注意してください。
	AF補助光の設定が[切]になっています。	●AF補助光の設定を［入］にしてください。 →「撮影メニュー」（p. 46）参照

現象	原因	対処
画像がぼやけている ピントがあまい	被写体がピントの合う範囲からはずれています。	●被写体から 50cm 以上離してください。 ●被写体から 5cm（ワイド端）/15cm（テレ端）〜 50cm の距離で撮影するときは、マクロモードで撮影してください。 ●被写体から 5 〜 20cm（ワイド端〜 86mm）*の距離で撮影するときは、スーパーマクロモードも使用できます。 * ズーム位置（35mm フィルム換算）
	ピントが合いにくい被写体です。	●フォーカスロックかマニュアルフォーカスで撮影してください。 →「ピントが合いにくい被写体を撮る」（p. 109）参照
撮影した画像の被写体が暗すぎる	撮影時の光量が不足しています。	●内蔵ストロボを常時発光にしてください。 ●光量の大きな外付けストロボをお使いください。
	被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	●露出補正値をプラス側に設定してください。 ●AE ロックまたはスポット測光機能をお使いください。 →「露出を固定して撮る（AE ロック）」（p. 101）「測光方式を切り換える」（p. 88）参照
	被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	●内蔵ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から 70cm 〜 5m（ワイド端）/4m（テレ端）の範囲でお使いください。 ●光量の大きな外付けストロボをお使いください。 ●ISO 感度を上げて撮影してください。 →「ISO 感度を変更する」（p. 94）参照

現象	原因	対処
撮影した画像の被写体が暗すぎる	[NDフィルター]が[入]になっています。	●[NDフィルター]を[切]にしてください。 →「NDフィルターを使う」(p. 115)参照
撮影した画像の被写体が明るすぎる	被写体が近すぎて、ストロボ光が強すぎます。	●ストロボをお使いになるときは、ストロボ調光補正(p. 104)でストロボの発光量を調節してください。
	被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	●露出補正値をマイナス側に設定してください。 ●スポット測光やAEロック機能を使用してください。 →「露出を固定して撮る(AEロック)」(p. 101)「測光方式を切り換える」(p. 88)参照 ●[NDフィルター]を[入]にしてください。 →「NDフィルターを使う」(p. 115)参照
	照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	●被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
	ストロボが常時発光になっています。	●ストロボをオートまたは発光禁止にしてください。
液晶モニターに縦に赤紫などの色の帯が表示される	被写体が極端に明るすぎます。	●CCD特有の現象で、カメラの故障ではありません(動画にはこの帯が記録されますが、静止画には記録されません)。 ●[NDフィルター]を[入]にすると軽減されることがあります。 →「NDフィルターを使う」(p. 115)参照

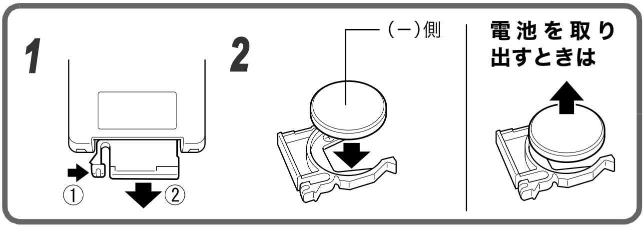
現象	原因	対処
画像に白い点などが写る	ストロボ撮影時に空気中のちりやほこり、虫などにストロボ光が反射しました。特に以下の条件で目立ちやすくなります。 ・ワイド側で撮影した場合 ・絞り優先AEで絞り数値を大きくして撮影した場合	●デジタルカメラ特有の現象で、カメラの故障ではありません。
ストロボが発光しない	ストロボが発光禁止になっています。	●ストロボを常時発光にしてください。
テレビに出力できない	お使いの地域のビデオ出力形式に合っていません。	●正しいビデオ出力形式（NTSCまたはPAL）に合わせてください。 →「設定メニュー（p. 50）」参照 日本国内の出力形式は「NTSC」です。
	（スティチアシスト）で撮影しています。	● ではテレビに出力できません。他の撮影モードで撮影してください。
ズームの操作ができない	動画撮影中に、ズームレバーを操作しました。	●動画を撮影する前に、ズーム操作をしてください。
CFカードからの画像の読み出しが遅い CFカードへの画像の記録時間が長い	違う機器で初期化したCFカードが入っています。	●このカメラで初期化したCFカードをお使いください。 →「CFカードを初期化する」（p. 137）参照

ワイヤレスコントローラーの使いかた

電池を取り付ける

ご使用の前に、ワイヤレスコントローラーにコイン型リチウム電池（CR2025）を取り付けてください。

- コイン型リチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。



1 ①に爪をかけて矢印の方向に押しながら、②に爪をかけて電池ホルダーを取り出す

2 電池の（－）側を上にして、電池ホルダーに取り付けて、元に戻す

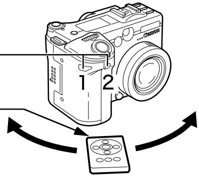
電池を取り出すときは

矢印の方向に引き抜くように取り出してください。

付録

撮影/再生する

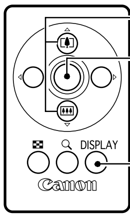
ワイヤレスコントローラーを使って、撮影や再生ができます。リモコン受信部の正面から約5 m、横から約1 m離れて撮影や再生ができます。



マクロリングライト MR-14EXやマクロツインライトMT-24EX装着時は、2のリモコン受信部を覆ってしまうので、1のリモコン受信部に向けて操作してください。

● (撮影)のとき

表示パネルに が表示されるまで / ボタンを押し、撮影します。



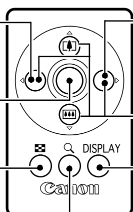
①ズームボタンで構図を決めます。

②シャッターボタンを押します。撮影メニューの[リモコン]で設定した時間(0秒/2秒/10秒)ののちに撮影されます。

●ボタンを押すたびに、液晶モニター表示(情報表示なし)/液晶モニター表示(情報表示あり)/液晶モニター非表示の切り換えができます。

● (再生)のとき

表示パネルに が表示されます。



●前の画像を表示します。

●動画の再生をします。

●9画像ずつまとめて表示します(インデックス再生)。

●次の画像を表示します。

●拡大表示時、表示位置を切り換えます。

●インデックス再生時、選択画像を切り換えます。

●ボタンを押すたびに、情報表示を切り換えます。

●ボタンを押すたびに、約2.5倍、約5倍、約10倍に拡大して表示します。

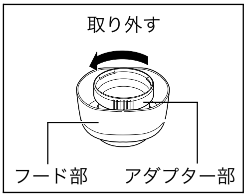
- 以下の場合は、使用できる距離が短くなります。
  - ・リモコン受信部に対して斜めに使用する場合
  - ・カメラに強い光があたっている場合
  - ・電池が消耗している場合

- 動画の編集やプリントは操作できません。
- カメラを三脚に取り付けて、静物などを撮影するときは、リモコン受信部（p. 176イラストの1）に向けて、横からリモコン操作すれば、リモートレリーズのように手ブレを防いで撮影することができます。このとき、撮影メニューの［リモコン］で［設定時間］を［0秒］にしておくことをおすすめします。

レンズフードLH-DC30（別売）を取り付ける

ストロボを使わずに広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外の光がレンズに入らないように、レンズフードを取り付けることをおすすめします。

- レンズフード装着時は、他の光学アクセサリー（別売）を同時に取り付けられません
- LH-DC30 は、アダプター部とフード部から構成されています。ご購入時には、図のように合体されていますので、矢印の方向に回して２つに分けてください。



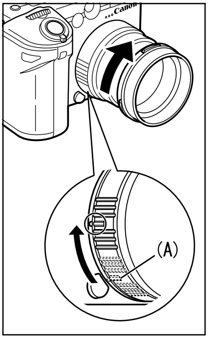
1 **カメラの電源を切り、リング取り外しボタンを押して、レンズ周りのリングを外す**



付録

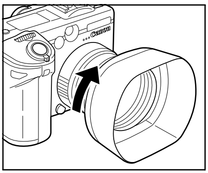
レンズフードLH-DC30（別売）を取り付ける（つづき）

2



アダプター部の（A）をリング取り外しボタンに合わせてから、▽印まで回して取り付ける

3

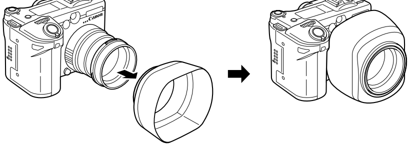


フード裏側の●をアダプターの●に合わせてから、♀まで回して取り付ける

- 取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら反対方向に回します。

- レンズフード装着時に、内蔵ストロボを使用すると、画面が欠け（ケラレ）て、画像の一部が暗くなります。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。

- レンズフードを使用しないときは、フード部を外し、図のようにカメラに収納できます。



外付けストロボ（別売）の使いかた

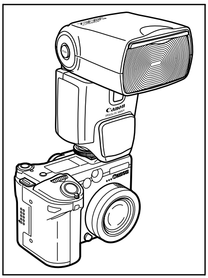
別売の外付けストロボを取り付けると、より自然で鮮明なストロボ撮影ができます。

キヤノンスピードライト 220EX、420EX、550EX、580EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX を取り付けると（p. 181）、自動調光で発光します（**M** モードまたは［自動調光］［切］のときを除く）。それ以外のストロボをお使いの場合、マニュアルで発光するか、または発光しない場合があります。

お使いのストロボの取扱説明書も併せてご覧ください。

＊ スピードライト 220EX、420EX、550EX、580EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX の取扱説明書に記載されている撮影機能の一部は、このカメラに取り付けたときに、お使いいただけません。このカメラでお使いになる場合は、最初に本書をお読みください。

1



カメラ上部のアクセサリーシューに取り付ける

2 **外付けストロボの電源を入れ、モードレバーを（撮影）に合わせる**

3 **モードダイヤルを 、 以外の任意の位置にする**

スピードライト 220EX、420EX、550EX、580EX、マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX をお使いの場合

- AUTO、 、 、 、**P**、**Tv**、**Av** で、［ストロボ自動調光］が［入］のときは自動調光で発光します。ストロボ同調最高シャッタースピードは 1/250 秒です。

- **M** または、[ストロボ自動調光] が [切] のときは、マニュアル発光します。このときのストロボ同調最高シャッタースピードは、1/250 秒です。絞り数値は、ストロボのガイドナンバーと被写体との距離から最適値を設定してください。ストロボのガイドナンバーは、カメラの ISO 感度で変わりますので、ISO 感度をご確認ください。
- 自動調光時は調光補正を、マニュアル発光時は発光量を調節できます(p. 104)。
- **M** または [ストロボ自動調光] が [切] のときは、カメラのストロボ発光量調整画面で(p. 105)、外付けストロボの発光量を調節できます。スピードライト 550EX/580EX、またはマクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX を取り付けているときは、ストロボ側とカメラ側の両方で調節できます(ストロボ側の設定が優先されます)。ストロボ側で調節するときは、ストロボをマニュアル発光モードにすることをおすすめします。なお、E-TTL 自動調光モードでも、調光補正値を変更すると発光量を変更できます。このとき、+2 段がフル発光の値になります。
  撮影するときのホワイトバランスは、ϟWB(ストロボ)に設定することをおすすめします。

他のキヤノン製ストロボをお使いの場合

- フル発光しますので、シャッタースピードと絞り数値を適切に設定してください。シャッター速度は 1/125 秒以下に設定し、絞り値は、ストロボのガイドナンバーと被写体との距離から最適値を設定してください。
  ホワイトバランスは、ϟWB(ストロボ)に設定することをおすすめします。

4 シャッターボタンを半押しする

- ストロボのパイロットランプが点灯すると、充電が完了です。

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

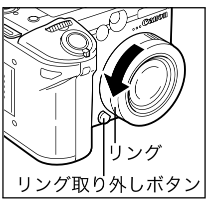
- 、、連続撮影では、外付けストロボは発光しません。
- ストロボ発光時は、ブラケット撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。
- 他社のストロボ（特に高圧タイプのストロボ）やストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

- スピードライト 220EX、420EX、550EX、580EX で使用できる機能は、次のとおりです。
  - ・自動調光（550EX/580EX は、E-TTL モードでお使いください。）
  - ・FE ロック機能（**M** では使用できません。）
  - ・ストロボ発光（先幕 / 後幕）（550EX/580EX をお使いの場合、ストロボ側の後幕設定が優先されます。）
  - ・日中シンクロ機能
  - ・スローシンクロ機能
  - ・ストロボ調光補正（550EX/580EX をお使いの場合に、カメラ側とストロボ側（E-TTL モード時）の両方で調光補正を行った場合は、ストロボ側の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。）
  - ・オートズーム機能（220EX には搭載されていません。）

マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX の取り付けかた

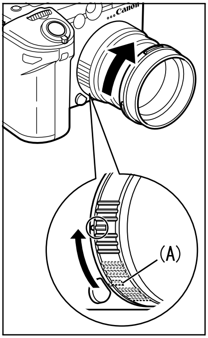
マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX を取り付ける場合、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58D が必要です。

1



カメラの電源を切り、リング取り外しボタンを押して、レンズ周りのリングを外す

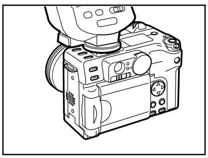
2



コンバージョンレンズアダプターの(A)をリング取り外しボタンに合わせてから、▽印まで回して取り付ける

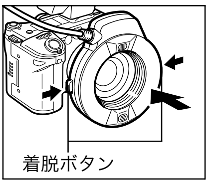
- **マクロツインライト MT-24EX を取り付ける場合、**マクロライトアダプター 58C(別売)を装着してから取り付けることをおすすめします。
- **クローズアップレンズ 250D(p. 185)とマクロリングライト MR-14EXまたはマクロツインライト MT-24EX を併用する場合、**クローズアップレンズ 250Dを取り付けたあと、マクロライトアダプター 58C(別売)を装着します。

3



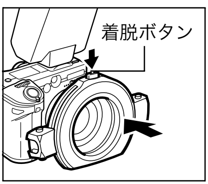
カメラ上部のアクセサリーシューに制御部を取り付ける

4



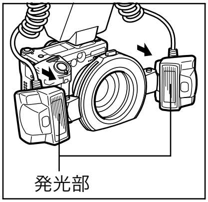
マクロリングライト MR-14EX

発光部の両側にある着脱ボタンを押しながら、コンバージョンレンズアダプターに取り付ける



マクロツインライト MT-24EX

取り付けリング上部にある着脱ボタンを押しながら、取り付けリングを、コンバージョンレンズアダプターまたは、マクロライトアダプター58Cに取り付ける



- 発光部を取り付け台座に取り付けます。

5 マクロボタンを押してマクロモードにし、[ND フィルター] を［入］にする

- マクロモードについて（p. 71）
- ND フィルターについて（p. 115）

- コンバージョンレンズアダプターを取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら反対方向に回します。

- マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX は、カメラの撮影モードを **P**、**Av**、**Tv** にするだけで、E-TTL 自動調光ストロボ撮影を行うことができます。
  本格的なマクロストロボ撮影を行うときは、**Av** または **M** で、絞りを絞って撮影してください。
- マクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX で使用できる機能は、次のとおりです。
  ・E-TTL 自動調光機能
  ・FE ロック機能
  ・ストロボ発光（先幕 / 後幕）
  （ストロボ側の後幕設定が優先されます。）
  ・日中シンクロ機能
  ・スローシンクロ機能
  ・ストロボ調光補正
- カメラ側とマクロリングライト MR-14EX、マクロツインライト MT-24EX 側の両方で調光補正を行った場合は、マクロリングライト側（E-TTL モード時）の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。

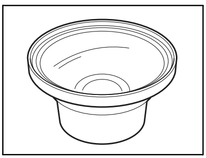
コンバージョンレンズ（別売）/ クローズアップレンズ（別売）の使いかた

別売のワイドコンバーター WC-DC58N、テレコンバーター TC-DC58N、クローズアップレンズ 250D（58mm）を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58D が必要です。（PowerShot G1/G2 用のワイドコンバーター WC-DC58 とテレコンバーター TC-DC58 は、正しく撮影できないことがありますので、おすすめできません。）

- コンバージョンレンズ* / クローズアップレンズを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- コンバージョンレンズ / クローズアップレンズは、絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。失明の恐れがあります。

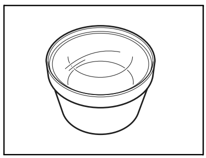
* コンバージョンレンズとは、ワイドコンバーターとテレコンバーターを指します。

ワイドコンバーター WC-DC58N



58mm のねじ径を持つ広角撮影をするための倍率変換レンズです。焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の 0.7 倍になります。

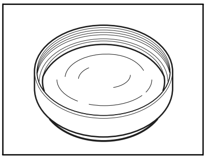
テレコンバーター TC-DC58N



58mm のねじ径を持つ望遠撮影をするための倍率変換レンズです。焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の 1.75 倍になります。

- コンバージョンレンズを取り付けて、外付けストロボを使用した場合、正しく自動調光されないことがあります。
- コンバージョンレンズにフィルターやレンズフードは取り付けられません。
- 内蔵ストロボを使用すると、画面が欠け（ケラレ）て、画像の一部が暗くなります。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。
- ワイドコンバーターは、ワイド端の位置でお使いください。
- テレコンバーターは、テレ端の位置でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像がケラレることがあります。

クローズアップレンズ 250D（58mm）

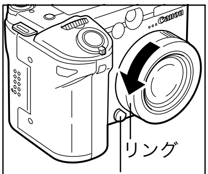


58mmのねじ径を持つ、簡単にマクロ撮影をするためのレンズです。マクロモードで、レンズ前面から被写体までの距離が5 cmの至近距離撮影ができます。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、ワイド端で44 × 33mm、ズーム位置86mm（35mmフィルム換算）では22 × 17mmです。

- クローズアップレンズを取り付けてストロボ撮影するときは、マクロリングライト MR-14EXまたはマクロツインライト MT-24EXをお使いになることをおすすめします。（マクロリングライト MR-14EXを取り付ける場合は、クローズアップレンズ 250Dに、別売のマクロライトアダプター58Cを取り付けます。）
- 内蔵ストロボを使用すると、画面が欠け（ケラレ）て、画像の一部が暗くなります。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。
- クローズアップレンズは、画角をテレ端の位置にしてお使いください。

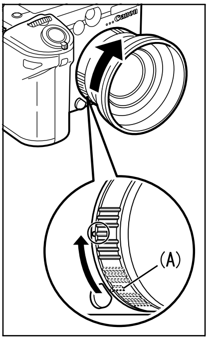
レンズを取り付ける

1



カメラの電源を切り、リング取り外しボタンを押して、レンズ周りのリングを外す

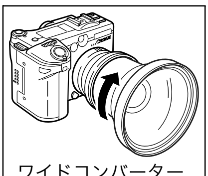
2



コンバージョンレンズアダプターの(A) をリング取り外しボタンに合わせてから、▽印まで回して取り付ける

- 取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら反対方向に回します。

3

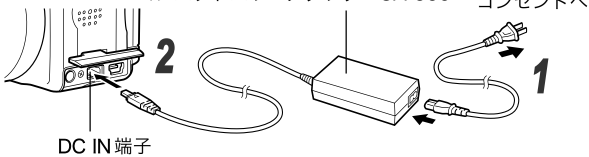

ワイドコンバーター
WC-DC58N装着時

レンズを矢印の方向に回して取り付ける

- レンズを取り付けても、ファインダーの画角は変わりませんので、撮影するときは液晶モニターをお使いください。
- レンズを取り付けてで撮影した場合、パソコンで「PhotoStitch」を使った合成は正しく行えません。
- レンズの保護のため、カメラのレンズを片手で固定しながら着脱してください。
- ご使用前には、レンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには、指紋がつきやすいのでご注意ください。

コンパクトパワーアダプター（別売）を使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、パソコン、またはプリンターと接続するときは、コンパクトパワーアダプター CA-560（別売）の利用をおすすめします。



1 コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む

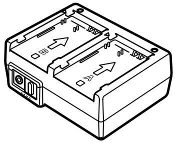
2 カメラの端子カバーを開き、コンパクトパワーアダプターのDCプラグをDC IN端子に接続する

- 使用後は、コンパクトパワーアダプターを取り外してください。

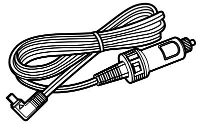
- コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しは、必ずカメラの電源を切ってから行ってください。
- コンパクトパワーアダプター CA-560は、バッテリーパック BP-511A/511/512/514 を使用する機器以外には使用しないでください。

- 海外で使うとき（p. 191）

バッテリーチャージャー（別売）/カーバッテリーケーブル（別売）を使う



バッテリーチャージャー
CG-570



カーバッテリーケーブル
CB-570

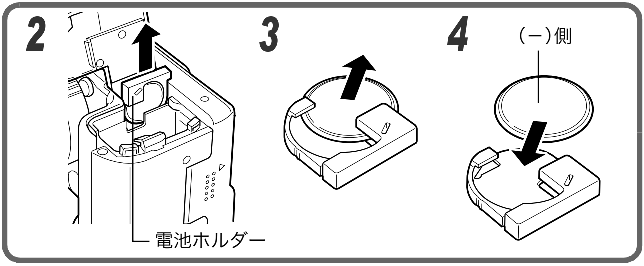
別売のバッテリーチャージャー CG-570 と別売のカーバッテリーケーブル CB-570 をお使いになると、自動車のシガーライターソケットから電源を取って、バッテリーを充電できます。また、別売のコンパクトパワーアダプター CA-560 または CA-570 を接続すれば、家庭用電源からバッテリーパック BP-511A または別売の BP-511/512/514を２個まで続けて充電できます。
充電方法については、各製品の取扱説明書をご覧ください。

コイン型リチウム電池の交換

カメラの電源を入れたとき、日付 / 時刻の設定メニューが表示された場合は、コイン型リチウム電池の残量が低下し、日付の設定が消えています。市販のコイン型リチウム電池（CR2016）をお求めのうえ、次の手順で交換してください。

最初の電池は工場出荷時に組み込まれていますので、ご購入後の電池の寿命は短い場合があります。

⚠ ● コイン型リチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。



1 **電源を切り、バッテリーカバーを開く（p. 21）**

2 **バッテリーを取り出して、電池ホルダーの底に爪をかけて引き出す**

3 **電池の端を矢印の方向に爪で押し出す**

4 **新しい電池の（−）側を上にして、電池ホルダーに取り付ける**

5 **電池ホルダー、バッテリーを元に戻し、バッテリーカバーを閉じる**

海外で使うとき

このデジタルカメラは、海外でもお使いになれますが、次のことにご注意ください。

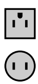
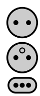
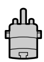
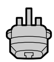
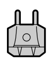
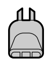
テレビでの再生

ビデオ出力方式は、初期設定では、日本国内で採用している NTSC 方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL 方式：主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください（p. 50）。

電源について

バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターは、AC100～240V　50/60Hz までの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります（1 つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります）。変換アダプターについては、旅行代理店などで確認の上、あらかじめご用意ください。

■海外の電源コンセントの種類

タイプ	A	B	BF	C	S
コンセントの形状					
変換プラグ	不要です				

付録

海外で使うとき（つづき）

主な国名と使用するプラグの種類

● 北米	
アメリカ合衆国	A
カナダ	A

● ヨーロッパ	
アイスランド	C
アイルランド	C
イギリス	B. BF
イタリア	C
オーストリア	C
オランダ	C
ギリシャ	C
スイス	C
スウェーデン	C
スペイン	A. C
デンマーク	C
ドイツ	C
ノルウェー	C
ハンガリー	C
フィンランド	C
フランス	C
ベルギー	C
ポーランド	B. C
ポルトガル	B. C
ルーマニア	C

● アジア	
インド	B. C. BF
インドネシア	C
シンガポール	B. BF
スリランカ	B. C. BF
タイ	A. BF. C
大韓民国	A. C
中華人民共和国	A. B. BF. C. S
ネパール	C
パキスタン	B. C
バングラデシュ	C
フィリピン	A. BF. S
ベトナム	A. C
香港特別行政区	B. BF
マカオ特別行政区	B. C
マレーシア	B. BF. C

● オセアニア	
オーストラリア	S
グアム	A
タヒチ	C
トンガ	S
ニュージーランド	S
フィジー	S

● 中南米	
アルゼンチン	BF. C. S
コロンビア	A
ジャマイカ	A
チリ	B. C
ハイチ	A
パナマ	A
バハマ	A
プエルトリコ	A
ブラジル	A. C
ベネズエラ	A
ペルー	A. C
メキシコ	A

● 中近東	
イスラエル	C
イラン	C
クウェート	B. C
ヨルダン	B. BF

● アフリカ	
アルジェリア	A. B.BF. C
エジプト	B. BF. C
カナリア諸島	C
ギニア	C
ケニア	B. C
ザンビア	B. BF
タンザニア	B. BF
南アフリカ共和国	B. C. BF
モザンビーク	C
モロッコ	C

- バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターを海外旅行用の電子変圧器などに接続すると故障のおそれがありますので使用しないでください。
- このカメラの保証書は、国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様ご相談センター」にご相談ください。

カメラのお手入れ

カメラやレンズ、ファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

カメラ	：やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。
レンズ	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。 ●カメラやレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンター（別紙の「修理サービスご相談窓口」をご参照ください）にご相談ください。
ファインダー 液晶モニター	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。 ●液晶モニターやファインダーの表面を強くこすったり、押したりすると、表面にキズがつきますので、ご注意ください。

●絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

付録

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により、記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot G6

カメラ部有効画素数	：約710万画素
撮像素子	：1/1.8型 CCD（総画素数 約740万画素）
レンズ	：7.2（W）－28.8（T）mm（35mmフィルム換算 35（W）－140（T）mm）F2.0（W）－3.0（T）
デジタルズーム	：最大約4.1倍（光学ズームレンズと合わせて最大約16倍のデジタルズームが可能）
光学ファインダー	：実像式ズームファインダー、視野率約80% 視度調整機能　－3～＋1m^{-1}（ディオプトリ相当）
液晶モニター	：2.0型低温ポリシリコンTFT液晶カラーモニター、約11.8万画素　視野率100%
AF方式	：TTLオートフォーカス（コンティニュアス/シングル） AFロックおよびマニュアルフォーカス可能 測距枠：9点（AiAF）/1点（位置は任意設定可能）
撮影距離（レンズ先端より）	：通常撮影：50cm～∞ マクロ撮影：5～50cm（W）/15～50cm（T） スーパーマクロ撮影： 5～20cm（W～86mm相当時（35mmフィルム換算）） マニュアルフォーカス撮影： 5cm～∞（W）/15cm～∞（T）
シャッター	：メカニカルシャッター＋電子シャッター
シャッタースピード	：15～1/2000秒 ・撮影モードにより異なる ・1.3　秒以上のスローシャッター時はノイズリダクション処理あり
測光方式	：評価測光/中央部重点平均測光/スポット測光（中央固定/AF枠連動）
露出制御方式	：プログラムAE/シャッタースピード優先AE/絞り優先AE/マニュアル露出　AEロック可能
露出補正	：±2段（1/3段ステップ）　AEB撮影可能
感度	：オート、ISO50/100/200/400相当

（W）：ワイド端　（T）：テレ端

ホワイトバランス	：TTLオート/プリセット(太陽光/くもり/電球/蛍光灯/蛍光灯H/ストロボ)/マニュアル(マニュアル1/マニュアル2)
内蔵ストロボ	：オート＊/常時発光＊/発光禁止 ＊赤目緩和設定可能
内蔵ストロボ撮影範囲	：70cm～5m(W)/70cm～4m(T) (ISO100相当時)
外部ストロボ接点	：アクセサリーシュー部　シンクロ接点 以下のストロボの使用を推奨 キヤノン スピードライト220EX/420EX/550EX/580EX マクロリングライト MR-14EX マクロツインライト MT-24EX
ストロボ調光補正	：±2段(1/3段ステップ)、FEロック/スローシンクロ/先幕、後幕シンクロ可能
撮影モード	：オート クリエイティブゾーン：プログラム/シャッタースピード優先/絞り優先/マニュアル/カスタム1/カスタム2 イメージゾーン：ポートレート/風景/夜景/スティッチアシスト/動画
連続撮影	：高速連続撮影：約2.0画像/秒 通常連続撮影：約1.2画像/秒 (ラージ/ファイン、液晶モニター非表示時)
インターバル撮影	：撮影間隔：約1～60分(1分単位) 撮影枚数：2～100枚(最大画像数は、CFカードの容量による)
セルフタイマー	：約10秒/約2秒後に撮影
ワイヤレスコントローラー	：撮影/再生可能(本体に付属) 撮影時はレリーズボタン操作から瞬時/約2秒後/約10秒後に撮影
パソコン接続撮影	：USB接続時、付属のソフトウェアで撮影可能
記録媒体	：コンパクトフラッシュカード(Type IおよびType II対応)
画像ファイルフォーマット	：DCF準拠＊1　DPOF対応
画像記録フォーマット　(静止画)	：JPEG (Exif 2.2)＊2/RAW
(動画)	：AVI(画像データ：Motion JPEG/音声データ：WAVE(モノラル))
圧縮率	：スーパーファイン/ファイン/ノーマル

記録画素数	（静止画）	：ラージ：3072 × 2304 画素 ミドル 1：2592 × 1944 画素 ミドル 2：2048 × 1536 画素 ミドル 3：1600 × 1200 画素 スモール：640 × 480 画素
	（動画）	：640 × 480 画素（30 秒）＊ 320 × 240 画素（3 分）＊ 160 × 120 画素（3 分）＊ 640：10 フレーム / 秒 320 160：15 フレーム / 秒 ＊（　）内は 1 回の撮影での最長記録時間です。
再生モード		：シングル再生（ヒストグラム表示可能）/ インデックス再生（サムネイル 9 画像） 拡大再生（液晶モニターで約 10 倍に拡大可能） スライドショー 音声メモ（最長約 60 秒まで記録可能）
ダイレクトプリント		：CP ダイレクト /BubbleJet ダイレクト / PictBridge に対応
表示言語		：日本語 / 英語 / ドイツ語 / フランス語 / オランダ語 / デンマーク語 / フィンランド語 / イタリア語 / ノルウェー語 / スウェーデン語 / スペイン語 / ロシア語 / ポルトガル語 / 中国語
マイカメラ（カスタマイズ）機能		：起動画面 / 起動音 / シャッター音 / 操作音 / セルフタイマー音が、以下の方法で設定が可能。 1. このカメラで記録 2. 付属のソフトウェアやオンラインフォトサービス「CANON iMAGE GATEWAY」からダウンロード
CANON iMAGE GATEWAY 対応機能		：付属のソフトウェアを使って、CANON iMAGE GATEWAY の会員登録、画像のアップロード、オンラインアルバムサービス、携帯電話アルバム通知・閲覧サービス、カメラへのマイカメラコンテンツのダウンロード、オンラインプリントサービス、オリジナル写真集作成サービス、ホームプリンティングサービスなどが利用可能
インターフェース		：USB（mini-B：PTP[Picture Transfer Protocol]） 映像 / 音声出力端子（NTSC または PAL 切換可能、モノラル音声）

電源	：1. 充電式リチウムイオン電池（BP-511A）（付属／別売） 2. 充電式リチウムイオン電池（BP-511/512/514）（別売） 3. コンパクトパワーアダプター（CA-560）（別売） 4. カーバッテリー（別売のチャージアダプター/カーバッテリーケーブルキット CR-560 が必要）
動作温度	：0～40℃
動作湿度	：10～90%
大きさ	：104.9 × 72.8 × 73.1mm（突起部を除く）
質量	：約 380g（本体のみ）

＊1 DCF は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、DSC 等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

＊2 このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Print は、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print 対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

付録

バッテリー性能について

	撮影画像数		再生時間
	CIPA測定法準拠	液晶モニター非表示時	
バッテリーパック BP-511A （フル充電）	約300画像	約900画像	約400分

・撮影画像数は、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
・動画データは除きます。
・使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリー残量低下アイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影：常温（23±2℃）・常湿（50±20％）で、2回に1回ストロボを発光させながら、30秒間隔でワイド端とテレ端で交互に撮影し、10画像撮影後に電源切。十分な時間*が経過した後、再び電源を入れて同様の方法で撮影を繰り返す。
・付属のメモリーカードを使用
・CIPA測定法は液晶モニター表示
* 電池の温度が常温に戻るまでの時間

再生：常温（23±2℃）・常湿（50±20％）の環境において、1画像あたり3秒間隔で連続再生。

●バッテリーの取り扱いについて（p. 19）

CFカードの種類と記録可能画像数の目安

［太枠］付属のカード

		FC-32MH	FC-64MH	FC-128M	FC-256MH	FC-512MSH
L（ラージ） 3072 × 2304画素	S	9	19	40	81	163
		15	32	64	130	261
		33	67	136	273	547
M1（ミドル1） 2592 × 1944画素	S	11	24	49	99	198
		21	43	88	177	354
		43	88	176	355	709
M2（ミドル2） 2048 × 1536画素	S	18	38	76	154	308
		33	68	137	276	522
		67	136	274	548	1096
M3（ミドル3） 1600 × 1200画素	S	30	61	122	246	491
		54	109	219	440	879
		107	217	435	868	1736
S（スモール） 640 × 480画素	S	119	241	482	962	1893
		195	393	788	1563	3125
		336	676	1355	2720	5209
RAW＊ 3072 × 2304画素		3	7	16	33	68
動画 640 × 480画素	640	45秒	92秒	186秒	374秒	743秒
動画 320 × 240画素	320	91秒	183秒	368秒	735秒	1453秒
動画 160 × 120画素	160	241秒	486秒	973秒	1954秒	3906秒

＊ 確認用（サムネイル）画像の記録画素数によって、記録可能画像数は異なる場合があります。

・表示パネルには、3桁までしか表示されません（1000以上は、「999」と表示されます）。

・この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、撮影モードなどにより変わります。

・動画の1回の最長撮影時間は、640：30秒、320：3分＊、160：3分です。表中の数値は、繰り返し撮影した場合の最長時間です。

＊ 64MB以上のCFカード使用時

・S（スーパーファイン）、（ファイン）、（ノーマル）は圧縮率を表します。

付録

1画像の容量（目安）

記録画素数		圧縮率		
L	3072×2304画素	3045KB	1897KB	902KB
M1	2592×1944画素	2503KB	1395KB	695KB
M2	2048×1536画素	1602KB	893KB	445KB
M3	1600×1200画素	1002KB	558KB	278KB
S	640×480画素	249KB	150KB	84KB
RAW	3072×2304画素	7096KB		
動画	640×480画素	660KB/秒		
	320×240画素	330KB/秒		
	160×120画素	120KB/秒		

バッテリーチャージャー CG-580

定格入力	：AC100～240V（50/60Hz） 22VA（100V）～30VA（240V）
定格出力	：DC8.4V/1.2A
動作温度	：0～40℃
大きさ	：91×31×67mm
質量	：約115g

バッテリーパック BP-511A

形式	：充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：7.4V
公称容量	：1390mAh
充放電回数	：約300回
動作温度	：0～40℃
大きさ	：38×55×21mm
質量	：約82g

ワイヤレスコントローラー WL-DC100

電源	：コイン型リチウム電池 CR2025
動作温度	：0～40℃
大きさ	：35×6.5×56.6mm
質量	：約10g

コンパクトフラッシュカード

カードスロットタイプ	：Type I
大きさ	：36.4×42.8×3.3mm
質量	：約10g

コンパクトパワーアダプター CA-560（別売）

定格入力	：AC100～240V（50/60Hz） 60VA（100V）～75VA（240V）
定格出力	：DC9.5V/2.7A
動作温度	：0～40℃
大きさ	：57 × 28 × 104mm（本体のみ）
質量	：約180g

ワイドコンバーター WC-DC58N（別売）

倍率	：約0.7倍
焦点距離	：∞
レンズ構成	：3群3枚
撮影範囲（レンズ先端より）	：20cm～∞（ワイド端、PowerShot G6に装着時）
ねじ径	：58mm標準フィルターネジ （PowerShot G6に装着時は、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Dが必要）
大きさ	：直径：94.5mm　長さ：54.9mm
質量	：約275g

テレコンバーター TC-DC58N（別売）

倍率	：約1.75倍
焦点距離	：∞
レンズ構成	：3群3枚
撮影範囲（レンズ先端より）	：160cm～∞（テレ端、PowerShot G6に装着時）
ねじ径	：58mm標準フィルターネジ （PowerShot G6に装着時は、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Dが必要）
大きさ	：直径：75mm　長さ：50mm
質量	：約185g

クローズアップレンズ 250D（58mm）（別売）

焦点距離	：250mm
撮影範囲（レンズ先端より）	：10～25cm（テレ端、PowerShot G6に装着時）
ねじ径	：58mm標準フィルターネジ PowerShot G6に装着時は、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58Dが必要）
大きさ	：直径：60mm　長さ：12mm
質量	：約80g

索引

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後７年間です（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置をラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

各撮影モードで設定できる機能一覧

各撮影モードで設定できる機能は、以下のとおりです。
C1、**C2**のときは、登録時に設定した内容で撮影できます（p. 114）。

			AUTO						P	Tv	Av	M	参照先
記録画素数（静止画）	ラージ	L	○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	57
	ミドル1	M1	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	ミドル2	M2	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	ミドル3	M3	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	スモール	S	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
記録画素数（動画）	640×480画素	640	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	57
	320×240画素	320	–	–	–	–	–	○*	–	–	–	–	
	160×120画素	160	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	
圧縮率	スーパーファイン		○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	57
	ファイン		○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	
	ノーマル		○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
記録形式	JPEG		○	○	○	○	○	–	○*	○*	○*	○*	59
	RAW	RAW	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
ストロボ	オート		○*	○*	○	○*	–	–	○	–	–	–	61
	常時発光		–	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	発光禁止		○	○	○*	○	△*	○	○*	○*	○*	○*	
赤目緩和			○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	62
スローシンクロ		入	–	–	○	○	△	–	○	–	○	–	62
		切	○	○	–	–	△*	–	○*	○	○*	○	
ストロボ自動調光		入	○	○	○	○	○	–	○	○*	○*	–	104
		切	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	
ストロボ発光	先幕		○	○	○	○	○	–	○*	○*	○*	○*	106
	後幕		–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
ドライブモード	シングル撮影		○*	○*	○*	○*	△*	○*	○*	○*	○*	○*	–
	通常連続撮影		–	○	○	○	–	–	○	○	○	○	75
	高速連続撮影		–	○	○	○	–	–	○	○	○	○	
	10秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	73
	2秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
インターバル撮影			–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	107
AF枠の選択	AiAF（オート選択）		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○	○	○	○	85
	中央1点		○	○	○	○	–	–	○*	○*	○*	○*	
	マニュアル選択		–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	86
AF枠の選択（マクロモード時）	AiAF（オート選択）		○	○	–	○	–	–	○	○	○	○	85
	中央1点		○*	○*	–	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	
	マニュアル選択		–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	86
AFロック			–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	110
マニュアルフォーカス		MF	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	111
マクロ撮影			○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	71

		AUTO						P	Tv	Av	M	参照先
スーパーマクロ撮影		–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	72
デジタルズーム	入	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	74
	切	○*	○*	○*	○*	–	–	○*	○*	○*	○*	
セーフティシフト	入	–	–	–	–	–	–	–	○	○	–	83
	切	–	–	–	–	–	–	–	○*	○*	–	
露出補正		–	○	○	○	△	○	○	○	○	–	90
測光方式	評価測光	○	○	○	○	○	○	○*	○*	○*	○*	88
	中央部重点平均測光	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
	スポット測光	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
	中央固定	–	–	–	–	–	–	○*	○*	○*	○*	
	AF 枠連動	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
AE ロック / FE ロック撮影		–	–	–	–	–	–	○	○	○	–	101/103
ブラケット撮影	AEB	–	–	–	–	–	–	○	○	○	–	97
	フォーカスブラケット(1)	–	–	–	–	–	–	○(1)	○(1)	○(1)	○(1)	99
ホワイトバランス(2) WB		–(3)	○	○	○	△	○(4)	○	○	○	○	91
色効果		–	○	○	○	△	○	○	○	○	○	95
	コントラスト / シャープネス / 色の濃さ	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
フォーカス設定	CONT	○*	○*	○*	○*	△*	○	○*	○*	○*	○*	113
	SINGLE	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
ISO 感度 ISO		–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	–(5)	○	○	○	○(6)	94
鏡像表示	入	○*	○*	○*	○*	–	○*	○*	○*	○*	○*	47
	切	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
縦横自動回転	入	○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	116
	切	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
ND フィルター		–	–	–	–	–	○	○	○	○	○	115
RAW 内 JPEG 記録		–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	59

* 初期設定　○：設定可　△：最初の 1 画像で設定可　–：設定不可
　：電源を切っても、解除されません。

[日付 / 時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式] 以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます（p. 52）。

(1) マニュアルフォーカス時のみ使用できます。
(2) 色効果が [セピア]、[白黒] の場合は設定できません。
(3) ホワイトバランスは［オート］に設定されます。
(4) ホワイトバランス［ストロボ］は設定できません。
(5) カメラが自動的に設定します。
(6) ISO［AUTO］は設定できません。